

ケニア共和国
男女共同参画型農家経営推進プロジェクト
詳細計画策定調査報告書

平成 25 年 12 月
(2013年)

独立行政法人国際協力機構
経済基盤開発部

| |
|--------|
| 基盤 |
| JR |
| 13-283 |

ケニア共和国
男女共同参画型農家経営推進プロジェクト
詳細計画策定調査報告書

平成 25 年 12 月
(2013 年)

独立行政法人国際協力機構
経済基盤開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、ケニア共和国より「男女共同参画型農家経営推進プロジェクト」に対する技術協力の要請を受け、2013年6月から7月まで詳細計画策定調査団を派遣し、関連情報を収集するとともに協力の枠組みについてケニア政府関係者と協議を行い、調査結果を協議議事録（M/M）に取りまとめました。（調査結果を踏まえ、案件名称は「ジェンダー視点に立った農業普及推進プロジェクト」に変更されました。）

その後、JICAケニア事務所とケニア側関係機関の間で、討議議事録（R/D）案、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）案及び活動実施計画（PO）案の策定に関し協議を継続して行い、同年11月付けでJICAケニア事務所とケニア側関係機関の間でR/Dの署名を取り交しました。

この報告書が本計画の今後の推進に役立つとともに、この技術協力が両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待します。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた両国の関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成 25 年 12 月

独立行政法人国際協力機構
経済基盤開発部長 三浦 和紀

目 次

序 文
目 次
地 図
写 真
略語表

事業事前評価表

| | |
|------------------------------------------|----|
| 第1章 詳細計画策定調査の概要 | 1 |
| 1-1 調査団構成（JICA） | 2 |
| 1-2 調査日程 | 2 |
| 第2章 小規模農家の現状と課題 | 3 |
| 2-1 ケニアの小規模農家概況 | 3 |
| 2-2 ケニアの小規模農家におけるジェンダー課題 | 5 |
| 第3章 農業・畜産・水産省におけるジェンダー主流化の現状 | 7 |
| 3-1 農業・畜産・水産省と郡農業事務所の概要 | 7 |
| 3-1-1 農業・畜産・水産省（MALF）の概要 | 7 |
| 3-1-2 郡農業事務所の概要 | 9 |
| 3-2 ジェンダー主流化に係る方針 | 12 |
| 3-3 MALF ジェンダー主流化推進体制 | 13 |
| 3-3-1 MALF 農業部門における体制 | 13 |
| 3-3-2 地方事務所における体制 | 15 |
| 3-3-3 これまでの成果と課題 | 16 |
| 3-4 MALF 農業部門による小規模農家支援事業とジェンダー主流化 | 17 |
| 第4章 プロジェクト基本計画 | 21 |
| 4-1 要請内容の検討 | 21 |
| 4-2 協力の基本コンセプト | 24 |
| 4-3 協力の基本計画 | 25 |
| 4-4 案件名称の変更 | 29 |
| 4-5 実施体制 | 29 |
| 4-6 投入計画 | 30 |
| 4-7 前提条件、外部条件 | 30 |
| 第5章 評価5項目による評価 | 31 |
| 5-1 妥当性 | 31 |

| | | |
|-------------|----------------------|-----|
| 5-2 | 有効性 | 32 |
| 5-3 | 効率性 | 33 |
| 5-4 | インパクト | 33 |
| 5-5 | 持続性 | 34 |
| 5-6 | 評価結果の結論 | 34 |
| 第6章 実施上の留意点 | | 35 |
| 第7章 団員報告・所感 | | 36 |
| 7-1 | 「ジェンダーと開発」団員 報告 | 36 |
| 7-2 | 総括所感 | 42 |
| 付属資料 | | |
| 1. | PDM (Ver. 0) | 47 |
| 2. | 協議議事録 (M/M) | 51 |
| 3. | 討議議事録 (R/D) | 84 |
| 4. | ジェンダー主流化パッケージ (詳細版) | 104 |
| 4. | 面談録 | 106 |
| 5. | 農業省傘下プロジェクト情報共有会合議事録 | 136 |
| 6. | 小規模農家支援事業概要 | 138 |

地 図



写



Umoja 農家グループへの聞き取り



Evergreen 農家グループへの聞き取り



SHEP UP 支援農家の圃場 (Kikuyu)



署名式

真



Evergreen 農家グループへの聞き取り



Kikuyu サブ・カウンティ 農業事務所



SHEP UP 支援農家の圃場 (Kikuyu)



署名式

略 語 表

| 略 語 | 正式表記 | 和文表記 |
|-------|---------------------------------------------------------|------------------------|
| AfDB | African Development Bank | アフリカ開発銀行 |
| ASCU | Agricultural Sector Coordination Unit | 農業セクター調整ユニット |
| ASDS | Agricultural Sector Development Strategy | 農業セクター開発戦略 |
| ASDSP | Agricultural Sector Development Support Programme | 農業セクター開発支援プログラム |
| ATC | Agriculture Training Centre | 農業研修センター |
| CCU | County Coordination Unit | 郡調整ユニット |
| CDA | County Director of Agriculture | 郡農業事務所長 |
| C/P | Counterpart Personnel | カウンターパート |
| DAEO | Division Agricultural Extension Officer | 区農業普及オフィサー |
| DAO | District Agricultural Officer | 県農業事務所長 |
| EAAPP | Eastern Africa Agricultural Productivity Project | 東アフリカ農業生産性向上プロジェクト |
| FAO | Food and Agriculture Organization | 国連食糧農業機関 |
| FEO | Frontline Extension Officer | 前線普及員 |
| GDP | Gross Domestic Product | 国内総生産 |
| GEMS | Gender Equity Mobilization Support | ジェンダー平等・動員支援 |
| GIZ | Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit | ドイツ国際協力公社 |
| GNI | Gross Net Income | 国民総所得 |
| GoK | Government of Kenya | ケニア政府 |
| IEC | Information, Education and Communication | 情報・教育・コミュニケーション |
| IFAD | International Fund for Agriculture Development | 国際農業開発基金 |
| ILO | International Labour Organization | 国際労働機関 |
| JICA | Japan International Cooperation Agency | 国際協力機構 |
| KAPAP | Kenya Agriculture Productivity and Agribusiness Project | ケニア農業生産性・アグリビジネスプロジェクト |
| KARI | Kenya Agriculture Research Institute | ケニア農業研究所 |
| KSh | Kenyan Shilling | ケニア・シリング |
| M&E | Monitoring and Evaluation | モニタリング・評価 |
| MALF | Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries | 農業・畜産・水産省 |
| MoA | Ministry of Agriculture | 農業省 |

| | | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------|
| NAAIP | National Accelerated Agricultural Input Access Programme | 全国農業資材アクセス促進プログラム |
| NIB | National Irrigation Board | 国家灌漑公社 |
| NMK | Njaa Marufuku Kenya | キック・ハンガーアウト・ケニア・プロジェクト |
| PSDA | Promotion of Private Sector Development in Agriculture | 農業における民間セクター振興プロジェクト |
| RICE-MAPP | Rice-based and Market-oriented Agriculture Promotion Project | 稲作を中心とした市場志向農業振興プロジェクト |
| SCAO | Sub-county Agricultural Officer | サブ・カウンティ農業事務所長 |
| SHDP | Smallholder Horticulture Development Project | 小規模園芸農家開発プロジェクト |
| SHEP | Smallholder Horticulture Empowerment Project | 小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト |
| SHEP UP | Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion Unit Project | 小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト |
| SHoMaP | Small Holder Horticultural Market Access Programme | 小規模園芸農民市場アクセスプログラム |
| Sida | Swedish International Cooperation Agency | スウェーデン国際開発協力庁 |
| THVCP | Traditional High Value Crops Project | 伝統的高価値作物プロジェクト |
| TOT | Training of Trainers | 講師向け研修 |
| USAID | United States Agency for International Development | 米国国際協力庁 |
| WB | World Bank | 世界銀行 |

事業事前評価表

1. 案件名

国名：ケニア共和国

案件名：ジェンダー視点に立った農業普及推進プロジェクト

Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国の農業セクターにおけるジェンダーの現状と課題

ケニア共和国（以下、「ケニア」と記す）では、農業生産労働のうち女性はその70%を担っている。また、農業・畜産・水産省（Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries : MALF）によれば、ケニアの小規模農民の69%が女性であり、その労働力の80%は女性が担っているという報告もみられる。このように、小規模農家において、女性は重要な役割を担っているにもかかわらず、女性農民の生産性は、土地、農業資材、農業技術、マーケット等への限定的なアクセスに起因して、男性農民と比較した場合2~3割程度も低いと見積もられている¹。2010年~2012年に世界銀行によりケニア全国の2,500世帯を対象に実施された調査でも、男性農民に比べて、女性農民の普及サービスへのアクセスは6~7割程度、肥料使用料は5~6割程度、改良種子へのアクセスは8~9割程度であり、また農業収入は低い場合には5割程度に留まるなど、ジェンダー間で格差が存在することが裏付けられている²。

こうした中、ケニアの農業セクター開発戦略（Agricultural Sector Development Strategy : ASDS）では、女性が農業に果たす役割を重視し、農業分野の事業においてジェンダー主流化を通じて男女共同参画を推進していくことを、農業開発に向けた主要な戦略のひとつとして掲げ、MALF（当時、農業省）は、2010年に「ジェンダー主流化戦略書」（Gender Mainstreaming Strategy）を策定した。同戦略書において、「農業生産を増大するために、すべての男女に平等な機会を与えること」をビジョンとして掲げ、MALFは「農業の持続的な生産性と生活の改善のために、ジェンダー視点に立った政策、プログラム、プロジェクトの実施を推進することを通じて、ジェンダー平等及び男女共同参画を促進していく」こととしている。

一方、独立行政法人国際協力機構（JICA）は、技術協力プロジェクト：ケニア国「小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト（SHEP）、2006~2009年」において、市場志向型農家経営の推進に取り組み、その際、事業におけるジェンダー主流化を推進してきた。その結果、農家経営における男女共同参画が促進され、農家の所得や生計の向上に寄与したことが同プロジェクトの終了時評価調査時に確認された。

こうした取り組みを評価し、MALFはSHEPにおけるジェンダー主流化の取り組み（男女共同参画型の農家経営を推進するための各種働きかけ）を省内に定着させ、小規模園芸農家のみならず、他の作物生産に携わる小規模農家に対しても同取り組みを普及していくための能力強化を目的とする本案件の実施を日本国政府に要請した。

¹ World Development Report : Gender Equality and Development, 2011, 世界銀行

² Kenya Gender Policy Note : Tapping the Potential of Farming in Kenya, 2013, 世界銀行

(2) 当該国におけるジェンダー及び農業セクターの開発政策と本事業の位置づけ

ジェンダー間の平等、女性の社会参加促進は、ケニア政府にとって、取り組むべき最重要課題のひとつであることが主たる政策文書において明確に記されている。まず、2010年に公布された憲法では、ジェンダー間の平等を保障している。また、2008年に策定された長期国家開発政策である「ケニア・ビジョン（Kenya Vision）2030」では、ジェンダー間の不平等を国家全体の経済成長に多大なコストをもたらす大きな要因のひとつとしての認識を示し、男女の平等な社会参加と共に、ジェンダー課題の克服を優先事項として掲げている。さらに、「ケニア・ビジョン 2030」の理念を農業セクターにおいて具体化するために策定されたASDSは、前述のとおり農業分野の事業におけるジェンダー主流化を、農業開発に向けた主要な戦略のひとつとして掲げている。本案件は、これらの重点政策と整合した支援である。

(3) 農業セクターにおけるジェンダーに対する我が国及びJICAの援助方針と実績

2003年8月に閣議決定した「新ODA（政府開発援助）大綱」の基本方針において、公平性の確保としてジェンダー視点の重要性が打ち出されているほか、2005年に策定した「ジェンダーと開発（GAD）イニシアティブ」において、日本政府はODA事業の全般にわたりジェンダー主流化を図ることがうたわれている。JICA第3期中期目標・中期計画（2012年4月～2017年3月）においても、第1期、第2期と同様に開発における男女共同参画の視点の重要性が明記され、「機構は事業実施に当たり、女性の開発への積極的参加及び開発からの受益確保について十分配慮し、女性の地位向上に一層取り組む」との方針が打ち出されている。また、第5回アフリカ開発会議（TICAD V）の成果文書である「TICAD V 横浜行動計画2013-2017」では、「小農及び小規模農家は、アフリカ諸国における大半の食料を生産していることから、これらの農民、特に女性に平等なアクセスと機会が確保されるよう特別な留意が必要である。これに関し、女性農民特有のニーズに対する配慮や、女性農民団体の活動拡大のための支援は、農業生産と農村所得の増加のために重要」と明記されている。

また、対ケニア国別援助方針においては、農業開発は5重点分野のひとつであり、その一環として農業の担い手である小規模農民の収入向上等に対する支援が柱のひとつとなっている。それら農民の7割近くが女性農民とされており、小規模農家支援事業を実施するMALFのジェンダー主流化に向けた能力向上を目的として実施される本案件は当該方針と合致している。

(4) 他の援助機関の対応

世界銀行（世銀）、国連食糧農業機関（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）、アフリカ開発銀行（AfDB）、スウェーデン国際開発協力庁（Sida）、米国国際開発庁（USAID）など、ケニアの農業セクターにおける主要援助機関において、農業セクター（特に小規模農家支援事業）におけるジェンダー視点の重要性は認識されており、各機関の農業セクター支援戦略・方針にも反映されている。

3. 事業概要

(1) 事業目的

本事業は、小規模農家の生計向上に資する男女共同参画型農家経営推進のための「ジェン

「ジェンダー主流化パッケージ」³を開発し、MALF及び郡農業事務所職員が、普及活動において同パッケージを適用・実践していけるよう人材育成を行うことにより、MALF及び郡農業事務所の小規模農家に対するジェンダー視点に立った普及サービス実施能力の向上を図り、もって小規模農家（男・女）の生計向上に寄与するものである。

(2) プロジェクトサイト／対象地域

本プロジェクトでは、MALFが実施する他の小規模農家支援事業と連携し、5カ所のパイロットサブ・カウンティ⁴において「ジェンダー主流化パッケージ」の開発・検証・実践に向けた支援を行う。

具体的なパイロット地域については、より多様な形態の小規模農家に対する裨益を視野に入れ、地域性や栽培作物等を考慮し、MALFを通じた連携事業との協議によりプロジェクト開始後に決定する。

(3) 本事業の裨益者（ターゲットグループ）

MALF職員（クロスカッティングイシューユニット、ジェンダー主流化委員会等）約20人、郡農業事務所ジェンダー担当官約10人、連携事業スタッフ⁵約50人、パイロット地域（5サブ・カウンティ）農業事務所職員約50人及び農家グループ約500人、「ジェンダー主流化パッケージ」に関する研修・ワークショップを受講したMALF及び郡農業事務所職員並びにこれら職員がかかわる小規模農家支援事業の対象農家グループ

(4) 事業スケジュール（協力期間）

2014年3月～2016年3月を予定（計36カ月）

(5) 総事業費

3.3億円

(6) 相手国側実施機関

MALFクロスカッティングイシューユニット、ジェンダー主流化委員会

(7) 投入（インプット）

1) 日本国側

- ・ 専門家派遣：チーフアドバイザー／ジェンダー主流化、農業とジェンダー、業務調整／研修、モニタリング・評価（M&E）、その他、必要に応じた分野の短期投入を検討（3年間で70MM程度）

³ 「ジェンダー主流化パッケージ」とは、男女共同参画型の農家経営を推進していくために、小規模農家支援事業において、ジェンダーの視点から実施していくべき一連の活動群、及びそれらの活動の実践にあたって必要な研修モジュール、チェックリスト、マニュアル、ガイドラインなどの実践ツールをと取まとめたもの。

⁴ 「サブ・カウンティ」は、郡（County）の一級下の行政区分。

⁵ 本案件では、複数のMALF事業との連携により、多様な作物を対象とするさまざまな小規模農家支援に適用可能な「ジェンダー主流化パッケージ」を開発する。

- ・本邦及び第三国研修：男女共同参画型農家経営推進に係る各種アプローチに係る研修等
- ・機材供与：プロジェクト活動実施に必要な資機材
- ・プロジェクト活動経費

2) ケニア国側

- ・カウンターパート（C/P）人員配置：MALF普及・研修局長以下5名程度（プロジェクト専属スタッフ2名を含む）
- ・プロジェクト拠点事務所スペース及び設備
- ・プロジェクトを実施するために必要な運営費用

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境に対する影響／用地取得・住民移転

① カテゴリ分類：C

- ② カテゴリ分類の根拠：本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) ジェンダー平等推進・平和構築・貧困削減

① 貧困

一般的に、ケニア国内の小規模農家は、貧困度合いが高い状況では、食用作物（メイズ等）の自給自足が中心であり、貧困度合いが改善されるに伴い、危機分散のため多角化を図り、園芸や畜産などを複合的に営むケースが多い。本プロジェクトでは、畜産や園芸などを複合的に行っている農家/農家グループのみならず、食用作物の自給自足中心である農家を対象とした支援事業においても適用可能なジェンダー主流化パッケージを開発する方針であり、より貧困度合いの高い農家における生計向上にも資することが期待できる。

② ジェンダー

本案件は、農業普及におけるジェンダー主流化を促進し、男女共同参画型農家経営を推進するものであり、目的そのものにジェンダー格差の是正が含まれている。

3) その他

特になし

(9) 関連する援助活動

1) わが国の援助活動

本プロジェクトでは、SHEPにおける一連の支援アプローチの中から「ジェンダー主流化アプローチ」部分を切り出し、その知見や教訓、研修内容をベースにし、多様な営農形態の小規模農家を対象とした支援事業において適用可能な「ジェンダー主流化パッケージ」を開発する。

現在、SHEPの後継案件である「小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト（SHEP UP）」が、MALF園芸作物局をC/Pとし、小規模園芸農家を対象としたSHEPアプローチを広く国内に普及していく支援を行っているのに対し、本プロジェクトにおいては、普及・研修局をC/Pとして、より多様な営農形態の小規模農家を対象とした支援事業に同パ

パッケージを適用していくことで、MALFのジェンダー視点に立った農業普及実践のための能力向上を支援するものである。

2) 他ドナー等の援助活動

本案件では、多様な営農形態の小規模農家を対象とした支援事業に適用可能な「ジェンダー主流化パッケージ」を開発するため、複数のMALF事業と連携を図る。世銀融資のMALF直轄プロジェクトである「東アフリカ農業生産性向上プロジェクト (Eastern Africa Agricultural Productivity Project : EAAPP)」は、最も可能性の高い連携先である。EAAPPは、適正技術の開発とその普及を通じ小規模農家の生産性向上を支援する目的で、ケニア、エチオピア、タンザニア、ウガンダの4カ国で展開されている広域案件であり、ケニア国内においては、酪農、コメ（陸稲）、コムギ、キャッサバを対象作物として、現在32サブ・カウンティで支援を展開している。EAAPPとの連携により、効率的な「ジェンダー主流化パッケージ」の開発が可能になるのみならず、EAAPPの対象地域である国内他地域、更にはEAAPP対象他3カ国への効率的な展開が期待できる。

4. 協力の枠組み

(1) 協力概要

1) 上位目標：

小規模農家の生計が男女ともに向上する。

<指標>

1. ジェンダー主流化パッケージを採用した小規模農家支援事業の対象農家グループコミュニティ及びグループメンバーの各世帯において、労働分担、意思決定等に係るジェンダー関係に正の変化が起こる。(プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定)
2. ジェンダー主流化パッケージを採用した小規模農家支援事業の対象農家グループ個々のメンバー(男・女)の生計が向上する。(プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定)

2) プロジェクト目標

MALFの小規模農家に対するジェンダー視点に立った普及サービス実施能力が向上する。

<指標>

1. ジェンダー主流化パッケージが、MALFにより承認される。
2. ジェンダーサブ・ユニットおよびジェンダー主流化委員会により、MALFが実施する小規模農家支援事業の少なくともX件に、ジェンダー主流化パッケージが導入される。
3. 対象農家グループのコミュニティ及びグループメンバーの各世帯において、労働分担、意思決定等に係るジェンダー関係に正の変化が起こる。(プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定)
4. 対象農家グループの個々のメンバーの生計が男女ともに向上する。(プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定)

3) 成果及び活動

<プロジェクト実施準備のための活動>

- 0-1 SHEPジェンダー主流化アプローチに係るC/Pの理解を促進するための勉強会を実施する。
- 0-2 SHEPジェンダー主流化アプローチに係るジェンダー主流化委員会メンバー及び連携事業スタッフの理解を促進するためのワークショップを開催する。
- 0-3 プロジェクト・メンバーの連携事業に係る理解を促進するための勉強会を開催する。
- 0-4 「ジェンダー主流化パッケージ」開発について、連携事業との間でその手法、実施計画等について合意する。
- 0-5 連携事業と共同で、プロジェクト対象地域となる2サブ・カウンティを選定する。

成果1：小規模農家の生計向上に資する「ジェンダー主流化パッケージ」が開発される。

<指標>

- 1-1 「ジェンダー主流化パッケージ」のコンテンツ（ジェンダー研修教材とガイドライン等）が作成される。
- 1-2 ToT研修の受講者により、「ジェンダー主流化パッケージ」が実践される。

<活動>

- 1-1 プロジェクト対象地域の郡農業事務所及びサブ・カウンティ農業事務所に対し、プロジェクト活動について説明する。
- 1-2 プロジェクト対象地域でジェンダー分析調査を実施する。
- 1-3 分析調査（1-2）の結果に基づき、アクション・プランと研修計画を策定する。
- 1-4 分析調査（1-2）の結果に基づき、モニタリング・評価（M&E）の枠組みを策定する。
- 1-5 ベースライン調査を実施してM&E用のデータを収集する。
- 1-6 研修計画（1-3）に基づき、SHEPジェンダー研修教材を参考に、ジェンダー研修教材を作成する。
- 1-7 プロジェクト対象地域のサブ・カウンティ農業事務所の職員にToTを実施する。
- 1-8 ToT（1-7）受講者が農家グループに対して実施する研修をモニターするとともに必要に応じ支援を行う。
- 1-9 アクション・プラン（1-3）で特定された活動（適正技術の導入等）を、連携事業がサブ・カウンティで実施する際、必要な支援を行う。
- 1-10 プロジェクト対象地域において、実施活動に係るM&E調査を行う。
- 1-11 M&E調査（1-10）の結果に基づき、上記1-1から1-10の活動実施に際して作成された研修教材やガイドラインを含む「ジェンダー主流化パッケージ」を作成する。

成果2：MALF及びパイロット郡農業事務所が、小規模農家支援事業において、「ジェンダー主流化パッケージ」の実践及び運用に係る適切な助言・指導・研修を実施できるようになる。

<指標>

- 2-1 「ジェンダー主流化パッケージ」活用に係る研修プログラムが実施される。
- 2-2 「ジェンダー主流化パッケージ」の研修受講者のうち少なくともXX%がパッケージの内容について理解し、実践に必要な知識を身に付ける。

<活動>

- 2-1 「ジェンダー主流化パッケージ」を実践するに足る能力を身に付ける事を目的に、MALFや郡農業事務所の関係者向けの研修プログラム及び教材を作成する。
- 2-2 上記研修プログラム（2-1）に基づき、研修を実施する。
- 2-3 成果1で開発された「ジェンダー主流化パッケージ」を検証するための対象地域3サブ・カウンティを選定する。
- 2-4 郡農業事務所のジェンダー担当官及び連携事業スタッフと共同で、「ジェンダー主流化パッケージ」の一連の活動を実施する。
- 2-5 活動結果等をレビューし、「ジェンダー主流化パッケージ」及びそれに係る研修プログラムの内容を見直す。

成果3：「ジェンダー主流化パッケージ」が、国内の他サブ・カウンティにおける小規模農家支援事業で活用される。

<指標>

- 3-1 「ジェンダー主流化パッケージ」の活用に係るワークショップが少なくとも3郡で実施される。
- 3-2 「ジェンダー主流化パッケージ」がケニア国内の農業研修センター（ATC）の研修カリキュラムや研修プログラムに取り入れられる。
- 3-3 少なくともXXサブ・カウンティにおいて、「ジェンダー主流化パッケージ」の活動が普及活動に取り入れられる。

<活動>

- 3-1 プロジェクト対象地域以外の郡やサブ・カウンティで、「ジェンダー主流化パッケージ」導入に係るワークショップを開催する。
- 3-2 「ジェンダー主流化パッケージ」を実践するための研修プログラムをATCで実施する。

4) 実施上の留意点

- ・ケニアにおける地方分権化の動きは、現段階では未確定な部分も多いため、中央と郡政府の関係、特に計画策定や予算決定プロセス、人の配置などの動向を注視し、必要に応じてプロジェクト活動計画を修正していく必要がある。
- ・連携事業の選定にあたっては、本プロジェクトが多様な営農形態の小規模農家に対する裨益をめざしていることを踏まえた当該事業ターゲットグループの考慮に加え、スムーズな案件実施のため実施体制上のフィージビリティ（特に意思決定プロセスや事業実施サイクルの整合性）を確認のうえ、MALFとの協議の下プロジェクト開始後に速やかに決定する。
- ・パイロット地域の選定については、より多様な形態の小規模農家に対する裨益をめざし

ていることを踏まえ、地域性や栽培作物等を考慮し、MALFを通じた連携事業との協議により、プロジェクト開始後に速やかに決定する。

- ・上位目標及びプロジェクト目標の指標の、ジェンダー関係の変化及び生計向上に関する具体的な指標に関しては、プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定する。

(2) その他インパクト

- ・本案件は、MALF他事業との連携を通じて実施されることから、MALFを対象に各種支援を実施する他の開発パートナーにも「ジェンダー主流化パッケージ」の内容、成果等が広く認知されることが予想され、将来的に当該パッケージが開発パートナーによる支援事業にも波及していくことが期待される。

5. 前提条件・外部条件（リスク・コントロール）

(1) 事業実施のための前提

- ・適切な能力と経験を有するC/Pが適正な人数配置される。
- ・適切な他小規模農家支援事業が連携事業として選定され、連携体制が維持される。

(2) 成果達成のための外部条件

- ・郡制の移行に伴う政府組織の改編（郡及びサブ・カウンティレベル）がプロジェクト活動に深刻な影響を及ぼさない。
- ・プロジェクト対象地域において深刻な社会不安が発生しない。

(3) プロジェクト目標達成のための外部条件

- ・郡制の移行に伴う政府組織の改編（中央省庁－郡政府間の連携体制）がプロジェクト活動に深刻な影響を及ぼさない。

(4) 上位目標達成のための外部条件

- ・ジェンダー主流化に関するケニア政府の政策が大幅に変更されない。

6. 評価結果

本事業は、ケニアの開発政策、開発ニーズ、日本の援助政策と十分に合致しており、また計画の適切性が認められることから、実施の意義は高い。

7. 過去の類似案件の教訓と本事業への活用

ケニアにおいて2006年から2009年にかけて実施されたSHEPでは、「ジェンダー主流化アプローチ」が取り入れられ、それにより農家経営における男女共同参画が促進されたことが、農家の所得や生計の向上に寄与したことが同プロジェクトの終了時評価調査時に確認された。

本プロジェクトでは、SHEPの「ジェンダー主流化アプローチ」を参考とし、その知見や教訓、研修内容をベースにし、園芸以外の多様な営農形態の小規模農家を対象とした支援事業において

適用可能な「ジェンダー主流化パッケージ」を開発する。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

4. (1) のとおり。

(2) 今後の評価計画

事業開始 6 カ月以内 ベースライン調査

事業終了 6 カ月前 終了時評価

事業終了 3 年後 事後評価

第1章 詳細計画策定調査の概要

ケニア共和国（以下、「ケニア」と記す）の農業セクター開発戦略（Agricultural Sector Development Strategy : ASDS）では、女性が農業に果たす役割を重視しつつ、農業分野の事業においてジェンダー主流化を通じて男女共同参画を推進していくことを、農業開発に向けた主要な戦略のひとつとして掲げている。そのために、農業・畜産・水産省（Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries : MALF）（当時農業省）は、2010年に「ジェンダー主流化戦略書」（Gender Mainstreaming Strategy）を策定し、同戦略書において、「農業生産を増大するために、すべての男女に平等な機会を与えること」をビジョンとして掲げ、MALFとして「農業の持続的な生産性と生活の改善のために、ジェンダー視点に立った政策、プログラム、プロジェクトの実施を推進することを通じて、ジェンダー平等及び男女共同参画を促進していく」こととしている。

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、技術協力プロジェクト：ケニア国「小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト（SHEP）、2006～2009年」において、市場志向型農家経営の推進に取り組み、その際、女性農民の参画促進等ジェンダー視点に立った活動を実施してきた。その結果、農家経営における男女共同参画が促進され、農家の所得の増加にも寄与したことが同プロジェクトの終了時評価調査時に確認された。こうした取り組みを高く評価し、MALFは、SHEPにおけるジェンダー主流化の取り組み（男女共同参画型農家経営を推進するための各種働きかけ）の推進を同省のジェンダー主流化戦略のひとつとして取り入れた。今後、それらを園芸農家のみならず、他の作物生産農家など、国内の幅広い農家に対する農業支援活動に取り入れ、農家の所得や生活向上を図っていくとしている。2010年より実施されている「小規模園芸組織強化・振興ユニットプロジェクト（SHEP UP）」においても、その活動中でジェンダー視点に立った活動が重視されてきているところである。

一方で、2012年6月に実施された「東アフリカ地域ジェンダー視点に立った農業・農村開発分野における情報収集・確認調査（ケニア）」において、MALFのジェンダー主流化推進能力は十分ではなく、SHEP及びSHEP UPのジェンダー主流化の取り組みについてもその定着が課題となっていることが確認された。また、他の作物生産に携わる農家へのジェンダー視点に立った普及の推進にも着手できていないことが確認されている。

こうしたなか、SHEP/SHEP UPの経験や知見を生かした男女共同参画型農家経営推進に係る取り組みを体系的に取りまとめ、それらをMALFが小規模園芸農家のみならず他の作物生産に携わる農家に対しても普及していくための能力強化を目的とする本案件がケニア国政府より要請された。

本詳細計画策定調査は、カウンターパート（C/P）機関であるMALFをはじめケニア国関係機関との協議及び現地調査を通じ、プロジェクト基本計画の策定、基本計画に関する先方政府との合意、基本計画の評価を目的として実施された。

① プロジェクト基本計画の策定

現地調査及び関係機関との協議を行い、プロジェクトの基本計画（達成目標、成果、活動、投入、協力期間、ターゲットグループ等）を策定する。

② プロジェクト基本計画及び実施体制に関する先方政府との協議、合意

プロジェクト基本計画及び実施体制をミニッツ（M/M）〔プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）、活動計画（PO）、討議議事録（R/D）案含む〕にて確認する。

- ③ 基本計画の評価（プロジェクトの妥当性の確認等）
基本計画について評価5項目の観点から評価する。

1-1 調査団構成（JICA）

| 担当分野 | 氏名 | 所属 |
|----------|---------|---------------------------------|
| 総括 | 西野 恭子 | JICA 経済基盤開発部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 室長 |
| SHEP連携 | 相川 次郎 | JICA 国際協力専門員 |
| ジェンダーと開発 | 久保田 真紀子 | JICA 国際協力客員専門員 |
| 農業・農村開発 | 安部 壮司 | JICA 農村開発部 特別嘱託 |
| 評価分析 | 原田 陽子 | グローバルリンクマネジメント株式会社 |
| 協力企画 | 後藤 菜穂 | JICA 経済基盤開発部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 |

1-2 調査日程

| | 評価分析 | ジェンダーと開発 | 農業・農村開発 | 団長/協力企画 | SHEP連携 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------|---------|--------|
| 6月15日 土 | 成田発（ドバイ経由） | | | | |
| 16日 日 | ナイロビ着 | | | | |
| 17日 月 | JICA事務所との協議 農業省との面談・協議 - 普及・研修局職員 - ジェンダー主流化委員会 | | | | |
| 18日 火 | 農業省との面談・協議 - 普及・研修局局長 - ジェンダー・サブユニット長 - 農業省作物管理局職員 ATDC視察・面談 | | | | |
| 19日 水 | Directorate of Gender, MNPDとの面談 | | | | |
| 20日 木 | 農業省傘下プロジェクト関係者との会合 農業省との面談・協議 - 普及・研修局副局長 - 政策局職員 | | | | |
| 21日 金 | EAAPP副コーディネータとの面談 NAAIAP副コーディネータとの面談 ASCUアドバイザーとの面談 | | | | |
| 22日 土 | 資料整理・分析 | | | | |
| 23日 日 | 資料整理・分析 | 羽田発ナイロビ着 | | | |
| | 団内打合せ | | | | |
| 24日 月 | 農業省普及・研修局との協議 ASDSPコーディネータとの面談 世界銀行農業担当との面談 EAAPPとの協議 | | | | |
| 25日 火 | (ナイロビ→Thika Town) 現地調査 - Thika West県農業事務所との面談 - Municipality区農業事務所との面談 - 農家グループ (Umoja S.H.G) 訪問 | | | | |
| 26日 水 | (Thika Town → Nyeri) 現地調査 - Kieni West県農業事務所との面談 - Mweigu区農業事務所との面談 - 農家グループ (Evergreen S.H.G) 訪問 | | | | |
| 27日 木 | 現地調査 - Nyeriカウンティ農業事務所との面談 - Wambugu ATC視察・面談 (Nyeri → ナイロビ) | | | | |
| 28日 金 | 農業省普及・研修局との協議 SHEP UPプロジェクト事務所との協議 | | | | |
| 29日 土 | 団内打合せ | | | 成田発 | |
| 30日 日 | 資料整理・分析 | | | ナイロビ着 | |
| | 団内打合せ | | | | |
| 7月1日 月 | 農業省普及・研修局とのミニツ案協議 EAAPPとの協議 | | SHEPUPサイト訪問 | | |
| Jul. 2 火 | EAAPPとの協議 農業省普及・研修局とのミニツ案協議 | | | | |
| Jul. 3 水 | ミニツ作成 High Value Traditional Cropプロジェクトとの面談 | | | | |
| Jul. 4 木 | ミニツ署名 | | | | |
| Jul. 5 金 | 大使館報告 JICA事務所報告 | | | | |
| Jul. 6 土 | ナイロビ発（ドバイ経由） | | | | |
| Jul. 7 日 | 成田着 | | | | |

第2章 小規模農家の現状と課題

2-1 ケニアの小規模農家概況

ケニアにおいて、国民総生産額（GDP）に占める農業セクターの割合は約27%⁶、労働人口で61%⁷、輸出額では65%⁸を占めており、近年工業化が進みつつも依然として農業大国といえる。茶（輸出第2位）、コーヒー、園芸作物は輸出の主産品であり、その他、トウモロコシ、綿花、サイザルアサ、除虫菊なども同国の代表的な生産物である。約450万人が生産・加工・流通段階に従事しており、そのほか約350万人が卸・小売りなどの雇用で間接的に恩恵を受けている⁴。ケニア農業・畜産・水産省（MALF）によると、自給自足の農家も含め、農業セクターは人口全体の80%の生計を支えており、そのほとんどが地方農村に居住していることが公表されている⁸。

同国で農業のインセンティブが高い理由として、栽培に適した気候をもち、品種多様化、周年栽培も可能であることがひとつにある。国土面積に占める農業地の割合は48%⁶で、うち16%が中西部を中心とした生産の潜在能力の高い農地である⁹。一方で90年代以降、早魃やエルニーニョ現象による大雨が増え、農作物被害も増加しているという情報もある。今回の調査対象地でも、Tika West サブ・カウンティで早魃被害、Kikuyu サブ・カウンティで大雨被害が近年増えてきているという報告があった。

同国の社会・経済における農業セクターの重要性が高い一方で、労働者1人当たりの農業セクター（漁業、狩猟、林業含む）におけるGDPは370USD⁶と高くなく¹⁰、農家及び関係従業者の十分な所得確保に行き着いていないのが実態といえる。貧困率は依然47.8%⁶であるが、その大半が農村滞在者といわれ、土地なし、またはわずかな土地しかもたない零細・小規模農家が多くを占めている。

ここ20年で同セクターの年間成長率は1980年代の3.5%から2000年初頭には1.3%にまで落ち込んだ⁸。一方で、ケニア統計局（Kenya National Bureau of Statistics）によると、生活コスト水準の上昇率は4%台が近年続いていることから、農家の実質の所得額と物価の差が開き続けており、特に小規模農家にとって家計の逼迫は以前より高まっている。

以上から、国内においては、食料安全保障や貧困削減の観点からも農業及び農村開発は重要な課題として位置づけられている。年々人口が増加する中、200~400万人が慢性的に食料緊急援助を必要としており、30%の子供に栄養失調が認められている¹¹。

ケニアの農業セクターの一翼を担っているのが、平均750haの大規模農家であり、彼らは商業作物や畜産を中心に生産し、豊富な資材、技術の投入により、小規模農家より高い品質、利益率を得ている¹²。

他方、所有面積が1エーカー以下の小規模農家が、全農業生産量の75%、市場流通量の70%を担っている¹²。サブ・セクター別では、園芸生産の80%¹³、メイズ生産の70%¹⁴、牛乳生産の80%¹⁴

⁶ 世界銀行「World Development Indicators」（2012年）

⁷ ILOデータ（2005年）

⁸ ケニア農業省報告書「National Agriculture Extension Policy」（2012年）

⁹ Embassy of Kenya in Brusselsのウェブサイトより参照。

¹⁰ 2012年度の1人当たりGNIは840USDである。（世銀データより）

¹¹ ケニア農業省報告書「NATIONAL FOOD AND NUTRITION SECURITY POLICY」（2011年）

¹² ケニア農業省報告書「National Agriculture Extension Policy」（2012年）

¹³ Video conference on high value horticulture for Eastern & Southern Africa, Kenya Development Learning Centre (KDLC, 2010)

¹⁴ 「National Report on Kenya」（2006, Samuel C.）

を担っている。

課題として、小規模農家における土地生産性が、大規模農家や中進国平均と比べて低いことがある。その原因として、農業資材の高騰（耕作地 1ha における平均肥料使用量は 32.4kg¹⁵）、普及サービスへのアクセスの制限（普及員 1 人当たりの農家数：1,500 人⁷）、マーケットへのアクセスの制限、自然災害等の天候リスクに対するレジリエンスが低いことなどが挙げられている。

今回行った調査の対象グループでも、大半が所有地エーカー未満の小規模農家であったが、資材不足などの理由から高い生産性が上げられず、農作物はすべて自家消費向けにつくっている農家がほとんどであった。現金獲得の手段としては、牛乳、卵、小型家畜等をわずかに販売している農家がみられた。

上に述べた食料品も含む物価の上昇は、小規模農家の家計を圧迫する一方で、商機を得るチャンスともなるといえる。ケニア全体の GDP 上昇により、国民の消費トレンドが、穀物中心から園芸作物や畜産品に移り変わっている。国連食糧農業機関（FAO）統計データベース（FAOSTAT）によると、1 年間当たりの 1 人当たり野菜供給量は 1990 年まで 30kg 以下だったのが、1995 年から 40kg 以上となった。政策上でも、特に園芸農業は経済を牽引するサブ・セクターとして、民間主導の競争力のあるセクターに転換させるとされている。また、畜産においても同様の傾向がみられる。世銀の公表データによると、2004～2006 年を 100 とした畜産生産基準（Livestock Production Index）は、2008 年に 115.4、2011 年に 123.4 と、5 年ほどの間に 2 割以上も伸びている。

ケニア政府では、「農業セクター開発戦略（ASDS）」（2010～2020 年）を打ち出し、その中で、農業製品の競争力を高めて生産性を向上させ、ビジネス化を推進していくことを目標のひとつに置いている。農業省のスローガンにも「ビジネス農業」がうたわれているほか、各援助機関も市場アクセス環境を改善しつつ、小規模農家の市場参入を促進することの有用性を頻繁に強調している。また、2012 年度の MALF 報告書「National Agriculture Extension Policy」では、既存の普及システムにあるような、トップダウンによる研修や巡回指導などといった規定どおりの普及指導ではなく、民間の力も巻き込み、現場のニーズに由来するアプローチに切り替える必要性が示唆されている。

2006 年より始まった JICA の SHEP では、農家が自分たちでマーケティング調査を行い、そこで知った売れ筋を基に生産計画を立て普及指導を選択・集中することにより小規模園芸農家の自律的なビジネスマインドを育成した。結果的に対象農家グループの収益倍増という成果を収めている。また、国際農業開発基金（IFAD）では、小規模農家支援のプログラムにおいて、国内市場の情報を分析した結果を農民組織に対して発信し、メンバーが最新の市場情報にアクセスできるよう支援している。

各種課題に対して、国主導で戦略的に乗り越えていく必要がある。農業省では 2015 年までの飢餓や貧困の根絶のために、国家予算の 10% 以上を農業セクターに費やすことを目標としてきた。一方で、省再編や郡制導入による地方分権推進等を通じ農政も目まぐるしく変わっており、地方への適切な予算配分や、地方における各種施策の円滑な実施に関しては、今後が不透明な状況にある。

¹⁵ FAOSTAT データ

2-2 ケニアの小規模農家におけるジェンダー課題

アフリカの農業におけるジェンダー課題として、最も一般的に語られるのは、女性の生産労働と再生産労働における過重労働の問題である。女性の1日の労働時間が男性より多いこと、農作業のみならず、家事やコミュニティ活動においても、女性が多くの作業を担っていることが、一般的に明らかになっている。また、農業生産性を高めるために不可欠な土地、普及サービス、資金、農業資材などへのアクセスが、男性農民と比較した場合、女性農民は著しく不利な立場に置かれているともいわれている。

ケニアにおいてもこの状況は同じで、FAOやIFADなどの報告書によると、農業生産労働のうちの70%を、家事等の再生産労働のほとんどを、女性が担っている。また、MALFによれば、ケニアの小規模農民の69%が女性であり、その労働力の80%は女性が担っているという報告もみられる¹⁶。このように、小規模農家において、女性は重要な役割を担っているにもかかわらず、彼女たちの生産性は、土地、農業資材、農業技術、マーケットなどへの限定的なアクセスに起因して、男性農民と比較した場合2~3割程度も低いと見積もられている¹⁷。2010年から2012年にかけて世界銀行が2,500世帯を対象にケニア全国で実施した調査でも、男性農民に比べて、女性農民の農業資材へのアクセスと農業収入がともに低いことが裏付けられており、特に女性戸主にその傾向が強いことが分かる(表2-1)¹⁸。

表2-1 普及サービス・農業資材等へのアクセス

(単位：%)

| | 普及サービス | 肥料 (年間使用量) | 改良種子 | 殺虫剤 |
|--------------------------|--------|---------------|------|-----|
| 男性を主たる農業従事者とする 男性戸主世帯 | 54 | 78 (148kg) | 89 | 57 |
| 女性を主たる農業従事者とする 男性戸主世帯 | 41 | 78 (92kg) | 85 | 56 |
| 女性戸主世帯 | 36 | 75 (82kg) | 75 | 41 |

表2-2 主要作物ごとの農業収入

(単位：KSh)

| | メイズ | 豆類 | ジャガイモ | トマト | バナナ |
|--------------------------|--------|--------|---------|---------|--------|
| 男性を主たる農業従事者とする 男性戸主世帯 | 70,392 | 92,944 | 101,703 | 105,642 | 93,358 |
| 女性を主たる農業従事者とする 男性戸主世帯 | 53,739 | 69,880 | 72,809 | 120,768 | 59,186 |
| 女性戸主世帯 | 42,202 | 58,168 | 52,561 | 60,809 | 69,432 |

さらに、慣習的な影響から、女性の多くは世帯内の意思決定過程に関与できていない場合が多

¹⁶ 「東アフリカ地域ジェンダー視点に立った農業・農村開発分野における情報収集・確認調査(ケニア)」(JICA、2012年)

¹⁷ World Development Report: Gender Equality and Development, 2011, 世界銀行

¹⁸ Kenya Gender Policy Note: Tapping the Potential of Farming in Kenya, 2013, 世界銀行

いとされている。世帯内の農作業の 70～80%を担っているにもかかわらず、下記の事例でも示されているとおり、何を、いつ、どのように栽培するのかといった営農に係る決定から、何を、いつ、誰に、どのように販売するのかといったマーケティングに係る決定に至るまで、その意思決定過程に関与できていない女性が多い。農作業の多くを担っている女性が意思決定過程に関与できていないこと、生産財にアクセスできていないことは、農村の貧困をより一層深刻なものにしている。

小規模農家のジェンダー課題

セントラル州南ムランガ県 (Murang'a South District)

村人にとって文化・慣習にのっとって行動することが大切とされる。文化的・社会的に男性らしく、あるいは女性らしく行動することが求められている。男性も女性も家事は女性の仕事であると考え。その一方で、女性は農作業の担い手でもある。男性の多くは賃金労働の口を探していて、仕事がうまく見つければ、男性が世帯の農作業に参加することはほとんどなくなる。また、村ではアルコールの問題も深刻で、男性の多くがアルコールに溺れ、その結果、農作業に従事しなくなっている。役所は、何とかこの問題の解決の図ろうとしているものの、まだ解決の糸口は見えていない。このように、女性は生産労働と家事の両方をひとりで担っているが、農業からの収入を含め、ほとんどすべての世帯資産を男性が握っている。たとえ、出稼ぎに行っているとしても、男性は世帯の決定権をすべて握っている。世帯の畑で何を生産し、どのように農業収入を使うのかを男性が決定するのである。一般的に、女性が夫から受け取るお金はとても少なく、それだけで家計を支えることはできない。そのため、彼女たちは、近隣の農家で賃労働に従事することが多い。また、男性は関心がないので、農業研修等が村で開催されても参加することはまずない。その一方で、女性は家事にあまり影響が出ない 1～2 日程度の研修にはよく参加している。もっとも、彼女たちが研修に参加しても、農地をどのように活用するかを決めるのは夫であるため、習った技術が必ずしも役に立つとはいえない。

(2011 年 SHEP UP ジェンダー分析調査より)

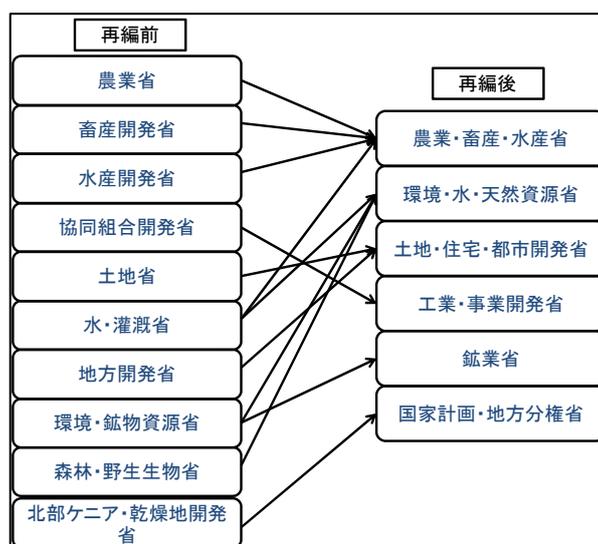
第3章 農業・畜産・水産省におけるジェンダー主流化の現状

3-1 農業・畜産・水産省と郡農業事務所の概要

ケニアでは、国民投票を経て、2010年8月に新憲法が公布された。本詳細計画策定調査は、2013年3月に実施された大統領選挙を経て、新憲法にのっとった政府組織の改編がちょうど軌道に乗り始めた時期に行われた。新憲法にうたわれた中央から地方への権限移譲に向け、中央省庁の再編及び地方行政府となる47郡政府の設置が進行し、それに合わせてさまざまな法令が施行され、新政府の形が徐々に明らかになってきた時期でもある¹⁹。

3-1-1 農業・畜産・水産省（MALF）の概要

中央省庁の再編により、旧体制で農業セクターに関連していた10の省庁の統廃合、管轄行政法人の主管庁への統合・吸収が実施されている（図3-1）。このうち旧農業省は、畜産開発省、水産開発省、そして水・灌漑省の灌漑局と統合され、農業・畜産・水産省（MALF）として、再編された。



出典：Organization of the Government of the Republic of Kenya (Executive Order No. 2/2013) より調査団作成

図3-1 中央省庁再編による農業セクター関連省庁の統合

しかし、MALFの場合、省としての統合はなされたものの、各業務の統廃合はなされていない。2013年7月時点で、MALFでは、農業大臣を筆頭に、農業部門(State Department of Agriculture)、畜産部門(State Department of Livestock)、水産部門(State Department of Fisheries)がそれぞれの筆頭次官(Principal Secretary)の下に、再編前の機能を各部門が保持している(図3-2)。

¹⁹ 本調査時点では、政府の大まかな枠組みは規定されていたが、細かな実務レベルにおいては、中央政府と地方政府の役割をはじめ、その多くが政府決定されていなかった。これらの点は、今後新体制による業務が走り始めてから徐々に明確になっていくものと思われる。したがって、本報告書における新体制に係る記述は、本調査時点で収集された情報によるものであり、今後変更される可能性があることを留意されたい。

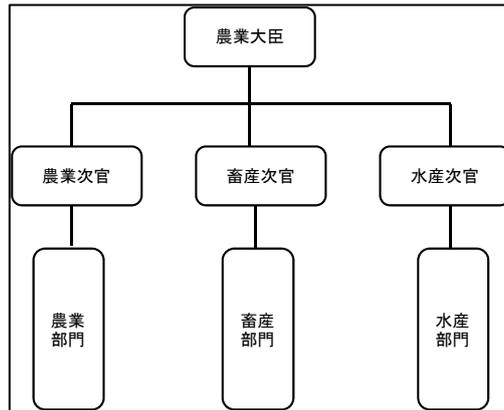


図 3 - 2 MALF の体制

MALF 農業部門では、2013 年 6 月下旬に次官が国会で承認・任命され、新体制の下、正式にスタートを切った。旧体制下の農業省は、本省の下に、州農業事務所（Provincial Director of Agriculture）、県農業事務所（District Agricultural Office）、区農業事務所（Divisional Agricultural Office）が設置され、末端の前線普及員（Frontline Extension Officer : FEO）を含め 5,000 人以上の職員を擁する一大組織であった。今回の組織改編に伴い、8 つの州事務所は 47 の郡農業事務所に分割され、県以下の事務所と共にそれぞれの郡政府の管轄下に移行することとなった²⁰（図 3 - 3）。

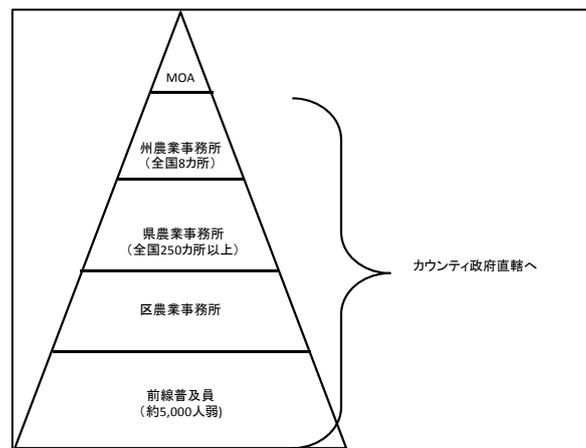


図 3 - 3 旧農業省組織体制

本省を残し、下部組織が郡政府直轄となったことで、中央政府は政策策定等に特化し、より住民に近い行政府である郡政府が住民サービスを担うこととなった。表 3 - 1 は、各種資料及び調査団による聞き取り調査からの情報を基に、中央政府と郡政府の主要な役割についてまとめたものである。基本的には、国家政策をはじめ、複数の郡にまたがる事項については、その機能が MALF に残り、1 つの郡が独自で決定・遂行できる事項については、郡政府の責務となる。したがって、例えば、本案件のように、その活動が複数の郡を対象として実施されるような事業についても、プロジェクト・ユニットが本省に置かれ、個々の活動については、それぞ

²⁰ ただし、今後 3 年間は移行期間とされ、職員の中央政府から郡政府への移籍はその後となる。

れの対象地域を管轄する郡政府と連携を取りながら実施していくことになる。

表 3 - 1 MALF 農業部門と郡政府の主要業務

| MALF 農業部門 | 郡政府 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> - 農業政策策定 - 国家食料安全保障政策策定 - 国家灌漑政策策定 - 研究・開発 - 郡に対する技術支援 - 農業機械関連 - 農業研修センター管理・運営 - 農業関連高等教育機関管理・運営 - 複数の郡にまたがる農業事業統括 - 郡間の調整 | <ul style="list-style-type: none"> - 住民サービスに係る事業全般 - 上記事業に係る政策決定 - 開発パートナーとの直接交渉²¹ |

今回の再編、また中央省庁の役割の変化により、MALF 農業部門においてもより政策策定に特化した組織体制への変更が迫られているが、本詳細計画策定調査団のケニア滞在中は、当該部門の組織図は確定しておらず、そのため各業務の所掌についても MALF 側から正式回答を得ることはできなかった。図 3 - 4 は、調査団滞在中に普及・研修局長より「Proposed (提案されている)」組織図として、手交されたものであるが、部局名の記載にとどまっている。

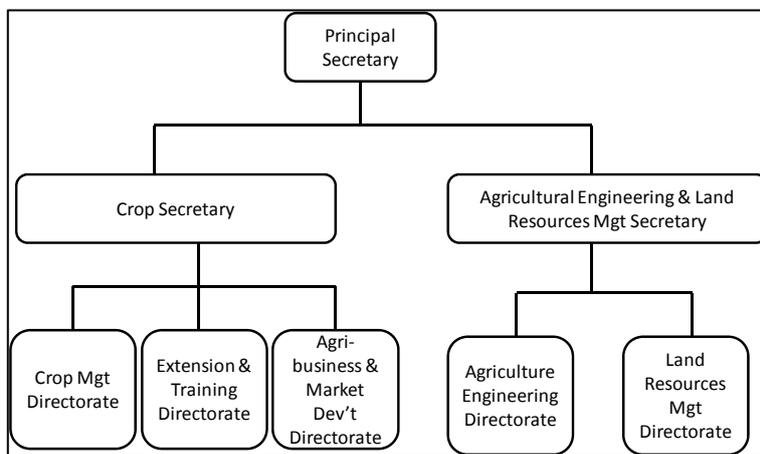


図 3 - 4 「Proposed」組織図 (2013 年 6 月末現在)

3 - 1 - 2 郡農業事務所の概要

郡制の導入に伴い、上述のようにケニア全土は 47 の郡に分割された。各郡には 1 つずつ郡農業事務所が設置され、その直轄としてかつての県農業事務所と区農業事務所がそれぞれサブ・カウンティ農業事務所 (Sub-county Agricultural Office) とワード農業事務所 (Ward Agricultural

²¹ 郡政府は、中央政府の関与なしに、自分たちが実施する開発事業に対する資金や技術支援を直接、開発パートナーに要請したり、それについて交渉したりすることができるようになった。

Office) として配置されている。各郡農業事務所には長である郡農業事務所長 (County Director of Agriculture : CDA) が任命され、CDA を補佐する作物、農業工学、アグリビジネスの各行政官がその下に置かれている。47 すべての郡農業事務所にこれら 4 名の行政官が配置され、各地域の特性や人材の有無によって、更なる行政官 (家政、アグライندگانストーリー等) の配置が決定されることになっている。郡農業事務所は、本省の管轄下にあった旧・州農業事務所とは異なり、本省からの介入を直接受けることも、また本省に対する報告義務もなくなり、郡政府の指揮下で業務を行うこととなる。本省と郡農業事務所間のコミュニケーションを確保するために、本省から各郡農業事務所にはリエゾン・オフィサーが派遣されている (図 3-5)。

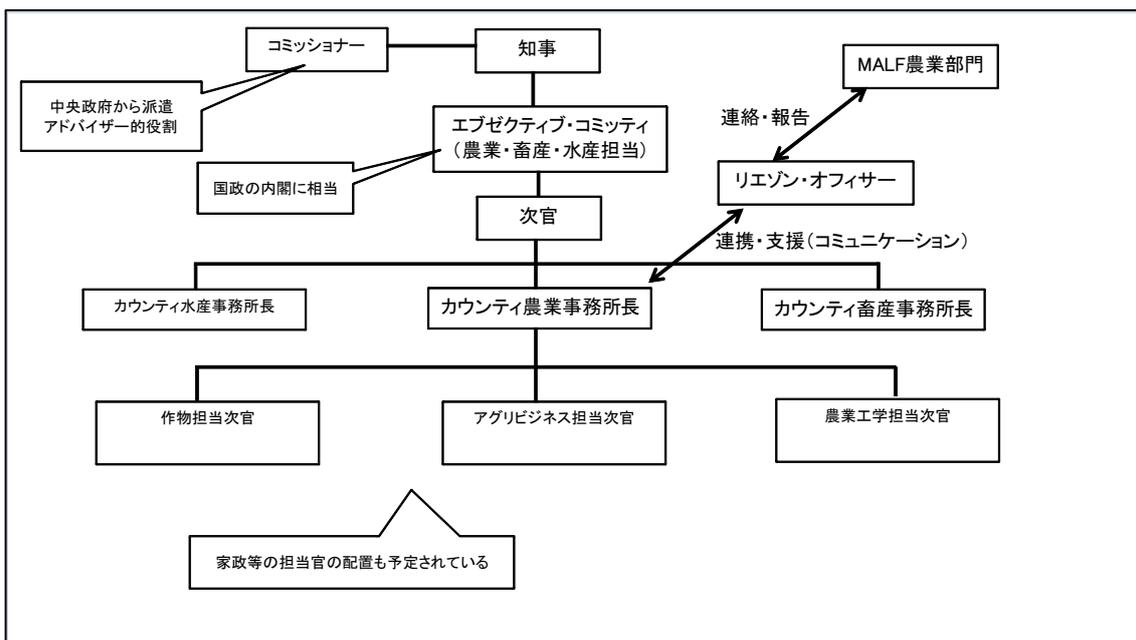


図 3-5 郡農業事務所を中心とした関連図

このように、本省と郡農業事務所の関係は、これまでの本省と州/県農業事務所との関係と大きく異なっているものの、サブ・カウティ及びワードレベルの農業事務所の活動には、当面は大きな変化はないものと思われる。これは、以前より各県における普及事業は県農業事務所を中心に実施されてきており、県/区農業事務所の業務はそのままサブ・カウティ及びワード農業事務所に引き継がれるからである。今回の調査で訪問したサブ・カウティ及びワード農業事務所の職員からの聞き取り調査においてもこの点は裏付けられている²²。

また、郡政府直轄となることで、予算面においてもこれまで農業省本省から予算を受け取っていた州/県/区農業事務所と異なり、郡農業事務所以下はすべて郡政府から予算拠出を受けることとなる²³。ただし、3-1-1 で述べたように、複数の郡を対象に実施される事業については、予算面でも郡政府の関与は受けず、本省に置かれたプロジェクト・ユニットから各対象地域の活動に直接拠出されることになっている。

²² ただし、今後、人事権は郡政府に一任されることになるので、サブ・カウティ、ワードの各農業事務所における人員体制に、郡ごとの独自性が出てくる可能性は十分にある。

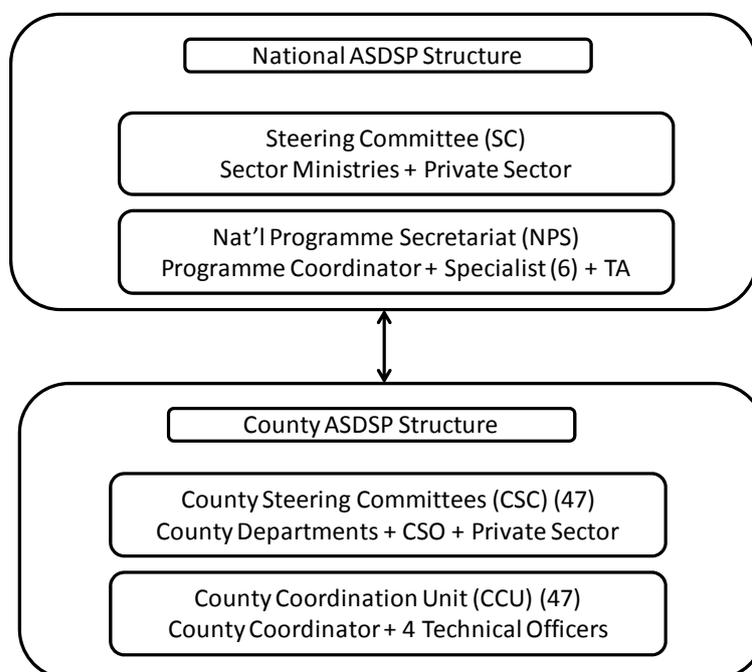
²³ 2013/14 年予算 (2013 年 7 月～2014 年 6 月) については、予算取りまとめの時期 (前年末) に郡政府の機能が整備されていなかったことから、これまでどおり本省に対する予算請求・承認を通じての予算配分となった。

Box1 : 農業セクター開発支援プログラム (ASDSP)

郡制への移行に伴い、郡内で実施される農業セクター事業間の調整を主たる業務とする農業セクター開発支援プログラム (Agricultural Sector Development Support Programme : ASDSP) のオフィスが各郡に設置された。ASDSP はスウェーデン政府の全面的な資金支援を得て実施されているプログラムで、10 を数える農業関連省庁間の調整を目的として、2005 年に設立された農業セクター調整ユニット (Agricultural Sector Coordination Unit : ASCU) の郡版である。ASCU と同様に「食料安全保障が確立し、繁栄した国家」をめざして策定された農業セクター開発戦略 (ASDS) の理念を、農業セクター事業間の効率的な調整を通じて実現することをめざしている。

予算規模は、5 年間でケニア国政府から 10 億 KSh、スウェーデン政府から約 50 億 KSh の、計約 60 億 KSh (約 70 億円) にのぼる。以下の図に示されている郡調整ユニット (County Coordination Unit : CCU) が、各郡の事務局の役割を果たすが、ユニット職員は基本的にすべて農業省本省からの出向職員で、各郡で実施される農業セクター事業間の調整、農業セクターに携わるさまざまなアクター〔市民社会 (CSO)、大学、研究所、農民組織、民間企業、開発パートナー等〕間の連携強化を主たる目的として活動し、自らが事業の実施機関となることはない。なお、CCU 間、及び農業セクター省庁とのコミュニケーションや連携を確保するために、全国レベルの事務局も設置されている。

今後、郡で農業事業を実施していく場合、CCU が各郡の農業事業の中でどのような機能、役割を果たすことになるのかを注視していく必要がある。



ASDSP の体制

3-2 ジェンダー主流化に係る方針

ジェンダー間の平等、女性の社会参加促進は、ケニア国政府にとって、取り組むべき最重要課題のひとつであることが主たる政策文書において明確に記されている。2010年に公布された憲法では、ジェンダー間の平等を保障している。また、2008年に策定された長期国家開発政策である「ケニア・ビジョン（Kenya Vision）2030」では、ジェンダー間の不平等を国家全体の経済成長に多大なコストをもたらす大きな要因のひとつとしての認識を示し、男女の平等な社会参加と共に、ジェンダー課題の克服を優先事項として掲げている。

Box2：ケニア・ビジョン 2030 におけるジェンダー平等達成に向けての提言

1. ジェンダー主流化活動を推進するための枠組み／政策の策定
2. ジェンダー課題、ニーズ、優先事項を確認し、それらの対処方法の特定
3. 公共セクターにおいて、職員の最低30%は女性とする
4. 事業計画策定のための性別データの収集

さらに、Kenya Vision 2030の理念を農業セクターにおいて具体化するために策定された農業セクター開発戦略（ASDS）は、農業セクターにおける年7%の平均成長率を達成するために取り組まなければならない課題のひとつとしてジェンダー不平等を掲げ、女性の土地所有、過重労働、低い教育レベルなどのジェンダー不平等に起因するさまざまな問題の解決を呼び掛けている。

これら主要政策文書におけるジェンダーの位置づけにかんがみ、旧農業省では2010年に「ジェンダー主流化戦略書」（Gender Mainstreaming Strategy）を策定し、ジェンダー主流化への省としてのコミットメントを明らかにしている。本戦略書においては、「農業生産を増大するために、すべての男女に平等な機会を与えること」をビジョンとして掲げ、農業省として「農業の持続的な生産性と生活の改善のために、ジェンダー視点に立った政策、プログラム、プロジェクトの実施を推進することを通じて、ジェンダー平等と男女の参加を促進していく」こととしている。本戦略書では、以下の9つの課題に対する行動計画を示し、ジェンダー主流化が省の方針であることを明確にしている。

Box3：「ジェンダー主流化戦略書」で取り組む9つの課題と行動計画

1. 省内の職員の能力強化、ジェンダー研修の実施
2. ジェンダー視点に立った職場の環境づくり
3. ジェンダー視点に立った調査、普及サービス
4. ジェンダー啓発情報と教育のための教材やメディアの開発
5. ジェンダー視点に立ったプログラム策定—ジェンダー指標、ジェンダー予算の導入
6. ジェンダー視点に立った政策と法の整備
7. 農村女性と若者の農業資源へのアクセスとコントロールの向上
8. ジェンダー主流化のためのネットワーキング強化
9. 省内におけるジェンダー・ユニットの適切な配置

郡制への移行が、これら主要政策文書の理念実現を目的として実施されていることから、MALF 農業部門において、上述のジェンダー主流化に係る方針及びその方向性に、今後大きな修正が加えられることはないものと思われる。

3-3 MALF ジェンダー主流化推進体制

本詳細計画策定調査実施時には、3-1-1で述べたように郡制移行後のMALF 農業部門の組織体制については不透明であったため、今後ジェンダー主流化を担当することになるセクションのMALF 内での位置づけ、また郡以下の農業事務所におけるジェンダー担当官の配置等についても確認することはかなわなかった²⁴。そのため、本節では、主として旧農業省（MALF 農業部門）におけるこれまでのジェンダー主流化推進体制を中心に述べることにする。

3-3-1 MALF 農業部門における体制

1990年代後半、旧農業省で初めて、省内事業のジェンダー主流化を担当するジェンダー平等・動員支援ユニット（Gender Equity Mobilization Support Unit : GEMS ユニット）が設立された。同ユニットは、2005年に普及部ジェンダー及びユース課（Gender and Youth Branch）に格上げされている。その後、何度かの組織改編を経て、現時点で、MALF 農業部門のジェンダー主流化に係る業務を一元的に担当しているのが、普及・研修局横断的課題（クロス・カッティング・イシュー）ユニットの下に設置されたジェンダーサブ・ユニットであり、ここにはサブ・ユニット長1名が配置されている（図3-6）。

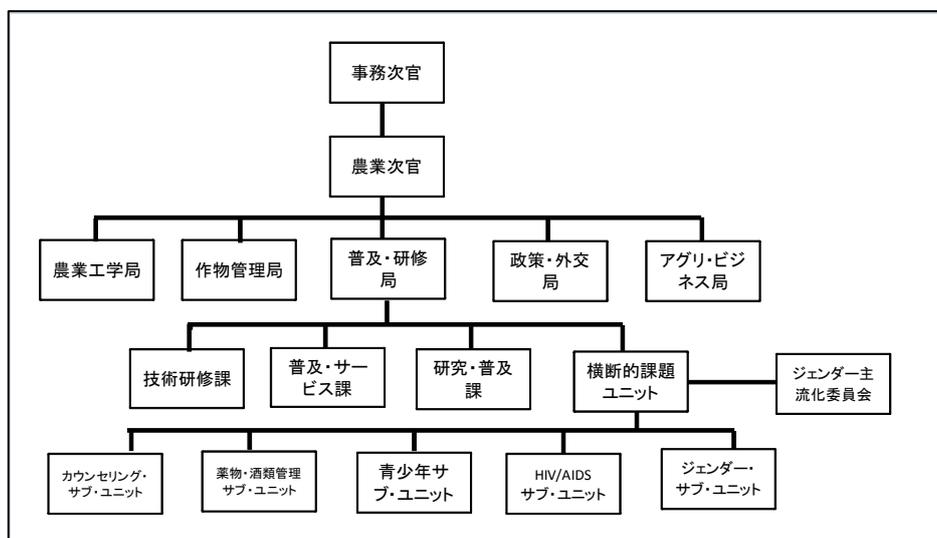


図3-6 旧農業省組織図

現在のジェンダーサブ・ユニットの主たる任務は、各部局の職員に対するジェンダー研修を行うこと、各部局のジェンダー主流化活動の取り組みのモニタリングを行うことなどであるが、以下に記すサブ・ユニット長に対する聞き取り調査の結果からもうかがえるように、各部局のジェンダー主流化活動への支援・介入を実施するには至っていない。

²⁴ 今回の調査でインタビューに回答してくれた省職員は、その位置づけについては決まっていないものの、ジェンダー担当セクションが廃止されることはあり得ないという点で一致した見解を取っている。

Box4：ジェンダーサブ・ユニットの主要業務

① 職員のジェンダーに係るキャパシティの構築

年 1～2 回、省職員に対して、サブ・ユニット主催でジェンダー啓発研修を実施。参加者は毎回 30 名程度。また他部局が実施する各種研修の一コマとしてジェンダーが取り上げられることもあり、その時に講師として参加。

② ジェンダー関連調査

政府予算、またはドナーからの依頼を受けて各種ジェンダー調査を実施。これまでに実施した主な調査は「ジェンダー監査報告書」（2012 年）、「ジェンダー視点に立った普及手法とアプローチ」（2010 年）、「ジェンダー・ニーズ・アセスメント」（2007 年）など。

③ 個別事業との連携

個別の農業事業からの依頼を受け、ジェンダー関連活動の支援を行うこともある。例えば、アフリカ開発銀行（AfDB）支援で実施されている「小規模園芸農家開発プロジェクト」（Smallholder Horticulture Development Project：SHDP）のベースライン調査に参加。しかし、それぞれの事業に一貫して参加しているわけではなく、例えば、ベースライン調査後、SHDP でどのような活動が実施されたかは把握できていない。

④ ジェンダー関係の IEC 資料の作成

ジェンダー関連資料の作成。

（ジェンダーサブ・ユニット長聞き取り調査より）

ジェンダーサブ・ユニットに加え、ジェンダーを含む横断的課題に省として包括的に取り組むために、2010 年「ジェンダー主流化委員会」が設立されている。委員会には、横断的課題ユニット長を議長に、農業省内の各部局（アグリビジネス、普及研修、作物管理、農業工学、調達、総務、人事、計画・モニタリング、政策・渉外など）から各 1 名ずつ、また開発パートナーが支援するプログラムやプロジェクトからそれぞれのジェンダー担当者が委員として参加している。同委員会は、ジェンダー主流化をはじめ、横断的課題の 5 分野に係る研修や意識啓発を行い、各部の活動に関するジェンダー視点からの情報共有や報告を行うことを任務としている。しかし、設立以来開催された会合は数度にすぎず、また、各部局等を代表して会合に出席する委員の顔ぶれが一定していない、活動予算が配分されていないなどから十分に機能しているとは言い難い状況が続いてきた。さらに、各部局を代表している委員の多くは、ジェンダーについて非常に限定的な知識しか有していない者がほとんどである²⁵。そのため、これまでにジェンダー主流化委員会で実施してきている主たる活動は、「委員に対する基礎的なジェンダー研修」「ジェンダーサブ・ユニットが実施するジェンダー関連調査の補佐」「モニタリング・評価（M&E）枠組みの検討」などにとどまり、下記に掲げる委員会としての業務を遂行するに至っていないのが現状である。しかし、農業分野における、ジェンダーをはじめとする横断的課題に係る重要性にかんがみ、関係者からの聞き取りによれば、今後も「ジェンダー主流化委員会」の存続はほぼ確かなものと思われる。

²⁵ ジェンダー主流化委員会メンバー及びジェンダーサブ・ユニット長からの聞き取り。

Box5 : ジェンダー主流化委員会の業務 (Terms of Reference)

- 省内各部の横断的課題に関する計画策定と予算準備
- ジェンダー、HIV/エイズ、麻薬・アルコール中毒に関するアドボカシー
- 上記の横断的課題に取り組むための省内の組織能力アセスメント
- 食料安全保障に対する上記の横断的課題のインパクトのモニタリング・評価
- 上記の横断的課題に係る取り組みの指標策定
- 上記の横断的課題に係る現状分析
- 横断的課題の主流化を行う際の優先づけ
- 関連政策とガイドラインの策定と見直し
- 職員の取り組み能力の把握と人材育成

3-3-2 地方事務所における体制

1990年代後半にジェンダー平等・動員支援 (Gender Equity Mobilization Support : GEMS) ユニットが本省に設立されたのと同時に、州と県の農業事務所にジェンダー担当官が配置された。しかし、ジェンダー担当官の多くは、女性、子ども、家族、栄養の問題を扱ってきた家政担当官 (Home Economic Officer) が兼務しており、ジェンダーについての知識やスキルを有しないものがほとんどであった。2011年、ジェンダーをはじめとする横断的課題を各事務所で主流化していくために、ジェンダー担当にはそれまでの家政担当官からマネジメント担当のひとりである次官が兼務することとなった (図3-7)。この次官レベルのジェンダー担当官の配置によって、中央と地方の縦のラインにおいてジェンダー主流化に係る報告とモニタリングの仕組みが構築された。

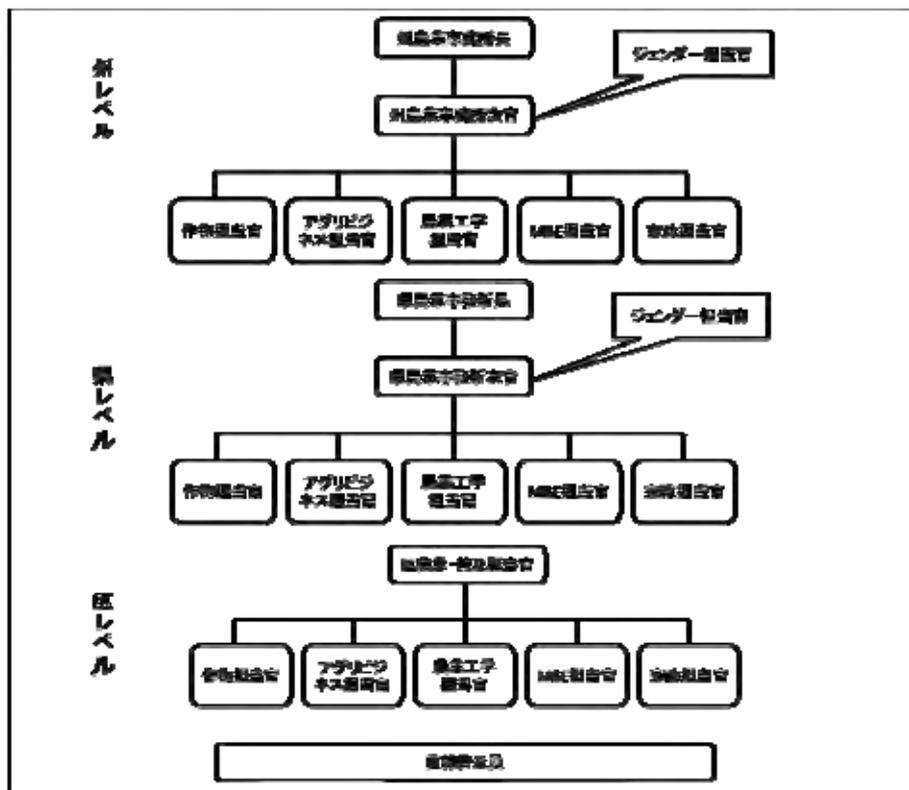


図3-7 州・県・区農業事務所の組織図

上述のように、当初は家政担当官、その後、次官がジェンダー担当に任命されたものの、その多くはジェンダーに係る知見やスキルは限定的であることから、本省のジェンダーサブ・ユニットでは、これらのジェンダー担当官を中心に、ジェンダー研修を実施するなどして、各地方事務所のジェンダー能力の強化に努めてきている。ただし、限られた人員と予算から、ジェンダー研修に参加できる職員は、州/県レベルの職員にとどまり、MALF 農業部門における普及体制の末端に位置する前線普及員（FEO）の多くは、ジェンダー研修に参加した経験がない²⁶。

3-3-3 これまでの成果と課題

上述のように、1990年代後半から旧農業省では、少しずつ省業務のジェンダー主流化を推進していくための体制づくりに努めてきており、その成果が徐々に表れ始めている。ジェンダー監査報告書によれば、調査対象 2,226 人（男性 1,419 人、女性 807 人）の旧農業省職員のうち約 55%の職員が、NGO や開発パートナーにより実施されたジェンダー研修を含め、過去何らかのジェンダー研修に参加したことがあると回答している²⁷。また、女性管理職の登用が進み、中央の局長クラスでは、現在、5 局のうち 2 局長が、地方レベルでは 2012 年の時点で県農業事務所長（District Agricultural Officer : DAO）258 名のうち 92 名がそれぞれ女性である。また、ジェンダー主流化委員会の設立により、技術、総務、プログラムの各部局のジェンダー主流化に係る意識が進んできている。さらに、かつては家政担当官がジェンダー担当を担っていたことから、ジェンダーは女性と子どものみの問題ととらえられることが多かったが、次官がジェンダー担当に任命されたことで、そのような男性職員の認識も改まるきっかけになった。

このように、研修への参加率、管理職数など、省内の数値面に係るジェンダー平等は進んできてはいるものの、実際に農業事業や普及活動においてジェンダー主流化を推進し、ジェンダー格差の解消や男女農民の生産性向上へとつながった事例はまだ少なく、過重労働、普及サービスや農業資材等へのアクセスの欠如、そしてそれらに起因する低い農業収入という多くの女性農民をとりまく環境にあまり変化はない。MALF 農業部が抱えるジェンダー主流化に係る主たる課題として以下が挙げられる。

① 職員のジェンダー理解の不足

中央のジェンダーサブ・ユニットにより、ジェンダー研修は実施されているが、その頻度・内容は十分ではなく、フォローアップ活動も十分に実施されていない。このため、区、普及員レベルでは、ジェンダー研修を受講できる機会はほとんどない。また、地方では、ジェンダー研修を行っても職員の入替わりが多いため、なかなか意識が浸透しないという課題も見受けられる。

② 農業生産における女性の意思決定やリーダーシップの困難さ

ジェンダーの視点に立った適正農業技術の開発や女性の長時間労働の軽減のための技術普及などは、徐々に実施されてきているが、女性の土地やクレジットへのアクセスの問題、グループや家庭、コミュニティでの女性の意思決定権の問題など、女性が効率的な農業生

²⁶ 研修を受講した州/県の職員は、区職員及びFEOに同様の研修を実施することを期待されているが、多くの場合、そのような研修が行われることは稀である（普及員等への聞き取りより）。

²⁷ Gender Audit Report, 2012, Ministry of Agriculture

産を行うために必要不可欠な事項については、伝統的な慣習や文化的側面が強く、行政官の現在のジェンダーに係る知識・スキルでは対応しきれない点が多い。

③ バリューチェーンのジェンダー分析の不足

農業は生産だけではなく、その後の加工、販売、流通まで、ジェンダー問題がかかわっており、ジェンダーの視点に立ったバリューチェーン分析が必要とされている。

④ 若者の問題

農村では、ジェンダーに加えて、若者層の問題が深刻であり、中途退学、農村離れ、麻薬と酒への依存、若年妊娠など、農業の生産性を大きく阻む問題となっている。若者に対しても、男女それぞれの問題を把握し、その解決を促す方策が早急に求められている。

⑤ 組織体制の問題

旧農業省の組織体制の中で、ジェンダーサブ・ユニットが、横断的課題ユニットの下に位置づけられているため、全局に影響力をもつのが難しい状況となっている。ジェンダー主流化委員会も現在は、横断的課題ユニット下のワーキンググループであり、その影響は限定的にならざるを得ない。新体制においては、多様な事業を対象に活動できるようその位置づけ、あるいは何らかの仕組みの導入が検討される必要がある。

3-4 MALF 農業部門による小規模農家支援事業とジェンダー主流化

旧農業省においては、特定課題に対応することを目的に数多くの小規模農家支援事業が実施されてきている。これらの事業は、開発パートナーから全面的な資金及び技術支援を受けて実施されているものから、開発パートナーからの支援は非常に限定的で、ケニア政府の予算や人的リソースを中心として実施されているものまで多岐にわたる。表3-2は、旧農業省の既存の普及体制を活用しながら実施されている主な小規模農家支援事業を取りまとめたものである²⁸。なお、各事業のより詳細な活動内容は付属資料6を参照されたい。

²⁸ 表3-2には、USAIDのように、農業セクターでプロジェクトを実施しているものの活動実施に際し農業省職員である普及員や県職員等と連携せず主として開発パートナーが独自に雇用した人員を活用して実施されているプロジェクトは含まれていない。

表3-2 MALF 農業部門による主要小規模農家支援事業

| プロジェクト名 | 実施機関 | 主たる 資金拠出 機関 | 期間 | 予算* | 対象地域 | 活動 | 対象作物 | ジェンダー 活動** |
|-----------------------------------------------------------------------------|------------|-------------------|---------|----------------------------|---------|---------------------------|----------------------|---------------|
| 1 Agricultural Sector Development Support Programme (ASDSP) | MALF | SIDA | 2012～16 | 約60億KSh (約70億円) | 全国 | 調整/バリエーションチェン支 援 | 各カウンティ毎に特定 | ○ |
| 2 East African Agricultural Productivity Programme (EAAPP) | MALF/KARI等 | WB | 2010～14 | 3000万米ドル (約30億円) | 32県 | 適正技術開発/研修・普及 | 酪農、キヤッツサバ、コ メ、小麦 | △ |
| 3 Kenya Agriculture Productivity and Agribusiness Project (KAPAP) | MALF | WB | 2003～13 | 1億米ドル (約100億円) | 20カウンティ | 研究/民間連携/マーケット 支援 | 各カウンティ毎に特定 | ○ |
| 4 National Accelerated Agricultural Inputs Access Program (NAAIAP) | MALF | GoK/WB | 2007～13 | 約40億KSh (約47億円) | 40カウンティ | 農業資材用パウチチャー支 給/研修・普及 | メイズ | × |
| 5 Njaa Marufuku Kenya (NMK) | MALF | GoK | 2005～15 | 約11億KSh (約13億円) | 全国 | 事業資金供与/研修 | 特になし | × |
| 6 Promotion of Private Sector Development in Agriculture (PSDA) | MALF/GIZ | GIZ | 2003～13 | 1,000万ユーロ (約112億円) | 29カウンティ | バリエーションチェン支援 | 園芸作物、畜産他 | ○ |
| 7 Rice-based and Market-oriented Agriculture Promotion Project (RICE-MAPP) | MALF/JICA | JICA | 2011～16 | 6.8億円 | ムエア灌漑地区 | 営農・マーケット支援/研 修・普及 | コム | △ |
| 8 Small-scale Horticulture Development Project (SHDP) | MALF | ADB | 2008～14 | 約20億KSh (約23億円) | 9灌漑地区 | 灌漑施設インフラ建設・ 整備/マーケット支援 | 園芸作物 | △ |
| 9 Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion Unit Project (SHEP UP) | MALF/JICA | JICA | 2010～15 | 5.9億円 | 全国 | 研修・普及/マーケット支 援 | 園芸作物 | ○ |
| 10 Smallholder Horticulture Marketing Programme (SHoMAP) | MALF | IFAD | 2007～14 | 2,343万米ドル (約23億円) | 7カウンティ | 研修・普及/マーケット支 援 | 園芸作物 | △ |
| 11 Traditional High Value Crops (THVC) | MALF | GoK | 2006～15 | 1.5億KSh (年予 算) (約1.7億円) | 100県超 | 種子供与/研修・普及 | 豆類、キヤッツサバ、サツ マイモ等 | × |
| (作成) 調査団 | | | | | | | | |
| 注) * 1ドル=100円=85KSh、1ユーロ=120円で計算 | | | | | | | | |
| 注) ** ジェンダーに係る活動がどの程度実施されているかについて、各プロジェクトからの聞き取り調査により調査団が作成 | | | | | | | | |
| ○：プロジェクト開始から体系的にジェンダー主流化に向けた複数の活動を実施、もしくは実施予定 | | | | | | | | |
| △：複数のジェンダーに関する活動を実施、もしくは実施予定 | | | | | | | | |
| ×：ジェンダーに係る活動はほぼ実施出来ていない | | | | | | | | |

旧農業省では、事業承認に際して、事業内容にジェンダーの視点が適切に取り入れられているかどうかを確認している。旧農業省政策局の担当者によれば、「農業省事業においては、ジェンダー主流化に向けての活動を行うことが求められており、ジェンダー課題について、そのプロジェクト・ドキュメントにおいて言及していない事業が農業省において承認される可能性はない」とのことであった²⁹。しかし、表3-2にあるように、必ずしもすべての小規模農家支援事業でジェンダー主流化に係る活動が実施されているわけではない。各事業に対する聞き取り調査結果に基づいて、ジェンダー主流化の度合いをまとめると以下ようになる。

表3-3 小規模農家支援事業において実施されているジェンダー関係活動

| ジェンダー活動の度合い | 実施されている活動等 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| × | ジェンダーに係る活動は実施されていない。ただし、女性が過半数を占める小規模農家に対する支援事業のため、結果として女性受益者数は、ある程度確保されている。 |
| △ | プロジェクト・スタッフや連携する MALF 職員等へのジェンダー研修の実施や報告書への性別データの記載等を実施。 |
| ○ | ジェンダーに係るベースライン調査やジェンダー研修を体系的に実施。 |

リストにある 11 事業のうち、4 事業がジェンダーに係る活動を体系的に実施しているとしている。これらの事業について、表3-4でもう少し詳しくみてみることにする。なお、ASDSP については、プロジェクト活動が本格化したのが 2013 年に入ってからのため、ここには含めない。

表3-4 ジェンダー活動とその成果及び課題

| 事業名 | 活動 | 成果／課題 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| KAPAP | ① ベースライン調査実施（ジェンダー視点を含む） ② 関係者へのジェンダー啓発 ③ 実施機関のキャパシティ構築 ④ 各層へのジェンダー・フォーカル・ポイントの配置 ⑤ 草の根レベルでの意思決定過程への女性の参加率 30%の確保 ⑥ 活動実施に際してのジェンダー視点の導入 ⑦ M&E 及びレポーティングへのジェンダー視点の導入 | （成果） 全体で女性農家の参加率 43%を達成 （課題） 作物別農家グループの男女構成は、伝統的な価値観を反映。より収益性の高い作物グループには男性が集まる一方で、食料作物のグループは女性が中心。 |

²⁹ 調査団聞き取り。

| | | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PSDA | <ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクトジェンダー担当の任命 ② ベースライン調査の実施（ジェンダー視点を含む） ③ 以下のジェンダー関連活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> a. 異なるバリューチェーンに係るジェンダー・イシューの把握及び文書化（性別労働分担、意思決定過程、資源へのアクセス・コントロールなど） b. 男女及び若者の効果的な参加を図るための指標の開発 c. ジェンダー格差がどのように生産性に影響を与えているかについての確認 d. ジェンダー主流化戦略の特定 e. プロジェクト関係者のジェンダーに係る理解度の確認 f. 政策決定者への提言（政策対話） | <p>（成果）</p> <p>バリューチェーンのジェンダー課題に係る報告書の作成</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女別のプロジェクトインパクトに係る情報／データの欠如 ・性別統計の欠如 ・M&Eの枠組みの欠如 ・プロジェクト・スタッフの低いキャパシティ ・ジェンダーに係る政策を現場レベルで実施することができていない。 |
| SHEP UP | <ul style="list-style-type: none"> ① ジェンダー主流化に係る一連の活動の実施（ジェンダー分析調査、ジェンダー関連研修、モニタリング調査など） ② 各種活動における男女同数参加の徹底 | <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業収入に係るジェンダー格差の緩和 ・女性の労働負担軽減 ・各活動への男女同数参加の達成 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト終了後の県事務所によるジェンダー活動に係る持続性 ・対象地域拡大に対する対応 |

出典：聞き取り調査を基に調査団が作成

ケニア農業生産性・アグリビジネスプロジェクト（Kenya Agriculture Productivity and Agribusiness Project：KAPAP）と農業における民間セクター振興プロジェクト（Promotion of Private Sector Development in Agriculture：PSDA）では、さまざまな活動を実施しているものの、ジェンダー格差の解消までには至っていないことが分かる。一方、SHEP UPについては、受益者数が他の2事業と比較して少なく、対象地域拡大後、どのようにこの成果を保持していくかが課題ではあるものの、プロジェクト実施がジェンダー格差の緩和に結び付いたとしている。KAPAP及びPSDAと比較して、SHEPのジェンダー主流化手法がどのように異なっていたのかをより深く考察することで、ジェンダー格差の解消につながる実践的なスキル・知識を明確にしていくことができると考えられる。

第4章 プロジェクト基本計画

4-1 要請内容の検討

調査団は、ケニア政府より2012年8月に提出された要請に基づき、特に、新憲法公布に伴う中央省庁の再編と郡制導入後のプロジェクト実施体制、他の農業・畜産・水産省（MALF）小規模農家支援事業との連携の可能性、要請書で提案されている「ジェンダー主流化研修パッケージ」の中身について、関係者との確認・協議を行った。

課題1：新憲法公布に伴う中央省庁の再編と郡制導入後のプロジェクトの実施体制

<調査結果>

今回の調査を通じ、以下のことが明らかになっている

- ・今回、農業省は農業・畜産・水産省として再編されたものの、当面は旧農業省の各部局の多くは、旧畜産開発省、旧水産開発省の関連部局と統合されることはなく、そのまま継続される。
- ・本案件の実施機関として提案されているジェンダーサブ・ユニットは、組織内の正式な位置づけは確定していないものの、恐らくこれまでと同様に普及・研修局横断的課題ユニットの下に位置づけられる可能性が高いとともに、もしその位置づけに変更が加えられたとしてもユニットとしての存続は保証されており、その機能・役割についても大幅な修正が加えられる可能性は少ない。また、各部局におけるジェンダー主流化の推進を目的としたジェンダー主流化委員会も高い可能性で存続することが確認された。
- ・複数の郡を対象とする農業事業は、郡制導入後もこれまで同様にMALFがその運営に直接関与することとなり、予算についても郡政府の介入は受けることはない。
- ・郡制導入後も、かつての県であるサブ・カウンティを中心とした農業普及体制に変更はない。

以上により、調査団は、中央省庁の再編及び郡制の導入後も要請書で提案されている普及・研修局ジェンダーサブ・ユニットを中心とする実施体制を変更する必要がないものと判断し、その旨ケニア政府側と合意した。

課題2：他のMALF小規模農家支援事業との連携

ジェンダー主流化パッケージ開発にあたっては、既存事業と連携していく必要性が本調査実施前に調査団内で確認された。そのため、調査では、MALFが実施する小規模農家支援事業について情報を収集し、その連携の可能性について検討した。

<調査結果>

MALFでは、小規模農家の生産性や収益向上を目的とした各種事業が展開されていることが確認され、それら事業の多くが、プロジェクトのジェンダー主流化をめざしているものの、体系だったジェンダー主流化活動を実施できていないことが明らかとなった。表3-2にある事業のうち、MALFが単独で実施機関となっている複数の事業と協議を行ったところ、それら事業関係者より本案件との連携に対する高い関心が寄せられた。また、MALF側からも、連携事業の特定、連携のあり方など、本案件の円滑な進捗にかかわる事項について、全面的な関与が約束された。

課題3：「ジェンダー主流化研修パッケージ」の中身

本案件の成果のひとつとなる「ジェンダー主流化研修パッケージ」の中身については、SHEP ジェンダー主流化アプローチをベースに開発されることになるため、まず、SHEP のアプローチを整理したうえで、汎用性のあるポイントを抽出した。

<調査結果>

SHEP の概要及びそのジェンダー主流化アプローチにつき、下記の Box 6 のとおりに整理した。

Box6：小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト（SHEP）

<概要>

SHEP は、プロジェクト対象の小規模園芸農家組織を通じ栽培と営農に係る能力が強化されることを目標に 2006 年 11 月から 3 年間実施されたプロジェクトである。

対象地域として、西部州ブンゴマ県（Bungoma District, Western Province）、リフト・バレー州トランスゾイア県（Trans-Nzoia District, Rift Valley Province）、ニャンザ州キシイ県（Kisii District, Nyanza Province）、セントラル州ニャンダルア県（Nyandarua District, Central Province）が選定され、これら 4 県の 122 農家グループが対象グループとして選定された。

<ジェンダー主流化アプローチ>

SHEP においては、その開始当初からジェンダー主流化を推進するための各種活動が組み込まれた。男女同数参加の徹底にとどまらず、参加した男女農家が同じように便益を享受できるようにするため、下図のように、プロジェクト活動のジェンダー主流化に係る取り組みが行われた。

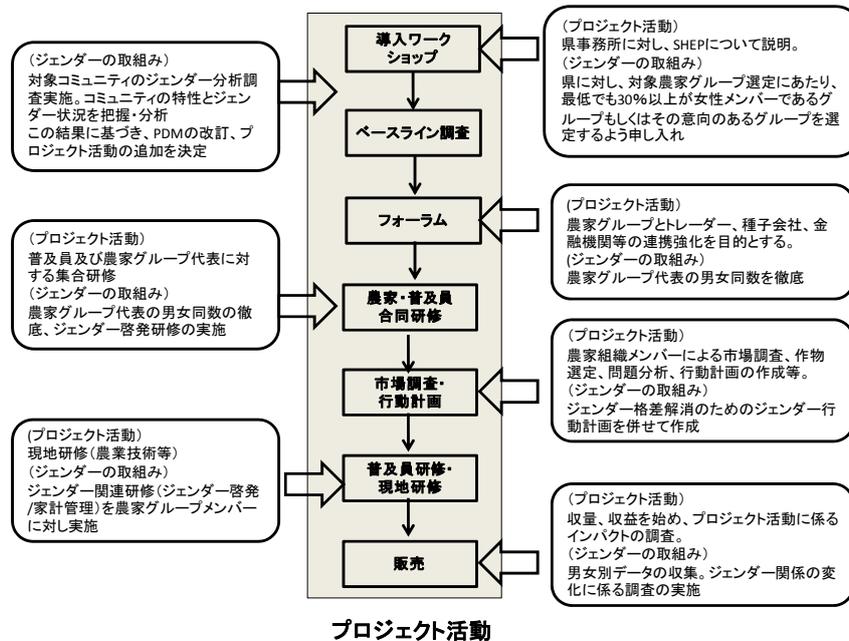


図 4 - 1 SHEP / SHEP UP におけるジェンダー主流化の取り組み

< SHEP のジェンダーに係る成果 >

前ページの図に示された各種の活動が実施された結果、プロジェクト対象地域の多くで、高い収益の伸びが記録されている。また、依然として、男性農家の収益が女性農家の収益を上回っているものの、男女間の格差は大きく改善している。

表 4-1 SHEP プロジェクト目標の指標と終了時評価時の達成状況

| District | Target Increase rate | Unit | Average net-income benefit (Ksh) | | | Range of Change : April 07- May 09 |
|-------------|----------------------|------------|----------------------------------|-----------------------|--------------|------------------------------------|
| | | | Baseline (April 2007) | Monitoring (May 2009) | | |
| | | | | Current price | Real price*1 | |
| Bungoma | 20.20% | Group | 343,636 | 876,101 | 556,694 | 62.0% |
| | | Per farmer | 14,924 | 43,229 | 27,469 | 84.1% |
| | | Per man | 19,494 | 47,897 | 30,435 | 56.1% |
| | | Per woman | 9,815 | 38,651 | 24,560 | 150.2% |
| Kisii | 18.00% | Group | 177,747 | 408,260 | 259,418 | 45.9% |
| | | Per farmer | 7,637 | 22,893 | 14,547 | 90.5% |
| | | Per man | 10,812 | 29,748 | 18,903 | 74.8% |
| | | Per woman | 4,965 | 16,970 | 10,783 | 117.2% |
| Nyandarua | 14.70% | Group | 983,919 | 513,079 | 326,022 | -66.9% |
| | | Per farmer | 38,674 | 37,441 | 23,791 | -38.5% |
| | | Per man | 41,244 | 38,931 | 24,738 | -40.0% |
| | | Per woman | 35,087 | 34,589 | 21,979 | -37.4% |
| Trans-Nzoia | 16.20% | Group | 622,141 | 1,437,673 | 913,530 | 46.8% |
| | | Per farmer | 27,347 | 72,301 | 45,942 | 68.0% |
| | | Per man | 29,236 | 88,991 | 56,547 | 93.4% |
| | | Per woman | 24,947 | 54,198 | 34,439 | 38.0% |

Note : *1 adjusted by Consumer Price Index (CPI)

出典 : ケニア共和国小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト (SHEP) 終了時評価調査報告書

さらに、SHEP 終了時に実施された終了時評価では、SHEP にかかわった 276 名の農家に対して、生産や所得の向上に貢献した要因について調査を行っている。その結果、57%の農家が、市場調査が所得に貢献していると答え、続いて作物栽培カレンダー (42%)、ジェンダー理解 (39%) とし、多くの農家がジェンダー関係の改善が生産性や収益の向上に直接役立ったと実感していることがうかがえる。

上述の SHEP の経験を踏まえ、関係者と検討した結果、小規模農家支援事業のジェンダー主流化推進のために実施されるべき一連の活動群を称して「ジェンダー主流化パッケージ」とし、本案件では、そのパッケージの中身の開発とそのパッケージを実践していくために必要とされる関係者の能力向上を行っていくことが確認された。なお、より詳しいパッケージのアウトラインについては、本報告書の付属資料 4 「ジェンダー主流化パッケージ (詳細版)」を参照されたい。



図4-2 ジェンダー主流化パッケージ

4-2 協力の基本コンセプト

前節4-1の検討結果に基づき、協力の基本コンセプトを以下のとおり合意した。

(1) 「ジェンダー主流化パッケージ」の開発と人材育成

- ・本プロジェクトでは、SHEPのジェンダー主流化アプローチによる知見や教訓、研修内容をベースにした、小規模農家の生計向上に資する、男女共同参画型農家経営を推進するための「ジェンダー主流化パッケージ」を開発する。
- ・本プロジェクトで開発する「ジェンダー主流化パッケージ」とは、男女共同参画型の農家経営を推進していくために、小規模農家支援事業の実施において、ジェンダーの視点から実施していくべき一連の活動群、及びそれらの活動の実践にあたって必要な実践ツール（研修モジュール、チェックリスト、マニュアル、ガイドライン等を取りまとめたもの）を指す（付属資料4「ジェンダー主流化パッケージ（詳細版）」参照）。SHEPのジェンダー主流化アプローチを基調とするが、園芸農家支援事業のみならず、多様な作物に係る小規模農家支援事業に適用・実践可能なパッケージづくりをめざす。
- ・本事業の実施を通じ、MALF本省ジェンダーサブ・ユニット及びジェンダー主流化委員会が、省内及び各郡に対し同パッケージを普及するための機能強化を図るとともに、他のMALF本省及び郡農業事務所の職員が、小規模農家に対する農業普及の実践において同パッケージを適用・実践していけるよう人材育成を図る。

(2) 他の小規模農家支援事業との連携

- ・「ジェンダー主流化パッケージ」の開発は、MALF管轄下の小規模農家支援事業との連携を通じて行う。SHEPで対象としている園芸農家以外の多様な小規模農家（メイズ、キャッサバ、畜産など）への普及においても適用可能なパッケージを開発するため、連携先は園芸以外の小規模農家を対象とする事業とする。
- ・本調査中に複数の小規模農家支援事業と協議を実施した結果、「東アフリカ農業生産性向上プログラム（Eastern Africa Agricultural Productivity Project：EAAPP）」が最も可能性の高い連携先として確認された。EAAPPは、適正技術の開発とその普及を通じ小規模農家の生

産性向上を支援する、世銀融資の農業省直轄型プロジェクトである。ケニア、エチオピア、タンザニア、ウガンダの4カ国で展開されている広域案件であるが、ケニア国内においては、酪農、コメ（陸稲）、コムギ、キャッサバを対象作物として、現在32サブ・カウンティで支援を展開している。ケニア国内における事業実施期間は2010～14年であるが、現在のところ1年間の延長が見込まれている。また、適正技術開発から普及に活動の重点を移したフェーズ2の実施が予定されている。

(3) 段階的アプローチの採用

- ・プロジェクト1年目は、SHEPのジェンダー主流化アプローチをベースとした「ジェンダー主流化パッケージ」の開発を連携事業と共に実施する。
- ・プロジェクト2年目では、1年目とは異なる事業と連携し、1年目に作成された「ジェンダー主流化パッケージ（案）」の実践・検証を通じて、パッケージを完成させる。
- ・プロジェクト最終年では、完成した「ジェンダー主流化パッケージ」を、他のMALF事業で活用してもらうための普及活動を行う（図4-3参照）。

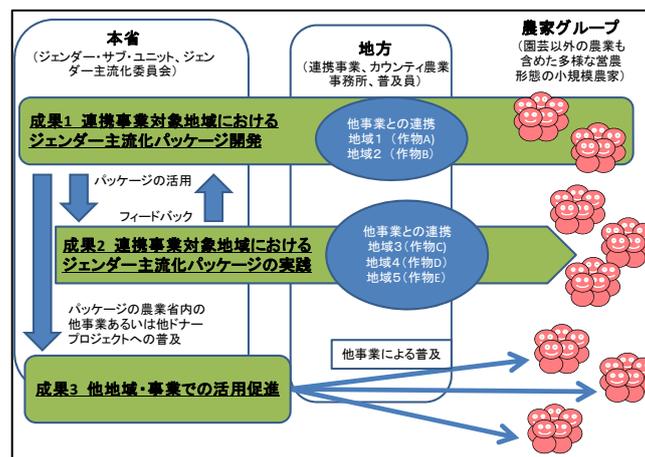


図4-3 プロジェクト概念図

4-3 協力の基本計画

前節4-2のコンセプトに従い、基本計画を下記のとおり整理することで合意した。

(1) 実施機関：

農業・畜産・水産省 (Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries) 農業部門 (State Department of Agriculture)

(2) プロジェクト対象地域：

プロジェクト対象地域は、プロジェクトで連携する複数のMALF小規模農家支援事業の対象地域から、異なる作物を栽培していることを条件に、2郡より計5サブ・カウンティを選定する。なお、SHEP UPの支援対象サブ・カウンティは今後もSHEP UPによるフォローアップ活動が継続される予定であることから、サブ・カウンティの実施体制面も考慮し、本プロジェクトのパイロット地域対象としないものとする。

(3) プロジェクトの裨益対象者：

MALF ジェンダーサブ・ユニット、ジェンダー主流化委員会、郡農業事務所ジェンダー担当官、連携事業スタッフ、プロジェクト対象地域（5 サブ・カウンティ）農業事務所職員及び農家グループ

(4) プロジェクト期間：

本プロジェクトの協力期間は、最初の専門家派遣日から3年間とする。

(5) 上位目標：

| 上位目標 | 指 標 |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小規模農家の生計が男女ともに向上する ³⁰ 。 | 1. 「ジェンダー主流化パッケージ」を採用した小規模農家支援事業の対象農家グループコミュニティ及びグループメンバーの各世帯において、労働分担、意思決定等に係るジェンダー関係に正の変化が起こる（プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定）。 2. 「ジェンダー主流化パッケージ」を採用した小規模農家支援事業の対象農家グループ個々のメンバー（男・女）の生計が向上する（プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定）。 |

(6) プロジェクト目標

| プロジェクト目標 | 指 標 |
|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 農業・畜産・水産省（MALF）の小規模農家に対するジェンダー視点に立った普及サービス実施能力が向上する。 | 1. 「ジェンダー主流化パッケージ」が、MALF により承認される。 2. ジェンダーサブ・ユニット及びジェンダー主流化委員会により、MALF が実施する小規模農家支援事業の少なくとも X 件にジェンダー主流化パッケージが導入される。 3. 対象農家グループのコミュニティ及びグループメンバーの各世帯において、労働分担、意思決定等に係るジェンダー関係に正の変化が起こる（プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定）。 4. 対象農家グループの個々のメンバーの生計が男女ともに向上する（プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づき、項目及び目標値を設定）。 |

³⁰ ここでいう「生計」とは、世帯の福祉を向上するために必要とされる世帯構成員の能力、資産、収入等を包括的に指すものとする。したがって、「生計の向上」は、資産や収入の増加、貧困状態の緩和、食料・水・シェルターといった生活必需品へのアクセスの改善など、多様な側面から測ることが可能なため、当該上位目標の指標は、プロジェクト開始後に実施されるベースライン調査の結果に基づいてその詳細が決定されるものとする。

(7) アウトプットと活動

本プロジェクトでは上記のプロジェクト目標達成に向け、以下の 3 つのアウトプットを設定する。各アウトプットとそれぞれの達成度を測る指標、アウトプット達成のための活動内容は、以下のとおりである。

| アウトプット 1 | 指 標 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小規模農家の生計向上に資する「ジェンダー主流化パッケージ*」が開発される。 | 1-1 「ジェンダー主流化パッケージ」のコンテンツ（ジェンダー研修教材とガイドライン等）が作成される。 1-2 講師向け研修（TOT）の受講者により、「ジェンダー主流化パッケージ」が実践される。 |
| 活 動 | |
| 0-1 SHEP ジェンダー主流化アプローチに係る C/P の理解を促進するための勉強会を実施する。 0-2 SHEP ジェンダー主流化アプローチに係るジェンダー主流化委員会メンバー及び連携事業スタッフの理解を促進するためのワークショップを開催する。 0-3 プロジェクト・メンバーの連携事業に係る理解を促進するための勉強会を開催する。 0-4 「ジェンダー主流化パッケージ」開発について、連携事業との間でその手法、実施計画等について合意する。 0-5 連携事業と共同で、プロジェクト対象地域となる 2 サブ・カウンティを選定する。 1-1 プロジェクト対象地域の郡農業事務所長及びサブ・カウンティ農業事務所長に対し、プロジェクト活動について説明する。 1-2 プロジェクト対象地域でジェンダー分析調査を実施する。 1-3 分析調査（1-2）の結果に基づき、アクション・プランと研修計画を策定する。 1-4 分析調査（1-2）の結果に基づき、モニタリング・評価（M&E）の枠組みを策定する。 1-5 ベースライン調査を実施して M&E 用のデータを収集する。 1-6 研修計画（1-3）に基づき、SHEP ジェンダー研修教材を参考に、ジェンダー研修教材を作成する。 1-7 プロジェクト対象地域のサブ・カウンティ農業事務所の職員に ToT を実施する。 1-8 ToT（1-7）受講者が農家グループに対して実施する研修をモニターするとともに必要に応じ支援を行う。 1-9 アクション・プラン（1-3）で特定された活動（適正技術の導入等）を、連携事業がサブ・カウンティで実施する際、必要な支援を行う。 1-10 プロジェクト対象地域において、実施活動に係る M&E 調査を行う。 1-11 M&E 調査（1-10）の結果に基づき、上記 1-1 から 1-10 の活動実施に際して作成された研修教材やガイドラインを含む「ジェンダー主流化パッケージ（案）」を作成する。 | |
| *本案件において「ジェンダー主流化パッケージ」とは、男女共同参画型の農家経営を推進していくために、小規模農家支援事業の実施において、ジェンダーの視点から実施していくべき一連の活動、及びそれらの活動の実践にあたって必要な研修モジュール、チェックリスト、マニュアル、ガイドライン等の実践ツールを取りまとめたものとする | |

アウトプット 1 は連携事業と共同で、SHEP ジェンダー主流化アプローチを参考に、多様な作物及び多様な事業形態でも汎用性のある「ジェンダー主流化パッケージ（案）」を作成する。

小規模農家支援事業の枠組みの中で、どのようにジェンダーを主流化していけばジェンダー格差の解消に結び付いていくのかを活動を行いながら検証していくことで、C/P及びジェンダー主流化委員会メンバーが、農業事業のジェンダー主流化に係るスキル・知識を身に付けるとともに、将来、指導できるだけの能力を構築していくこととなる。

| アウトプット2 | 指 標 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 農業・畜産・水産省及びパイロット郡農業事務所が、小規模農家支援事業において、「ジェンダー主流化パッケージ」の実践及び運用に係る適切な助言・指導・研修を実施できるようになる。 | 2-1 「ジェンダー主流化パッケージ」活用に係る研修プログラムが実施される。 2-2 「ジェンダー主流化パッケージ」の研修受講者のうち少なくともXX%がパッケージの内容について理解し、実践に必要な知識を身に付ける。 |
| 活動 | |
| 2-1 「ジェンダー主流化パッケージ」を実践するに足る能力を身に付けることを目的に、MALFや郡農業事務所の関係者向けの研修プログラム及び教材を作成する。 2-2 上記研修プログラム(2-1)に基づき、研修を実施する。 2-3 成果1で開発された「ジェンダー主流化パッケージ(案)」を検証するための対象地域3サブ・カウンティを選定する。 2-4 郡農業事務所のジェンダー担当官及び連携事業スタッフと共同で、「ジェンダー主流化パッケージ」の一連の活動を実施する。 2-5 活動結果等をレビューし、「ジェンダー主流化パッケージ」及びそれに係る研修プログラムを完成する。 | |

アウトプット2は、アウトプット1で作成した「ジェンダー主流化パッケージ(案)」を他の作物を対象とした小規模農家支援事業と連携して、実践・検証し、パッケージの完成度を高めるとともに、C/P、ジェンダー主流化委員会メンバー及びプロジェクト対象地域の郡農業事務所ジェンダー担当官等のパッケージ実践能力の強化を図っていく。

| アウトプット3 | 指 標 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「ジェンダー主流化パッケージ」が、国内の他郡における小規模農家支援事業で活用される。 | 3-1 「ジェンダー主流化パッケージ」の活用に係るワークショップが少なくとも3郡で実施される。 3-2 「ジェンダー主流化パッケージ」がケニア国内の農業研修センター(Agriculture Training Centre: ATC)の研修カリキュラムや研修プログラムに取り入れられる。 3-3 少なくともXXサブ・カウンティにおいて、「ジェンダー主流化パッケージ」の活動が普及活動に取り入れられる。 |
| 活動 | |
| 3-1 プロジェクト対象地域以外の郡やサブ・カウンティで、「ジェンダー主流化パッケージ」導入に係るワークショップを開催する。 3-2 「ジェンダー主流化パッケージ」を実践するための研修プログラムをATCで実施する。 | |

アウトプット3は、完成した「ジェンダー主流化パッケージ」の他事業への普及をめざすものである。

4-4 案件名称の変更

要請案件名は「Project on Enhancing Profitability by Promoting Gender Sensitive Extension Services in Kenya」であったが、ケニア側から、案件名称に「収益性向上」との文言を含めることは、事業コンセプトとの整合性が取れていないことが指摘され、英文案件名称は「Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya」とし、収益性向上に係る概念はプロジェクト目標及び上位目標における指標に組み込むことが妥当との協議結果に至った。

なお、和文名称も、変更後英文名称をより端的に訳した「ジェンダー視点に立った農業普及推進プロジェクト」とすることが妥当と判断し、併せて変更することとした。

4-5 実施体制

プロジェクトの実施体制は以下とすることで合意した。

| 名称 | 責務 |
|-------------------|--------------------------------------------|
| 合同調整委員会 (PSC) | 最高意思決定機関 |
| プロジェクト運営委員会 (PMC) | PIU に対する技術的事項に係るアドバイス及びワークプラン、予算、報告書等のレビュー |
| プロジェクト・ユニット (PIU) | 日々の活動の実施 |

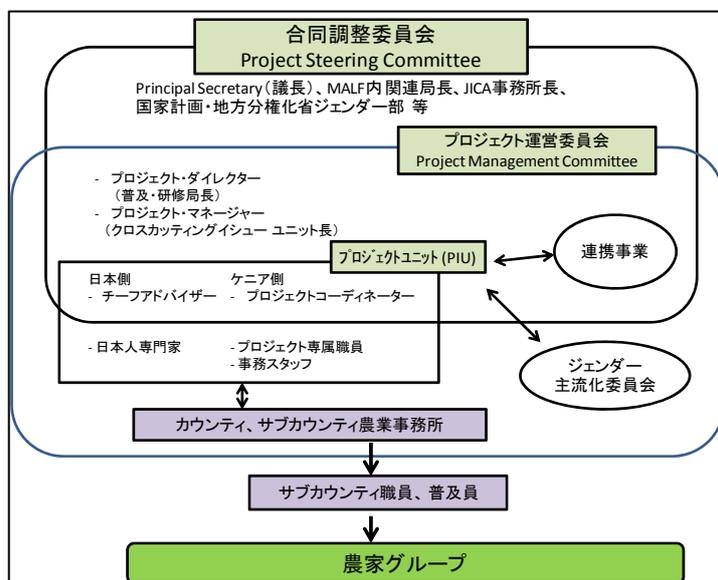


図 4-4 プロジェクト実施体制図

4-6 投入計画

(1) 日本側の投入（インプット）・協力支援体制

1) 専門 Agriculture Training Centre 家の派遣

チーフアドバイザー、農業とジェンダー、モニタリング・評価（M&E）等の分野の専門家派遣が想定されている。

2) 機材供与

プロジェクト活動の実施に必要な資機材（車両、事務機器等）の供与を予定している。

3) 研修員受入れ

必要に応じ、本邦研修あるいは第三国研修に実施する。

4) 在外事業強化経費

必要に応じたローカルコスト負担を行うこととする。

(2) 相手国側の投入

1) カウンターパート（C/P）

① プロジェクト・ディレクター

② プロジェクト・マネジャー

③ プロジェクト・コーディネーター（専従）

④ 研修スタッフ（SHEP ジェンダー主流化アプローチについて、知見のあるもの）（専従）

⑤ モニタリング・評価（M&E）スタッフ（専従）

※MALF から最低でも 4 人の専従スタッフ（プロジェクト・コーディネーター及び事務スタッフ 1 名を含む）が配置される予定。

2) プロジェクト事務所

MALF により執務室が準備される。

3) ローカルコスト負担（技術プロジェクト実施に必要な費用）

ケニア側は本プロジェクトの実施に必要な費用を手当とする。

4-7 前提条件、外部条件

① 前提条件

・適切な能力と経験を有する C/P が適正な人数配置される。

② アウトプット達成のための外部条件

・郡制の移行に伴う政府組織の改編がプロジェクト活動に深刻な影響を及ぼさない。

・パイロットプロジェクト対象地域において深刻な社会不安が発生しない。

③ プロジェクト目標達成のための外部条件

・郡制の移行に伴う政府組織の改編がプロジェクト活動に深刻な影響を及ぼさない。

・パイロットプロジェクト対象地域において深刻な社会不安が発生しない。

④ 上位目標達成のための外部条件

・ジェンダー主流化に関する国家政策が大幅に変更されない。

第5章 評価5項目による評価

5-1 妥当性

本案件は、以下の点から妥当性が高いと判断される。

(1) ケニア国開発計画及びセクター政策との整合性

ジェンダー間の平等、女性の社会参加促進は、ケニア国政府にとって、取り組むべき最重要課題のひとつであることが主たる政策文書において明確に記されている。まず、2010年に公布された憲法では、ジェンダー間の平等を保障している。また、2008年に策定された長期国家開発政策である「ケニア・ビジョン 2030」では、ジェンダー間の不平等を国家全体の経済成長に多大なコストをもたらす大きな要因のひとつとしての認識を示し、男女の平等な社会参加と共に、ジェンダー課題の克服を優先事項として掲げている。さらに、「ケニア・ビジョン 2030」の理念を農業セクターにおいて具体化するために策定された「農業セクター開発戦略 (ASDS)」は、農業セクターにおける年7%の平均成長率を達成するために取り組まなければならない課題のひとつとして、ジェンダー不平等を掲げ、女性の土地所有、過重労働、低い教育レベル等のジェンダー不平等に起因するさまざまな問題の解決を呼び掛けている。本件協力内容はこれらの政策の方向性に合致している。

(2) 日本の援助政策等との整合性

2011年4月に作成された JICA 国別分析ペーパーにおいて、「農業開発」は「経済インフラ開発」「人材育成」「保健・医療」「環境保全」と並ぶケニアにおける日本の援助重点5分野のひとつであり、その一環として農業の担い手である小規模農民の収入向上などに対する支援が打ち出されている。ケニアでは小規模農民の7割近くが女性農民とされており、小規模農家支援事業を実施する農業・畜産・水産省 (MALF) のジェンダー主流化に向けた能力向上を目的として実施される本案件は当該方針と合致している。

(3) プロジェクトのニーズ

ケニアの農業セクターはさまざまな側面において、国家経済の柱である。GDPの25%、外貨獲得の60%、雇用の60%をそれぞれ占めており、2008年に発表された長期国家開発計画「ケニア・ビジョン 2030」にうたわれるように、2030年までに中所得国家となるためには農業セクターが高い成長率を達成することが不可欠といえる。しかし、農業人口の75%を占める小規模・零細農家の労働生産性は著しく低い。特に、食料作物生産の7~8割、換金作物生産のほぼ5割の労働を担っているとされる女性農民の生産性は、土地、農業資材、農業技術、マーケットなどへの限定的なアクセスに起因して、男性農民と比較した場合2~3割程度も低いと見積もられている。旧農業省では、このようにジェンダー格差が農業生産性に及ぼす否定的な影響を強く認識し、2000年代半ばから農業省事業におけるジェンダー主流化を推進し、その結果、ジェンダー研修を受講した職員数や管理職に登用される女性職員数は大きく増加した。しかし、その一方で、実際にジェンダー格差の解消、男女農民の生産性向上につながる実践的なジェンダー主流化の手法を取り入れている事業は、このような手法に精通した省職員がほとんどいないこともあり、いまだ非常に少ないのが現状である。このため、各種事

業を実施する MALF 職員の農業事業のジェンダー主流化に係る能力の向上が喫緊の課題となっている。

(4) 日本の援助の比較優位性

日本は、ケニアにおいて 2006 年から 2009 年にかけて「小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト (SHEP)」を実施し、その際、事業におけるジェンダー主流化を推進している。その結果、農家経営における男女共同参画が促進され、農家の所得や生計の向上に寄与したことが同プロジェクトの終了時評価調査時に確認された。本案件のアウトプットのひとつである「ジェンダー主流化パッケージ」は、SHEP、またその後継案件である「小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト (SHEP UP)」で採用され、その効果が確認されたジェンダー主流化手法を参考に開発されることが予定されており、わが国が本案件の実施を支援することの妥当性は非常に高い。

(5) プロジェクト・デザインの妥当性

本案件では、MALF が実施する複数の事業との連携を通じて、「ジェンダー主流化パッケージ」の開発・普及を行うことを想定している。このように、実際に実施されている事業と協働することで、より多様な作物や事業形態に対応できる汎用性の高いパッケージの開発に結び付くことが期待される。また、他の MALF 事業との連携は、本案件の省内でのプレゼンスを高め、MALF による本パッケージの普及・活用に大きく貢献するものと思われる。

5-2 有効性

本案件は、以下の点から有効性が見込まれる。

(1) プロジェクト目標達成の見込み

本案件では、1. 小規模農家の生計向上に資する「ジェンダー主流化パッケージ」が開発される、2. 農業・畜産・水産省及びパイロット郡農業事務所が、小規模農家支援事業において、「ジェンダー主流化パッケージ」の実践及び運用に係る適切な助言・指導・研修を実施できるようになる、3. 「ジェンダー主流化パッケージ」が、国内の他郡における小規模農家支援事業で活用される、の 3 つがプロジェクト目標達成のためには必要不可欠なアウトプットとして設定されている。アウトプット 1 及び 2 で「SHEP/SHEP UP」で開発・実践されてきたジェンダー主流化手法を、複数の MALF 小規模農家支援事業との連携を通じて、「ジェンダー主流化パッケージ」として体系化するとともにその汎用性を高める過程で MALF 及び郡農業事務所のジェンダー担当官が同パッケージを使いこなせるようそのキャパシティの構築を行い、その後アウトプット 3 で、完成したパッケージのさまざまな MALF 事業への普及をめざす。このように、汎用性の高いパッケージを開発と関係者の能力向上を通じて、プロジェクト目標である「MALF の小規模農家に対するジェンダー視点に立った普及サービス実施能力が向上する。」を達成するよう計画されている。したがって、アウトプット 1～3 を効果的に組み合わせることにより、協力期間終了時にプロジェクト目標が達成される見込みは高いと判断される。

また、プロジェクト目標の指標として、対象小規模農家におけるジェンダー関係及び生計の変化を測る指標が 2 つ設定されており、本案件が農家経営に係る男女共同参画の推進及び

男女農家の生計向上に資するものとなっているかについて確認できるようになっている。

(2) 外部条件の検証・分析

本案件実施に際しての外部条件として、ケニア国政府で進行中の中央省庁の再編及び地方分権化の影響などが挙げられている。新体制移行による中央政府と郡政府の連携体制、農業普及体制に係る変化などを注視し、必要に応じて、柔軟な対応を図っていく必要がある。

5-3 効率性

本案件については、以下の点から効率的な実施が期待できる。

(1) 投入計画

本案件は、成果品である「ジェンダー主流化パッケージ」の開発にあたり、SHEP / SHEP UP で採用され、その効果が実証されたジェンダー主流化手法を活用することにより、手法の適正検証及び開発にかかる時間や投入を最小限にとどめることが可能であることから、効率的なプロジェクト運営が期待できる。また、C/P のひとは SHEP ジェンダー主流化アプローチに係る知見や経験を有する MALF 職員の登用が見込まれていることも本案件の効率性の確保に大きく貢献するものと判断できる。

(2) 他事業との連携

本案件では、複数の MALF 既存事業との連携により「ジェンダー主流化パッケージ」が開発されることが想定されている。多様な作物を対象とするさまざまな小規模農家支援事業と協働することで、各事業のジェンダー主流化に係る課題を効果的かつ効率的に抽出することが可能となるため、本案件を単独で実施する場合と比べ、より低コストで汎用性の高いパッケージの開発が期待できる。また、本案件の活動は連携事業が実施されている地域で行われることとなるため、連携事業で既に構築されている普及体制や特定されている農家グループを活用することができ、プロジェクト実施準備にかかる時間や投入を最小限にとどめることが可能である。

5-4 インパクト

本案件の実施によるインパクトは、以下のように予測できる。

(1) 上位目標達成の見込み

本案件の実施により、男女農家のニーズに適切に対応できる農業技術普及体制が MALF において確立されれば、農作業の多くを担っている女性農家（女性戸主及び女性配偶者）の技術力向上、男女農家の農作業への積極的な参画などをもたらし、これらの変化は小規模農家の生産性向上、ジェンダー関係の改善へと直接つながるため、上位目標である「小規模農家の生計が男女ともに向上する。」の達成が期待できる。

(2) 波及効果

本案件は、MALF 他事業との連携を通じて実施されることから、MALF を対象に各種支援

を実施する他の開発パートナーにも「ジェンダー主流化パッケージ」の内容、成果などが広く認知されることが予想され、将来的に当該パッケージが開発パートナーによる支援事業にも波及していくことが期待される。

5-5 持続性

以下のとおり、本プロジェクトの持続性はおおむね高いと考えられるが、いくつかの側面については継続的にモニターし、対応していくことが必要である。

(1) 政策面

第3章で記述のとおり、国家開発計画や農業セクター政策において、農業生産性向上、小規模農家の収入向上に向けたジェンダー格差の解消やジェンダー平等の達成が強く打ち出されている。ジェンダー平等は新憲法においても保障されているため、将来的にもこれらの方向性が継続される見込みは非常に高く、政策面での持続性確保につながることを予想される。

(2) 組織・財政面

進行中の政府組織の改編及び地方分権化が、MALF や郡農業事務所におけるジェンダー主流化体制に与える影響について注視していく必要があり、必要に応じて、プロジェクトとして柔軟な対応を行っていくことが肝要である。

一方、財政的な側面であるが、MALF で実施される事業には独自予算が配分され、その中で各種活動が計画・実施されることから、「ジェンダー主流化パッケージ」が省内で認知されれば、独自予算をもつ各事業の中に組み込まれていくこととなり、財政面での持続性は十分に見込まれる。

(3) 技術面

プロジェクト終了後も、「ジェンダー主流化パッケージ」が小規模農家支援事業を実施する MALF や郡で継続的に活用されるようにするために、プロジェクトでは協力期間中に MALF ジェンダー主流化委員会メンバー、支援事業のジェンダー・フォーカル・ポイント、郡農業事務所のジェンダー担当官など、より多くの関係者をプロジェクト活動に巻き込む予定である。その過程で、関係者の当該パッケージに対する理解度を深め、かつ実践力を向上させることで、プロジェクト終了後も、これら関係者がパッケージにのっとった小規模農家支援事業におけるジェンダー主流化を推進できるように取り組んでいくこととなる。また、プロジェクト対象地域では、上述の関係者に加え、連携支援事業の実施に携わる多くの県職員や普及員の能力強化が図られるため、これら地域においては協力終了後も継続してジェンダー主流化活動が実践されることが期待できる。

5-6 評価結果の結論

上記のとおり、本プロジェクトには高い妥当性、有効性、効率性及びポジティブなインパクトが期待される。持続性については、今回の地方分権化による影響について慎重なモニタリングを必要とするものの、評価5項目の観点から検討した結果、本プロジェクト協力の実施は適切であると判断される。

第6章 実施上の留意点

本案件の実施に際しては、以下の点に留意する必要がある。

- ① ケニアにおける地方分権化の動きは、現段階では未確定な部分も多いため、中央と郡政府の関係、特に計画策定や予算決定プロセス、人の配置などの動向を注視し、必要に応じプロジェクト活動計画を修正していく必要がある。
- ② 農業セクターにおいて実施される事業間の調整を目的として、農業セクター開発支援プログラム（ASDSP）の主導で、各郡には郡調整ユニット（CCU）が、また全国レベルの調整委員会が設置された。これらが今後どの程度機能するかについては未知数の部分が多いものの、本案件の成果をプロジェクト対象地域以外に普及する際、このような調整機関と密接に連携することの意義は大きいと思われる。

第7章 団員報告・所感

7-1 「ジェンダーと開発」団員 報告

(1) 本プロジェクトでは何をするのか。(支援計画の概要)

本プロジェクトは、「小規模園芸農民組織強化プロジェクト (SHEP)」におけるジェンダー主流化の取り組みがもたらした農家の変化に着目し、旧農業省〔現在の農業・畜産・水産省 (MALF)〕が、小規模園芸農家のみならず、他の作物生産に携わる小規模農家に対してもジェンダー視点に立った普及サービスを推進できるよう、その実施能力の向上を支援するものである。具体的には、SHEP のジェンダー主流化の取り組みを他の小規模農家支援事業との連携を通じてより体系的に整理し、その知見・研修内容をベースにした、他の作物・事業でも適用可能でかつ実践的な「ジェンダー主流化パッケージ」を開発する。同時に、MALF の関係職員³¹が、国内の小規模農家支援事業において、開発された同パッケージを適用・実践していけるよう人材育成を図る。完成したパッケージは、国内のさまざまな小規模農家支援事業において活用されるよう普及を行う。本支援により、ケニア国内で実施される小規模農家支援事業において適切なジェンダー主流化が多面的に図られ、小規模農家における農家経営が男女共同参画型に変容するとともに、農家の生計向上が推進されることをめざす。

(2) SHEP で実施されたジェンダー主流化アプローチとは何か。

SHEP 支援において実施された「ジェンダー関連活動」とは、単にジェンダー啓発研修や家計研修³²を実施したことを意味するものではなく、プロジェクト活動において、計画策定から実施、モニタリング・評価 (M&E) までの一連の事業サイクルにおいて、一貫してジェンダー視点に立った活動を推進してきたもの (ジェンダー主流化) であったと評価できる。プロジェクトでは、支援対象農家の現状把握に際して、女性及び男性それぞれの労働分担や責任、力関係の現状を分析し、女性農家の経験や関心を、男性農家のそれと同様にプロジェクト活動において組み込むと同時に、抽出された具体的なジェンダー課題の解決に向けた活動や取り組みを実施してきた³³。また、一連の事業プロセスや成果をジェンダーの視点からきめ細かくモニタリング・評価し、女性と男性が等しく利益を得る視点をプロジェクト活動において維持していく³⁴。

これらは、開発支援事業における一般的なジェンダー主流化手法ではあるが、SHEP 支援においては、一連の活動や研修を、農家自身の気づきのプロセスを重視しつつ、農家の受け入れやすさを考えたシンプルな内容に基づいて、参加型の実習形式で実施してきていることが大きな特徴のひとつである。さらに、活動の実施においては、ジェンダー課題への取り組み

³¹ 農業省ジェンダー主流化委員会のメンバー、小規模農家支援事業関係者、郡、サブ・カウンティのジェンダー担当官、SMS、普及員等。

³² SHEP で実施された家計研修は、夫と妻の同意に基づいてお金を管理する、ジェンダー視点に立った家計管理 (男女双方の経験、知見、ニーズを反映させた家計管理) を行う、という概念に基づいて実施されているものであり、この研修はジェンダー課題を考えるうえでのエントリーポイント、もしくは理解の更なる促進に向けた補強にもなっている。

³³ ここで実施されてきたのは「ジェンダー配慮」ではなく、「ジェンダー視点の統合」である。

³⁴ ケニア国内における農業セクターにおいては、ジェンダー主流化をうたう事業は多く存在するものの、そのほとんどが、ジェンダー別統計整備やジェンダー分析調査、ジェンダー研修などを、単発的に実施するのみで終わっている。特にその支援サイクルにおいて一貫して、実質的にジェンダー主流化を図っている事業は他ドナーによる支援も含めて少ない。

が所得の向上につながるというメッセージを農家に対して明確に発信するとともに、夫婦で家計を管理するという概念の導入やジェンダー公平な裨益配分を推進する取り組みを推進してきた。こうした取り組みは女性農家のモチベーションを大きく高めるとともに、男性側の意識と行動にも変容を促していく。結果として、男女が共同経営パートナーであるという意識改革が両者で進み、世帯における女性の意思決定への参画力が高まるとともに、男性と女性の両方の知見や経験を生かした効率的な農家経営（効果的な投資、効率的な労働、マーケティング）が促進されていく。こうした変容は、世帯内の生産性・所得・福祉・生活水準の向上に大きく貢献する要因のひとつであった³⁵。

（3）本支援における基本コンセプト及び支援アプローチ

1) 「ジェンダー主流化パッケージ」の開発と人材育成

本案件は、上記、SHEP の取り組みによる成果を踏まえ、SHEP 支援における一連の支援アプローチのなかから「ジェンダー主流化アプローチ」部分を切り出し、それらを他の作物に取り組む小規模農家支援事業においても適用・実践できるよう、体系的に整理・ブラッシュアップするとともに、農業省がこのアプローチを他の作物生産農家や貧困農家支援に対する事業においても適用・実践していけるように能力強化を図るものである。

旧農業本省においては、省内に各部局の代表から構成される「ジェンダー主流化委員会」や「ジェンダーサブ・ユニット」の設置を進めるなど、農業・農村開発事業においてジェンダー主流化を推進していくための組織体制については一定程度整えてきている。地方における農業事務所においても、ジェンダー担当官や家政担当官が配置されている。他方で、こうした組織上の体制は実質的には十分に機能してきていない。これまでに、普及・研修局下に設置されている「ジェンダーサブ・ユニット」が中心となって、省内及びフィールドレベルの職員に対するジェンダー研修などを実施してきてはいるものの、その内容は、ジェンダー概論を述べる程度にとどまっておき、実際に現場の普及活動をジェンダー視点に立ったものにしていくための実践的な研修や取り組みの推進には至っていない。また、研修の頻度も1年に一度、少数の職員に対するものにとどまっている。省内においては、SHEP におけるジェンダー視点からの取り組みについても、その成果が認知されてはいるものの、実際には、何をどのようにすべきかなど、具体的な実践手法は省内に十分に浸透していないのが実情でもある。

こうした中、本案件においては、普及・研修局及びジェンダーサブ・ユニットを支援して、SHEP のジェンダー主流化アプローチによる知見や教訓、研修内容や実践手法を、他の小規模農家支援事業との連携を通じてより体系的に整理し、それを「ジェンダー主流化パッケージ」という形で取りまとめる。同時に、旧農業省本省のジェンダー主流化委員会のメンバーや、小規模農家支援事業に従事する MALF 及び郡農業事務所のジェンダー担当官たちが、小規模園芸農家のみならず稲作や他の作物の生産に携わる他の小規模農家に対する農業普及の実践において、開発されたパッケージ適用・実践していけるよう人材育成を図る。

³⁵ 「ケニア国農業農村開発ジェンダー主流化基礎情報収集・確認調査」(JICA、2012年)

2) 「ジェンダー主流化パッケージ」とは何か。(具体的にはどのようなものを想定しているのか)

本プロジェクトで開発する「ジェンダー主流化パッケージ」とは、小規模農家支援事業の実施にあたり、男女共同参画型の農家経営を推進していくために、農業省がジェンダーの視点から実施していくべき一連の活動手順及びそれらの活動の実践にあたって必要な研修モジュール、チェックリスト、マニュアル、ガイドラインなど実践ツールを体系的に取りまとめたものを想定している³⁶。

通常、事業における「ジェンダー主流化」とは、計画策定から実施、M&Eのあらゆる段階で、男性と女性の社会的な役割の違いや力関係によって生じる女性の課題やニーズを踏まえ、ジェンダーに基づく課題やニーズ、インパクトを明確にしつつ、ジェンダー平等の視点を事業の企画立案段階から組み込んでいくプロセス及び活動群を指す。本パッケージにおいても、こうした基本概念を踏まえ、小規模農家支援事業の実施にあたって、ジェンダー主流化を図っていくためのプロセス/手順及び具体的な活動を、現状分析からM&Eの段階まで、一連の事業サイクルに沿ってより具体的に示すとともに、それらの活動を関係者が現場で実践していくにあたって必要となる研修モジュールや教材、実践マニュアルなどを整備していく。

本パッケージはSHEPのジェンダー主流化アプローチを基調とするが、園芸作物農家支援事業のみならず、国内の多様な作物(メイズ、キャッサバ、畜産など)・小規模農家支援事業に適用できる汎用性の高いものにしていく必要がある(付属資料4「ジェンダー主流化パッケージ(詳細版)」参照)。そのため、必要に応じて、それぞれの作目や農家・文化の特有性を加味した教材や実践ツールを開発・整備することが重要となるだろう。

3) 小規模農家支援事業との連携を通じたパッケージの開発と検証：パイロット活動の実施

本プロジェクトにおける「ジェンダー主流化パッケージ」の開発は、農業省が実施する小規模農家支援事業と連携した取り組みを通じて実施する計画となっている。具体的には、連携プロジェクトが対象とする5つのサブ・カウンティにおいて、それぞれ2農家グループ(計10農家グループ)程度を対象とする支援事業の実践の中でパッケージの開発並びに検証を行っていくことを想定している。

現在、農業省においては小規模農家を対象とする支援プロジェクトが約11程度実施されているところであるが、本調査においては、「東アフリカ農業生産性向上プロジェクト(EAAPP)³⁷」が最も有効性の高い連携先として確認された。EAAPPは、適正技術の開発とその普及を通じて小規模農家の生産性向上をめざす世銀融資の農業省直轄型国家プロジェクトである。現在、ケニア、エチオピア、タンザニア、ウガンダの4カ国で展開されている広域案件であるが、ケニア国内においては、酪農、コメ(陸稲)、コムギ、キャッサバ

³⁶ 「ジェンダー視点から実施していくべき一連の活動手順」(事業におけるジェンダー主流化)とは、ジェンダー視点からの現状分析、課題の抽出、活動計画の策定、活動実施(研修や技術の普及)、モニタリング・評価(M&E)の実施までの一連の活動を指す。

³⁷ EAAPPは東アフリカ地域における農業研究、農業研修と普及に係る域内連携、農業技術開発及び情報共有の強化を通じて、域内の農業の生産性向上と成長をめざす広域案件である。ケニアにおいては、酪農(14サブ・カウンティ)、コムギ(7サブ・カウンティ)、コメ(6サブ・カウンティ)及びキャッサバ(6サブ・カウンティ)の計32サブ・カウンティが支援対象であり、各サブ・カウンティにつき、2~3の農家グループが対象となっている。ナイロビにはプロジェクト本部が設置され、旧農業省や農業研究所を含む関連機関からの6名程度の出向者で構成されている。

を対象作物として、現在 32 サブ・カウンティで支援を展開している。ケニア国内における事業実施期間は 2010 年から 2014 年であるが、現在のところ 1 年間の延長が見込まれている。また、「適正技術開発」から、より「普及」を重視したフェーズ 2 の実施が予定されている。

本プロジェクトは、まずは、上記 EAAPP と連携して、支援対象地域から 2 カ所程度を選定し、対象地域における「酪農」「キャッサバ」「コメ」「コムギ」「メイズ」などの作目への取り組みの中で、EAAPP が支援する 2~3 の農家グループに対して、農業省関係者と共にジェンダー主流化に向けた活動を実践する³⁸。さらに、一連の活動プロセスやインパクトから得られた知見・教訓や研修教材等のツール類をまとめて、小規模農家支援事業への「ジェンダー主流化パッケージ」(案)を策定する(成果 1)。策定したパッケージ案については、EAAPP 並びに他の小規模農家支援事業による支援地域から、上記とは条件の異なる 3 サイト(サブ・カウンティ)においても適用・実践を図り、その効果と有効性を検証し、それぞれの作目や農家・文化等の特有性を加味した教材等を作成していくことを想定している。(成果 2)

具体的なパイロット地域については、地域性や栽培作物等も考慮し、農業省及び連携事業との協議を通じてプロジェクト開始後に決定することとするが、本調査中において、農業省及び EAAPP より、Meru 郡の Tigania West (コメ)、Embu 郡の Mbeere South (キャッサバ) 及び Makueni 郡の Kathonzweni (キャッサバ) の 3 サブ・カウンティが、パッケージ開発に向けたパイロット候補地として提案された。

本プロジェクトにおいては、EAAPP 以外の事業との連携も十分に可能であると思われる。例えば、現在農業省で実施されている「伝統的高価値作物プロジェクト (Traditional High Value Crops Project : THVCP)」は、小規模農家の農業生産性及び収入の向上に向けて、対象農家グループに対して種子の提供や各種技術支援を行ってきている支援事業である。これは、これまで女性がキッチンガーデンなどで栽培してきた伝統的な作物の栄養価並びに市場価値を見直し、これらの作物の生産性と質を高めることで、世帯における食料安全保障及び栄養改善を図ることをめざす貧困削減支援事業であり、零細農家が支援対象となっている。THVCP は、旧農業省の作物管理局下に置かれ、現在、省の職員 2 名が対象サブ・カウンティの職員や普及員とともにプロジェクト運営を行っているが、事業における包括的なジェンダー主流化活動は実践し得ておらず、JICA による本プロジェクトとの連携や協力の可能性については THVCP 関係者からも期待が寄せられている。

今後、具体的な連携先やパイロット地域については、プロジェクト開始後、農業省側と十分に協議のうえ速やかに選定していくことが求められる。

4) 連携のメリットは何か

EAAPP 及び THVCP 等と連携する利点は、①農業省直轄型の事業であること、②園芸作物以外の複数の作物を支援対象にしていること、③ジェンダー主流化活動が欠如していること、④支援対象地域が広範であること、などが挙げられる。さらに、対象地域において、連携パートナーによって既に選定・支援されている農家グループを対象とする活動が行え

³⁸ EAAPP 事業においては、ケニアを東アフリカにおける「酪農」の中核的研究拠点 (COE) と位置づけた活動を展開しており (Naivasha に Regional Dairy Centre of Excellency を設置)、本プロジェクトにおいても「酪農」における取り組みを含めることが期待されている。

ることで、本プロジェクトの実施にあたり、一連の農家グループ選定等にかかる時間と労力が省けることも連携するメリットのひとつであると思われる。

特に、EAAPP においては、32 サブ・カウンティ、THVCP においては、年間 110 サブ・カウンティを支援対象とした活動を展開していることから、連携を通じて、本プロジェクトの成果はこれら連携プロジェクトの他の対象地域にも拡大することが期待される³⁹。また、EAAPP は東アフリカ地域における広域案件であり、これらの事業との連携によって、本プロジェクトで開発する「ジェンダー主流化パッケージ」が、国内のみならず、他国へ普及されることも期待したい。

(4) 地方分権化改革の中で、開発されたパッケージはどのように活用・普及されていくのか。

現在、ケニアでは、地方分権化改革に伴い、中央及び地方行政の組織改編が行われているところである。旧農業省は、水産開発省、畜産開発省と統合され、「農業・畜産・水産省 (MALF)」として改編されるとともに、その役割は、一義的には、国家政策及び戦略の策定と事業計画の調整・監督、郡間の調整及び技術支援を担うものと位置づけられている。地方分権化改革の究極の目的は「権限移譲」であり、分権化に伴い、ケニアにおける郡政府の行政サービスの実施に係る独立性は今後更に高まることが想定される。

他方で、一朝一夕に郡政府が単独で、十分な行政サービスを提供できるようになるわけではない。地方行政が地方の独自性やニーズをより反映させた行政サービスを実現させていくには長いプロセスが必要であり、実際のところ、中央政府と地方自治体の連携、調整と協働が重要となることは、アフリカ諸国における地方分権化改革の経験からも多々指摘されてきている⁴⁰。ケニアにおいても、中央政府からのテクニカルバックストップ体制を構築し、分権化改革を下支えするような措置を講じておくことは極めて重要だろう。実際、現時点において、ケニア国政府は、郡以下の職員のキャパシティ構築については、少なくとも 3 年間の移行機関中は、本省の責任と認識している。さらに、本省との調整役を担うべく、郡農業事務所への、リエゾン・オフィサーの配置が決定している。また、複数の郡にまたがって実施される国家プロジェクトの運営は地方分権改革以降においても農業本省が管轄することになるとされているところである。

こうした中、本支援は、中央から郡（上位自治体）への技術指導と協働、郡からサブ・カウンティ（下位自治体）／サービス提供拠点への技術支援と連携強化と、行政間の重層的な結び付きを視野に入れて、国内における小規模農家に対する行政サービスの効果と効率性を最大化させていくという視点をもった計画となっている。

小規模農家支援事業に対してジェンダー主流化を図る際の具体的な手順や手法、実践ツールが「ジェンダー主流化パッケージ」として本省内に整備されるとともに、本省のジェンダー・ユニットの職員や小規模農家支援事業においてジェンダー主流化を担う担当者（ジェンダー主流化委員会のメンバー）、並びに郡行政のジェンダー担当官がそれらを実践・助言・指導する力を身に付けることで、中央本省が管轄する小規模農家に対する国内の広域事業並びに郡政府における行政サービスの実施において効果的なジェンダー主流化が促進されること

³⁹ 現在ケニア国内には、約 800 万の小規模農家が存在すると推定されている。本支援のパイロット事業において直接支援を行う農家数（10 農家グループ）は約 200～300 世帯である（1 農家グループ当たり 20～30 名のメンバー数を想定）。

⁴⁰ 「アフリカにおける地方分権化とサービスデリバリー」（JICA、2006 年）

が期待される。

さらに、本プロジェクトにおいては、パイロット地域以外の郡行政官や、他ドナー、農業学校や農業研修センターに対する共有ワークショップを実施して、国内の広い関係者に対する同パッケージを普及していく計画となっている。「ケニア農業学校」では、普及員や農業省の職員を対象にした研修が、また農業研修センターでは農家を対象とした各種技術研修が実施されている。農業研修センター及びケニア農業学校の管理・運営は、引き続き、MALF が管轄していくこととなっており、策定された同パッケージや、同パッケージに基づく研修の実施は、こうした関係機関においても活用されることが期待される。

(5) SHEP UP 及び他の JICA 事業とはどのように連動し相乗効果を図るか。

本プロジェクトは、SHEP 支援における一連の支援アプローチの中から「ジェンダー主流化アプローチ」部分を切り出し、それらを他の作物生産農家や貧困農家に対する支援事業においても適用・実践していけるよう能力強化を図るものである。現在、「小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト (SHEP UP)」が農業省の園芸作物局をカウンターパート (C/P) とし、小規模園芸農家を対象とした SHEP アプローチを広く国内に普及していく支援を行っているのに対し、本プロジェクトにおいては、普及・研修局を C/P として、他の作物にも取り組む国内の多様な小規模農家への支援事業に、SHEP 事業によって実施されたジェンダー主流化に基づく取り組みを広くメインストリーム化していくことをめざしている。

本プロジェクトにおいては、農業省関係者ととともに、SHEP のジェンダー主流化の取り組みについて学ぶことから活動をスタートさせる計画となっており、SHEP の C/P や関係者には、研修の講師等としての協力が期待される。他方、本プロジェクトによって、体系的に整理・ブラッシュアップされた「ジェンダー主流化パッケージ」は、SHEP UP による取り組みの強化や持続性の確保にも貢献するものと思われる⁴¹。さらに、JICA による協力プログラム下の各 JICA 事業へのジェンダー主流化が促進され、ケニアの「JICA による農業・農村開発協力プログラム」における戦略的目標の達成に貢献するコンポーネントのひとつとなることも期待したい。

(6) ジェンダー主流化と農家の「生計向上」

本支援では、ジェンダー主流化を通じて支援対象農家の「生計向上」をめざすことを上位目標として掲げている。一般に、「生計 (Livelihood)」とは、「生活をしていくための方法・手段」と定義されるが、これは世帯内における金銭的な所得や収益のみならず、土地や家屋などの財産、資産、食料や水、住居、衣服など、生活上のベーシックニーズの獲得に向けた個人の能力や資質を指して用いられる概念である。

ケニアにおいては、農業の 7 割を実質的には女性が担っているものの、女性は生産資源や

⁴¹ SHEP UPでは、県や区の行政能力の向上をも視野に入れた活動を強化している。他方で、ジェンダー主流化のスキルや実践については、現在、SHEP UPが実施するJEF2G研修 (Joint Extension and Farmers Dual (2) Gender研修) だけでは普及員が農家研修を効果的に実施するために必要とされる知識や技能を十分に取得できておらず、行政レベルにおける支援体制強化の必要性がSHEP UPの専門家・C/Pからも指摘されている。また、県や区の職員たちの、他の事務所やポストへの異動もみられるが、新しく派遣される下位レベルの職員や普及員たちは、ジェンダーに係る基礎的な分析能力やファシリテーション技術がないため、SHEPで培った成果が県に定着しづらい場合もあるとの指摘もなされている (SHEP UP 短期専門家報告書、2012年5月)。

生産機会のアクセスに恵まれておらず、資産や投入財、サービスの大部分においてジェンダ―格差がみられる。女性は、農業技術研修に参加する機会も少なく、世帯内で栽培作物の選定や販売、農業資材（肥料、薬、種子等）を購入する決定権をもたないことが多い。このような女性の意思決定権や各種生産財へのアクセス・所有を阻む現状や荷重な労働負担〔生産労働の負担と再生産労働（水汲み、薪集め、食事の準備、子どもの世話など）にかかる労働時間とその負担〕は、農業生産の多くを行う女性の技術の向上や生産性の向上を大きく阻んでいるという現状がある。こうした中、女性が男性と同様に生産資源へアクセスすることで、農業の生産性は2.5～4%増加する可能性があることが指摘されている⁴²。また、ジェンダ―格差や差別のある社会において、女性の世帯における発言力や意思決定力が高まることで世帯内における人的資本の形成や福祉の向上においても正の効果があることはさまざまな研究から明らかにされているところである⁴³。

一方で、これまでのJICAによる取り組みにおいて、ジェンダ―主流化と生計向上の相関性を定量的・定性的に明確に示してきているものは少ない。現在、エビデンスを示しつつ、結果重視型のジェンダ―主流化を推進していくことの重要性は国際的にも高く掲げられており、JICA事業においても、ジェンダ―主流化を行うことでどのように事業の効果を高め、どういう成果を出していくことができるのかを明確に示していくことは、今後の取り組みにおいて重要であると思われる。

こうした中、本プロジェクトにおいては、農家レベルにおける変容を成果とする視点に立ち、プロジェクト目標に対して対象小規模農家におけるジェンダ―関係及び生計の変化を測る指標を設定するとともに、支援対象農家に対するベースライン調査を実施し、本プロジェクトが、世帯におけるジェンダ―関係性の変容（男女共同参画型農家経営の推進）と男女農家の生計向上に資するものになっているかを、支援の前後を比較して確認できるように設計している。本プロジェクト実施の中で、ジェンダ―主流化活動によって発現する農家の変化やインパクトをきめ細かい視点で定性的・定量的に測りつつ、ジェンダ―関係の変革⁴⁴と世帯における生計の向上の相関性を、生産性や所得の向上に関する実証データも含めて明確に示していくことができれば、JICA内のみならず、国際的なジェンダ―主流化の取り組みにおいてもその質の向上とスケールアップに大きく貢献するものとなると思われる⁴⁵。

7-2 総括所感

本プロジェクトはケニア国農業・畜産・水産省（MALF）におけるジェンダ―主流化に取り組む技術協力プロジェクトである。その内容は、「MALFの小規模農家に対するジェンダ―視点に立った普及サービス実施能力の向上」を目標に、小規模農家の生産性や生計の向上に資する「ジェン

⁴² FAO（2012）女性と農業白書

⁴³ WB（2007）Global Monitoring Report、WB（2012）World Development Report、DFID（2008）3 Shultz、UNICEF（2008）世界子ども白書、USAID（2012）Women and Agriculture、SHEP事業における経験からも、ジェンダ―主流化に向けた活動が、世帯内に向けた活動が最も生産と所得向上に貢献した要因のひとつとして挙げられている（SHEP終了時評価報告書）。

⁴⁴ 農業生産に関する意思決定への参画の度合い、農業資源へのアクセス、男女の再生産労働にかかる時間と労働比率、グループにおける女性のリーダーシップの割合など。

⁴⁵ 本プロジェクトは、EAAPPなど他事業との連携を通じて実施することになっているが、連携プロジェクトと協力してジェンダ―主流化を図る場合と図らない場合を比較し、そのインパクトの差を測っていくといった取り組みも、ジェンダ―主流化に向けた実証調査として本プロジェクトの現場を活用し、別途検討することも可能かと思われる。

「ジェンダー主流化パッケージ」を開発するとともに、MALF 内のジェンダー主流化を担うジェンダーサブ・ユニットやジェンダー主流化委員会、農家支援を行うオフィサーの能力強化を図るものである。

JICA ではこれまでも、農業・農村開発分野において女性が果たす役割・責任を認識し、同分野での協力において、ジェンダー視点からの取り組みを進めてきた。SHEP はその好事例であり、本プロジェクトはそうした SHEP の成果の上に形成されたものであるが、一方で、今回のプロジェクトの特徴は、これまでの「個々の農業プロジェクトの中にジェンダー視点を入れる取り組み」から更に踏み込み、「個々の（すべての）農業プロジェクトの中にジェンダー視点を入れるために、MALF の“ジェンダー主流化力”を強化する」という点であり、JICA の支援としては新たな形である。

なお、他ドナーも MALF に対するジェンダー主流化支援を行っているが、上流の政策文書の作成や概念的なジェンダー研修が主であり、現場での実践につながらない、あるいは、フィールドレベルでの直接支援で、行政の組織能力強化がなされず自立発展性が低いといった声が聞かれる。本プロジェクトは、現場のジェンダー状況や男女のニーズを反映した、農家の生産性・生計向上につながる実践的なジェンダー主流化の方法・ツールを開発し、それを継続・発展的に使っていくような組織・人的キャパシティを強化するものであり、他ドナーとは一味違う JICA ならではの支援といえる。

本プロジェクトでは上述のとおり、MALF がさまざまな農業普及活動において適用可能なジェンダー主流化のためのコンテンツ＝「ジェンダー主流化パッケージ」を開発するが、そのコンテンツ開発・検証のためのパイロット地域をどういう形で確保するかが、今回の調査における課題のひとつであった。園芸農家以外へも適用できるパッケージの開発のためには、他の作物に対する普及活動の現場が必要であり、各方面から情報収集を行った結果、現時点で世銀の融資で実施されている「東アフリカ農業生産性向上プログラム（EAAPP）」が有力候補として挙がっている。パイロット地域の決定はプロジェクト開始後に MALF と共に詳細を検討したうえで行うことになるが、EAAPP はエチオピア、タンザニア、ウガンダを含む広域案件で、将来的なプロジェクト成果の広域拡大の可能性の観点から、また、ある程度成果が見えてきた段階において世銀との連携案件としてのスケールアップや効果的な対外発信が期待できることから、連携先のひとつとして妥当性は高いと思われる。ケニアにおいてはほかにも多くの農業普及事業が展開されているが、パイロット地域としての連携以外にも、プロジェクト期間を通じ、そうしたプログラムやプロジェクトとさまざまな機会をとらえて情報交換や交流を行うことにより、本プロジェクトにより開発された「ジェンダー主流化パッケージ」が広く普及し活用されることが期待できる。

今回の調査期間中を通じて最も印象深かったのは、MALF の本プロジェクトに対する大きな期待と強いコミットメントであった。ケニア政府は「農業セクター開発戦略 2010-20」でジェンダー平等、女性の社会参加促進を明確に打ち出し、「農業省ジェンダー主流化戦略」も策定しているが、政策・戦略はあっても往々にしてそれが個々の職員の意識にまで浸透しないのが通例である。しかしながら、今回面談した農業省関係者は、中央からフィールドレベルまで、農業分野におけるジェンダー平等、女性の参画の重要性、必要性を明確に認識しており、現状では現場において十分なジェンダー主流化がなされていないこと、そのため、本プロジェクトを通じて MALF の普及活動におけるジェンダー主流化を強化したいとの考えを口々に表明した。これまでの日本サイドでの本プロジェクトに関する議論との温度差は大きく、当事者の生の声を聞くことの重要性を再

認識した。

本プロジェクトに対する期待の大きさには、本プロジェクトの産みの親である SHEP をはじめとするこれまでの JICA 支援に対する農業省の高い評価があることはいうまでもない。専属 C/P 4 名の配置について、先方の了解が即座に得られたのも、MALF のジェンダー主流化に対する意欲と併せ、SHEP 等の実績に基づく JICA の協力に対する信頼によるところが大きいものと思われる。本プロジェクトにおいても、実践的で有用な「ジェンダー主流化パッケージ」の開発、またその開発と実践・検証の過程において、パイロット地域での男女農家の収入・生計向上の状況を丁寧にモニタリングし、具体的な成果を目に見える形で示していくことが肝要である。

MALF の組織改編により、農業部門担当次官（Principal Secretary）の Mrs. Sicily K. Kariuki は就任直後で、7月4日に M/M 署名式を行った本プロジェクトは、彼女が署名した初のプロジェクトとなった。本プロジェクトが次官に強く印象づけられ、署名式で次官から本プロジェクトへの強いコミットメントが表明されたことは、本プロジェクトにとって追い風であり、幸運な出だしといえる。

付 属 資 料

- 1 . PDM (Ver. 0)
- 2 . 協議議事録 (M/M)
- 3 . 討議議事録 (R/D)
- 4 . ジェンダー主流化パッケージ (詳細版)
- 5 . 面談録
- 6 . 農業省傘下プロジェクト情報共有会合議事録
- 7 . 小規模農家支援事業概要

Project Design Matrix (PDM) for the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Ver. 1.2, July 22nd, 2013

Project Title: The Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Duration: 3 years from the date of the dispatch of Japanese Experts **Implementing Agency:** Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries

Beneficiaries: Relevant officers of MALF and Smallholder farmers in pilot sub-counties

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators ¹ | Means of Verification | Important Assumptions |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Overall Goal The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.²</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the farmer groups supported by smallholder agriculture projects which has introduced Gender Mainstreaming Package in division of labour, decision-making and others at household and community level - Extent of livelihood improvement of both men and women in the farmer groups supported by smallholder agriculture projects which has introduced Gender Mainstreaming Package | <ul style="list-style-type: none"> - Data from relevant surveys for households | |
| <p>Project Purpose Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) - Gender Mainstreaming Package is authorized by MALF - Gender Mainstreaming Package is introduced to at least X number of smallholder agriculture projects of MALF by gender sub unit and GM committee | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline and M&E Studies Reports - Reports by government & dev't partners | <ul style="list-style-type: none"> - There is no drastic change in the Ministry's Gender Mainstreaming Policy and Strategy. |
| <p>Outputs 1. The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of</p> | <p>1-1. The "Gender Mainstreaming Package(GMP)" developed</p> | <p>1 GMP</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart Personnel are not to be transferred. - Change of government |

¹ Details of the indicators are to be set during the term of the project.

² The term "livelihood" here encompasses people's capabilities, assets, income and activities to enhance well-being of households. An improvement of livelihood here can be measured from various aspects: e.g. increased family assets, household income, relief from time poverty, access to basic necessities of life such as food, water, shelter, clothing, health, education, etc.

The appropriate indicators to monitor the livelihood improvement of target farmers in this Project should be developed based on the result of the baseline survey.

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>smallholder farmers, is developed.</p> <p>2. MALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the Gender Mainstreaming Package in smallholder agriculture projects.</p> <p>3. The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.</p> | <p>2-1. Developed Training Program to implement "Gender Mainstreaming Package"</p> <p>2-2. At least XX% of participants of each training of the Project properly understand the content of the training on the Gender Mainstreaming Package</p> <p>3-1. A Workshop to share the developed "Gender Mainstreaming Package" with concerned agricultural technical officers is conducted in 3 Counties at least.</p> <p>3-2. The "Gender Mainstreaming Package" is integrated into the training curriculums and program of Agriculture Training Centers (ATC) in Kenya.</p> <p>3-3 At least XX sub-counties introduce the "Gender Mainstreaming Package" in their agriculture project</p> | <p>2-1 Report &/or activity records</p> <p>2-2 Training records of the Project, direct observation, evaluation by experts</p> <p>2-3 Reports by government & dev't partners</p> <p>3-1 Reports of government</p> <p>3-2 Reports of ATCs</p> <p>3-3 Reports by government & dev't partners</p> | <p>structure does not affect severely to the project activities.</p> <p>- Peace and order in the target area is kept.</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Activities</p> <p>0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-2. Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-3. Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project</p> <p>0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.</p> <p>1-1. Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities.</p> <p>1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.</p> <p>1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).</p> <p>1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).</p> <p>1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)</p> <p>1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials.</p> <p>1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.</p> <p>1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.</p> <p>1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)</p> <p>1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.</p> | <p>Input</p> <p><u>From Japan Side Assignment of Japanese Experts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Chief Adviser • Gender in Agriculture • Monitoring & Evaluation • Other expert <p><u>Training in Japan &/or third countries</u></p> <p><u>Provision of Equipment</u></p> <p><u>Project Activity Cost</u></p> | <p><u>From Kenya side Assignment of counterparts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Project Director • Project Manager • National Project Coordinator • Administration staff <p><u>Arrangement of Office Space and equipment for the Project</u></p> <p><u>Operational cost for the Unit.</u></p> | <p>- Change of government structure does not affect severely to the project activities.</p> <p>- Peace and order in the target area is kept.</p> <p>Pre-Conditions</p> <p>- The appropriate number of counterpart staff with relevant capacity and experiences are assigned.</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| <p>1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.</p> <p>2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.</p> <p>2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (and verify) the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.</p> <p>2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.</p> <p>3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.</p> <p>3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.</p> | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

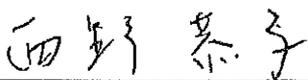
**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE DETAILED PLANNING SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF KENYA
ON
THE PROJECT ON ENHANCING PROFITABILITY BY PROMOTING GENDER
SENSITIVE EXTENSION SERVICES IN KENYA**

In response to the request from the Government of the Republic of Kenya, Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") dispatched the Detailed Planning Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") headed by Ms. Yasuko Nishino from 16th of June to 6th of July 2013, for the purpose of discussing the framework of the requested technical cooperation project entitled "Project on Enhancing Profitability by Promoting Gender Sensitive Extension Services in Kenya" (hereinafter referred to as "the Project").

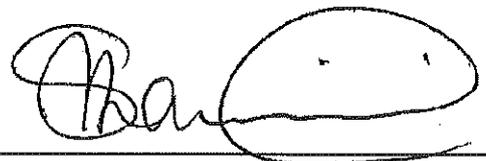
During its stay in the Republic of Kenya, the Team had a series of discussions on the design of the Project with the Kenyan authorities concerned (hereinafter referred to as "the Kenyan side") and exchanged views on the Project with respect to the preferable measures to be taken by both sides for smooth implementation of the Project.

As a result of the discussions, both sides reached common understandings concerning the design and framework of the Project referred to in the document attached hereto.

Nairobi, 4th, July, 2013



Yasuko Nishino (Ms.)
Head of the Detailed Planning Survey Team and
Director of Office for Gender Equality and
Poverty Reduction
Japan International Cooperation Agency



Sicity K. Kariuki (Mrs), MBS
Principal Secretary
State Department of Agriculture,
Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries,
The Republic of Kenya

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Background

The Ministry of Agriculture, with a technical cooperation from JICA, had implemented a Smallholder Horticulture Empowerment Project (SHEP) during the period of 2006-2009 in order to improve production and productivity of smallholder horticulture farmers. SHEP introduced gender mainstreaming approach in the course of its project implementation, and has shown that the empowerment of both women and men in agriculture has a significant influence on effective gender-equal-farm management, agricultural profitability and livelihood improvement.

By acknowledging the achievement of SHEP gender mainstreaming approach, the Government of Kenya through the Ministry of Agriculture requested the Government of Japan to support the Ministry to strengthen its institutional capacity to integrate gender in its agriculture extension services to increase agriculture profitability and livelihood improvement of the smallholder female and male farmers in Kenya.

The proposal for a new technical cooperation project was approved by the Government of Japan, and the Detailed Planning Survey team has been dispatched to discuss the design of the Project and to work out the plan for the cooperation scheme of JICA.

2. Framework of the Project

As the result of the discussions, both sides agreed, in principle, on the framework and implementation plan of the Project which is given as Framework of the Project (Annex I), Project Design Matrix (Annex II), Plan of Operation (Annex III) and Draft Record of Discussions (Annex IV).

The Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operation (PO) will be determined when the Record of Discussion (R/D) is signed by the Chief Representative of JICA Kenya Office and the representative of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF). However, PDM and PO are to be flexibly amended in view of the progress and achievements of the Project based upon agreement by the Project Steering Committee of the Project.

(1) Project Title

Both sides agreed to change the project title from “Project on Enhancing Profitability by Promoting Gender Sensitive Extension Services in Kenya” to “Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya (PEGRES)” based on the framework of the Project.

(2) Duration of the Project

Both sides agreed that the duration of the project is for three (3) years from the date of the dispatch of Japanese Expert.



(3) Concept and Approach of the Project

Based on a series of interviews and consultations, both sides agreed on the concept and approaches of the Project as follows;

1) Development of Gender Mainstreaming Package

The Project will develop the Gender Mainstreaming Package which contributes to profitable and gender equal farm management for livelihood improvement of smallholder farmers by fully utilizing the experience, knowledge and lessons learnt from SHEP gender mainstreaming approach as well as of other development programs and projects. This Gender Mainstreaming Package will include a number of practical and operational tools which will assist the relevant technical officers of MALF and County Directors of Agriculture (CDAs) to mainstream gender throughout the project cycle, from planning to evaluation, of smallholder agriculture projects in Kenya. It is expected that the Package serves as a resource for agriculture technical officers of MALF, CDA and other development partners working in any agriculture projects for smallholder farmers in Kenya.

2) Partnership with other Agriculture Projects

The Project will develop the Gender Mainstreaming Package in partnership with other agriculture projects under MALF which work for livelihood improvement of smallholder farmers. In doing so, the Project will select pilot sub-counties in close collaboration with such partner projects and will work on a variety of commodities. MALF will facilitate the establishment of the partnership between the Project and other agriculture projects to develop and verify the Gender Mainstreaming Package.

3) Capacity building

The Project will enhance capacities of the relevant technical officers of MALF through a series of activities in the course of the Project implementation.

(4) Target group and beneficiaries

The purpose of the Project is to enhance the institutional capacity of the MALF to promote gender responsive extension services. Hence, the primary targets of the Project are the relevant technical officers of MALF including the Gender Mainstreaming Committee (GMC) members who engage in agriculture projects for smallholder farmers. Beneficiaries of the Project include relevant officers of targeted counties and sub-counties, and smallholder farmers in pilot areas.

(5) Pilot areas

The project will implement pilot projects to develop and test the Gender Mainstreaming Package which will be adopted in any smallholder agriculture projects working on a variety of commodities.

1) The number of pilot areas

The Project will implement pilot projects in five (5) sub-counties.



2) The criteria for the selection of pilot areas

The target areas will be determined based on the following criteria;

- i. In order to develop the Gender Mainstreaming Package in Output 1, two (2) pilot sub-counties should be selected from those target area of a partner project which work on different commodities.
- ii. Three (3) pilot sub-counties should be selected from those of target sub-counties where the partner projects are working in order to verify the applicability of the Gender Mainstreaming Package in different smallholder agriculture projects.
- iii. The pilot sub-county should not be selected from those sub-counties which receive support from SHEP-UP.

The Kenyan side suggests the following sub-counties as pilot areas:

Tigania West, Meru (Nerica Rice)
Mbeere South, Embu (Cassava)
Kathonzweni, Makueni (Cassava)

Further discussions will be held to decide the pilot sub-counties after the commencement of the Project.

(6) Implementation Organization of the Project

The Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF) is the agency responsible for implementation of the Project.

(7) Implementation Structure

For effective and smooth implementation of the Project, the Project will require following officers in charge.

Kenyan side

- 1) **Project Director:** who will bear overall responsibility of the administration and implementation of the Project
Director, Directorate of Extension and Training, State Department of Agriculture, MALF
- 2) **Project Manager:** who will facilitate activities of the Project through the coordination between the Cross Cutting Issue Unit of MALF and the Project Implementation Unit
Head of Cross Cutting Issue Unit, MALF
- 3) **National Project Coordinator:** who will be responsible for the managerial and technical matters as well as the daily activity implementation of the Project
National Project Coordinator will be assigned before the commencement of

the Project

4) Counterpart Personnel

At least four (4) officers need to be exclusively assigned for the Project implementation composed of i) National Project Coordinator, ii) Training Expert who is familiar with SHEP gender approach, iii) Monitoring and Evaluation Expert, and iv) Administration staff

Japanese side

The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Kenyan counterparts on technical matters pertaining to the implementation of the Project. Furthermore, the Japanese Chief Advisor will provide necessary advice and recommendations to the Project Director, the Project Manager and National Project Coordinator on any matters pertaining to the Project.

Kenyan counterpart personnel, Japanese Chief Advisor and other Japanese experts will compose the Project Implementation Unit (PIU) which will be responsible for execution of all project activities.

(8) Project Management

1) Project Steering Committee (PSC)

To ensure effective and successful implementation of the Project, the PSC will be established. The PSC will be the highest decision-making organ of the Project and will be responsible for policy direction and approval of project work plans and budgets. The PSC will be held at least twice a year to provide an advisory support to the project implementation, and the Government of Kenya and JICA shall consult each other on any issues that arise. The composition of the PSC member is described as below:

Kenyan side:

Principal Secretary of State Department of Agriculture (Chairperson)
Directors of State Department of Livestock
Directors of State Department of Fisheries
Director, Directorate of Extension and Training (Project Director)
Director, Directorate of Crop Management
Head of Cross Cutting Issue Unit, MALF (Project Manager)
National Project Coordinator

Japanese side:

Chief Advisor
Chief Representative, JICA Kenya Office

Co-opted members:

Representative of Relevant Cooperation Partners
Gender Directorate, Ministry of National Planning and Devolution



2) Project Management Committee (PMC)

The PMC will be responsible for the technical matters of the project and for review of work plans, budgets and necessary reports. The PMC will be held periodically.

Kenyan side:

Project Director
Project Manager
National Project Coordinator

Relevant officers of Gender Mainstreaming Committee of MALF
County Directors of Agriculture from pilot counties
Sub-County Agricultural Officers from pilot sub-counties
Staff of the Partner Project(s)

Japanese side:

Chief Advisor
Other experts

3. Measures to be taken for the Project

(1) Measures to be taken by the Kenyan side

The Kenyan side will take, at its own expense, the following measures to ensure the self-reliant operation of the Project.

- 1) Assignment of counterpart personnel
- 2) Provision of facilities such as office space and equipment for the Project
- 3) Operating cost necessary for the implementation of the Project (electricity, water supply and communication fee and etc.)
- 4) Securing counterpart fund for the Project

(2) Measures to be taken by JICA

JICA will take, at its own expense, the following measures to promote the self-reliant efforts of the Kenyan side.

- 1) Dispatch Japanese Experts for the Project as indicated in PDM
- 2) Training for counterpart personnel in Japan and/or in third countries
- 3) Provision of equipment for the Project where necessary
- 4) Cost for project activities

4. Other Relevant Issues for Implementation of the Project

- (1) Based on the mutual agreement, a Record of Discussion (R/D) will be prepared and signed by both sides before the commencement of the Project.
- (2) For the smooth commencement of the Project, the Government of Kenya will timely assign counterpart personnel and establish the office for the PIU.



(3) The commencement of the Project is expected to be the first quarter of the year 2014.

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| ANNEX I | FRAMEWORK OF THE PROJECT |
| ANNEX II | PROJECT DESIGN MATRIX (PDM) |
| ANNEX III | PLAN OF OPERATION (PO) |
| ANNEX IV | DRAFT OF RECORD OF DISCUSSION (R/D) |



Framework of the Project

The Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services In Kenya

【Overall Goal】 :

The livelihood of the small holder female and male farmers is improved.

【Project Purpose】

Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.

【Outputs】

1. The “Gender Mainstreaming Package” for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed.
2. MALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the “Gender Mainstreaming Package” in smallholder agriculture projects.
3. The “Gender Mainstreaming Package” is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.

Activities

- 0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.
- 0-2. Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.
- 0-3. Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project.
- 0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the “Gender Mainstreaming Package”.
- 0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.

- 1-1. Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities.
- 1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.
- 1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).
- 1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).
- 1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)
- 1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials.
- 1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.
- 1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.

- 1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)
- 1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.
- 1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.

- 2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".
- 2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.
- 2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (/and verify) the "Gender Mainstreaming Package".
- 2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.
- 2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.

- 3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.
- 3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.



Project Design Matrix (PDM) for the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Ver. 1, July, 2013

Project Title: The Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Duration: 3 years from the date of the dispatch of Japanese Experts

Implementing Agency: Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries

Beneficiaries: Relevant officers of MALF and Smallholder farmers in pilot sub-counties

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators ¹ | Means of Verification | Important Assumptions |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Overall Goal The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline study and other relevant surveys for households | |
| <p>Project Purpose Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline and M&E Studies Reports - Reports by government & dev't partners | <ul style="list-style-type: none"> - There is no drastic change in the Ministry's Gender Mainstreaming Policy and Strategy. |
| <p>Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed. 2. MALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the Gender Mainstreaming Package in smallholder agriculture projects. | <ol style="list-style-type: none"> 1. The "Gender Mainstreaming Package(GMP)" developed 2-1. Developed Training Program to implement "Gender Mainstreaming Package" 2-2. At least XX% of participants properly understand the content of the training on the Gender Mainstreaming Package | <ul style="list-style-type: none"> 1 GMP 2-1 Report &for activity records 2-2 Training records of the Project, direct observation, | <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart Personnel are not to be transferred. - Change of government structure does not affect severely to the project activities. - Peace and order in the target area is kept. |

¹ Details of the indicators are to be set during the term of the project.

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>3. The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.</p> | <p>3-1. A Workshop to share the developed "Gender Mainstreaming Package" with concerned agricultural technical officers is conducted in 3 Counties at least.</p> <p>3-2. The "Gender Mainstreaming Package" is integrated into the training curriculums and program of Agriculture Training Centers (ATC) in Kenya.</p> <p>3-3 At least XX sub-counties introduce the "Gender Mainstreaming Package" in their agriculture project</p> | <p>evaluation by experts 2-3 Reports by government & dev't partners</p> <p>3-1 Reports of government</p> <p>3-2 Reports of ATCs</p> <p>3-3 Reports by government & dev't partners</p> | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

51

ANNEX II

| <p><u>Activities</u></p> <p>0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-2. Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-3. Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project</p> <p>0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.</p> <p>1-1. Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities.</p> <p>1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.</p> <p>1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).</p> <p>1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).</p> <p>1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)</p> <p>1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials.</p> <p>1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.</p> <p>1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.</p> <p>1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)</p> | <p><u>Input</u></p> <p><u>From Japan Side</u> <u>Assignment of Japanese Experts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · Chief Adviser · Gender in Agriculture · Monitoring & Evaluation · Other expert <p><u>Training in Japan &/or third countries</u></p> <p><u>Provision of Equipment</u></p> <p><u>Project Activity Cost</u></p> | <p><u>From Kenya side</u> <u>Assignment of counterparts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · Project Director · Project Manager · National Project Coordinator · Administration staff <p><u>Arrangement of Office Space and equipment for the Project</u></p> <p><u>Operational cost for the Unit.</u></p> | <p>- Change of government structure does not affect severely to the project activities.</p> <p>- Peace and order in the target area is kept.</p> <p><u>Pre-Conditions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> · The appropriate number of counterpart staff with relevant capacity and experiences are assigned. |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | |

| | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| <p>1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.</p> <p>1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.</p> <p>2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.</p> <p>2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (and verify) the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.</p> <p>2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.</p> <p>3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.</p> <p>3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.</p> | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

Tentative Plan of Operation(PO)

ANNEX III

| | | Year 1 (2014) | | | | Year 2 (2015) | | | | Year 3 (2016) | | | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|
| | | I | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV |
| 0 | Preparation | | | | | | | | | | | | |
| 0-1 | Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | |
| 0-2 | Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | |
| 0-3 | Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project | | | | | | | | | | | | |
| 0-4 | Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package". | | | | | | | | | | | | |
| 0-5 | In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities. | | | | | | | | | | | | |
| 1 | The Gender Mainstreaming Package for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed. | | | | | | | | | | | | |
| 1-1 | Prepare draft working materials and guidelines to be used in Activities 1-2 to 1-12, referring to the SHEP gender materials. | | | | | | | | | | | | |
| 1-2 | Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities. | | | | | | | | | | | | |
| 1-3 | Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-4 | Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-3). | | | | | | | | | | | | |
| 1-5 | Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3) | | | | | | | | | | | | |
| 1-6 | Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data ("Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis) | | | | | | | | | | | | |
| 1-7 | Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials. | | | | | | | | | | | | |
| 1-8 | Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-9 | Monitor and support the officers trained under Activity 1-8 to conduct training for the target farmers groups. | | | | | | | | | | | | |
| 1-10 | Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-4) of each sub-counties (e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.) | | | | | | | | | | | | |
| 1-11 | Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-12 | Taking into account the outcomes of the M&E study (1-11), prepare the draft Gender Mainstreaming Package for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-2 ~ 1-11) incorporated. | | | | | | | | | | | | |

(DRAFT)

RECORD OF DISCUSSIONS

ON

PROJECT ON ENHANCING GENDER RESPONSIVE EXTENSION
SERVICES IN KENYA

IN

REPUBLIC OF KENYA

AGREED UPON BETWEEN

MINISTRY OF AGRICULTURE, LIVESTOCK AND FISHERIES

AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Nairobi, [date]

Name
Chief Representative,
JICA Kenya Office

Name
Principal Secretary
State Department of Agriculture,
Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries,
Republic of Kenya

Name
Principal Secretary
Ministry of Finance,
Republic of Kenya



30

Based on the minutes of meetings on the Detailed Planning Survey on the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya (hereinafter referred to as "the Project") signed on 4th July, 2013 between Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (hereinafter referred to as "MALF") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with MALF and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and the main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2 respectively.

Both parties also agreed that MALF, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of the Republic of Kenya (hereinafter referred to as "Kenya").

The Project will be implemented within the framework of the Agreement on Technical Cooperation signed on 24th April 2004 (hereinafter referred to as "the Agreement") and the Note Verbales exchanged on [date] between the Government of Japan (hereinafter referred to as "GOJ") and Government of Kenya (hereinafter referred to as "GOK").

The effectiveness of the record of discussions is subject to the approval of JICA.

Appendix 1: Project Description

Appendix 2: Minutes of Meetings of Detailed Planning Survey on the Project

6



PROJECT DESCRIPTION

Both parties confirmed that there is no change in the Project Description agreed on in the minutes of meetings on the concerning Detailed Planning Survey on the Project signed on 4th July 2013(Appendix 2).

I. BACKGROUND

The Ministry of Agriculture, with a technical cooperation from JICA, had implemented a Smallholder Horticulture Empowerment Project (SHEP) during the period of 2006-2009 in order to improve production and productivity of smallholder horticulture farmers. SHEP introduced gender mainstreaming approach in the course of its project implementation, and has shown that the empowerment of both women and men in agriculture has a significant influence on effective gender-equal-farm management, agricultural profitability and livelihood improvement.

By acknowledging the achievement of SHEP gender mainstreaming approach, the Government of Kenya through the Ministry of Agriculture requested the Government of Japan to support the Ministry to strengthen its institutional capacity to integrate gender in its agriculture extension services to increase agriculture profitability and livelihood improvement of the smallholder female and male farmers in Kenya.

The proposal for a new technical cooperation project was approved by the Government of Japan, and the Detail Design Study team was dispatched to discuss the design of the Project and to work out the plan for the cooperation scheme of JICA.

II. OUTLINE OF THE PROJECT

1. Title of the Project

Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

2. Overall Goal

The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.

3. Project Purpose

Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.

4. Outputs

- 1) The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed.
- 2) MALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the "Gender Mainstreaming Package" in smallholder agriculture projects.

- 3) The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.

5. Activities

- 0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.
 - 0-2. Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.
 - 0-3. Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project.
 - 0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".
 - 0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.
-
- 1-1. Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities.
 - 1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.
 - 1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).
 - 1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).
 - 1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)
 - 1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials.
 - 1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.
 - 1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.
 - 1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)
 - 1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.
 - 1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.
-
- 2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".
 - 2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.
 - 2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (/and verify) the Gender Mainstreaming Package.
 - 2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the Gender Mainstreaming Package in the target smallholder agriculture project.
 - 2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and

finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.

- 3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.
- 3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.

6. Input

(1) Input by JICA

- (a) Dispatch of Experts
 - Chief Advisor
 - Gender in Agriculture Expert
 - Monitoring and Evaluation Expert
 - Other experts as necessary upon agreement
- (b) Training
 - Training for Counterpart personnel
- (c) Provision of Equipment
 - Necessary equipment for the effective project implementation

Input other than indicated above will be determined through mutual consultations between JICA and MALF during the implementation of the Project, as necessary.

(2) Input by MALF

MALF will take necessary measures to provide at its own expense:

- (a) Services of MALF's counterpart personnel and administrative personnel as referred to in II-7;
- (b) Suitable office space with necessary equipment;
- (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA;
- (d) Credentials or identification cards;
- (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project;
- (f) Running expenses necessary for the implementation of the Project;
- (g) Expenses necessary for transportation within Kenya of the equipment referred to in II-6 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof; and
- (h) Necessary facilities to the JICA experts for the remittance as well as utilization of the funds introduced into Kenya from Japan in connection with the implementation of the Project

7. Implementation Structure

The Project organization chart is given in the Annex II. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) MALF

(a) Project Director

Project Director will bear overall responsibility of the administration and implementation of the Project: Director, Directorate of Extension and Training,



MALF

(b) Project Manager

Project Manager will facilitate activities of the Project through the coordination between the Cross Cutting Issue Unit of MALF and the Project Implementation Unit: Head of Cross Cutting Issue Unit, MALF

(c) National Project Coordinator

National Project Coordinator will be responsible for the managerial and technical matters as well as the daily activity implementation of the Project (to be determined by the signing of R/D)

(2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to MALF on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(3) Project Steering Committee (PSC)

To ensure effective and successful implementation of the technical cooperation for the Project, the PSC will be established. PSC will be the highest decision-making organ of the Project and will be responsible for policy direction and approval of project work plans and budgets. The PSC will be held at least twice a year to provide advisory support to the project implementation, and The Government of Kenya and JICA shall consult with each other on any issues that arise. A list of proposed members of PSC is shown in the Annex IV.

(4) Project Management Committee (PMC)

The PMC will be responsible for the technical matters of the project and for review of work plans, budgets and necessary reports. The PMC will be held periodically. A list of proposed members of PMC is shown in the Annex V.

(5) Project Implementation Unit (PIU)

The PIU will be responsible for execution of all project activities. A list of proposed members of PIU is shown in the Annex VI.

8. Target Groups and Beneficiaries

The primary targets of the Project are the relevant technical officers of MALF including the Gender Mainstreaming Committee (GMC) members who engage in agriculture projects for small holder farmers. Beneficiaries of the Project include relevant officers of targeted counties and sub-counties, and smallholder farmers in pilot areas.

9. Duration

Three (3) years from the date of the dispatch of Japanese Expert.

10. Environmental and Social Considerations

MALF agreed to abide by "JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations" in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.



⑥

III. UNDERTAKINGS OF MALF

1. MALF will take necessary measures to:

- (1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Kenya nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Kenya, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of Kenya from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project;
- (2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in II-6 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Kenya; and
- (3) provide security-related information as well as measures to ensure the safety of the JICA experts.

IV. EVALUATION

JICA and the MALF will jointly conduct the following evaluations and reviews.

1. Mid-term review at the middle of the cooperation term
2. Terminal evaluation during the last six (6) months of the cooperation term

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify sustainability and impact of the Project and draw lessons. The MALF is required to provide necessary support for them.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, MALF will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of Kenya.

VI. MUTUAL CONSULTATION

JICA and MALF will consult with each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VII. AMENDMENTS

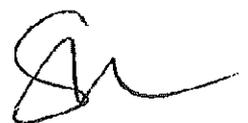
The record of discussions may be amended by the minutes of meetings between JICA and MALF.

The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.



- Annex I Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)
- Annex II Tentative Plan of Operation (PO)
- Annex III Implementation Structure
- Annex IV A List of Proposed Members of Project Steering Committee (PSC)
- Annex V A List of Proposed Members of Project Management Committee (PMC)
- Annex VI A List of Proposed Members of Project Implementation Unit (PIU)

6



ANNEX 1

Project Design Matrix (PDM) for the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Ver. 1, July, 2013

Project Title: The Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

Duration: 3 years from the date of the dispatch of Japanese Experts

Implementing Agency: Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries

Beneficiaries: Relevant officers of MALF and Smallholder farmers in pilot sub-counties

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators ¹ | Means of Verification | Important Assumptions |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Overall Goal The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline study and other relevant surveys for households | |
| <p>Project Purpose Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline and M&E Studies Reports - Reports by government & dev't partners | <ul style="list-style-type: none"> - There is no drastic change in the Ministry's Gender Mainstreaming Policy and Strategy. |
| <p>Outputs 1. The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed. 2. MALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the "Gender Mainstreaming Package" in smallholder agriculture projects.</p> | <p>1. The Gender Mainstreaming Package (GMP) developed</p> <p>2-1. Developed Training Program to implement Gender Mainstreaming Package</p> <p>2-2. At least XX% of participants properly understand the content of the training on the Gender Mainstreaming Package</p> | <p>1 GMP</p> <p>2-1 Report &/or activity records</p> <p>2-2 Training records of the Project, direct observation,</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart Personnel are not to be transferred. - Change of government structure does not affect severely to the project activities. - Peace and order in the target area is kept. |

¹ Details of the indicators are to be set during the term of the project.

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>3. The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.</p> | <p>3-1. A Workshop to share the developed Gender Mainstreaming Package with concerned agricultural technical officers is conducted in 3 Countries at least.</p> <p>3-2. The Gender Mainstreaming Package is integrated into the training curriculums and program of Agriculture Training Centers (ATC) in Kenya.</p> <p>3-3 At least XX sub-counties introduce the Gender Mainstreaming Package in their agriculture activities</p> | <p>evaluation by experts 2-3 Reports by government & dev't partners</p> <p>3-1 Reports of government</p> <p>3-2 Reports of ATCs</p> <p>3-3 Reports by government & dev't partners</p> | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

14

| | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Activities</p> <p>0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-2. Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-3. Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project</p> <p>0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.</p> <p>1-1. Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities.</p> <p>1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.</p> <p>1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).</p> <p>1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).</p> <p>1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)</p> <p>1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials.</p> <p>1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.</p> <p>1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.</p> <p>1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)</p> <p>1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.</p> | <p><u>Input</u></p> <p><u>From Japan Side</u> <u>Assignment of Japanese Experts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Chief Adviser • Gender in Agriculture • Monitoring & Evaluation • Other expert <p><u>Training in Japan &/or third countries</u></p> <p><u>Provision of Equipment</u></p> <p><u>Project Activity Cost</u></p> <p><u>From Kenya side</u> <u>Assignment of counterparts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Project Director • Project Manager • National Project Coordinator • Administration staff <p><u>Arrangement of Office Space and equipment for the Project</u></p> <p><u>Operational cost for the Unit.</u></p> | <ul style="list-style-type: none"> - Change of government structure does not affect severely to the project activities. - Peace and order in the target area is kept <p><u>Pre-Conditions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - The appropriate number of counterpart staff with relevant capacity and experiences are assigned. |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| <p>1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.</p> <p>2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.</p> <p>2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (and verify) the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.</p> <p>2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.</p> <p>3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.</p> <p>3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.</p> | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

62

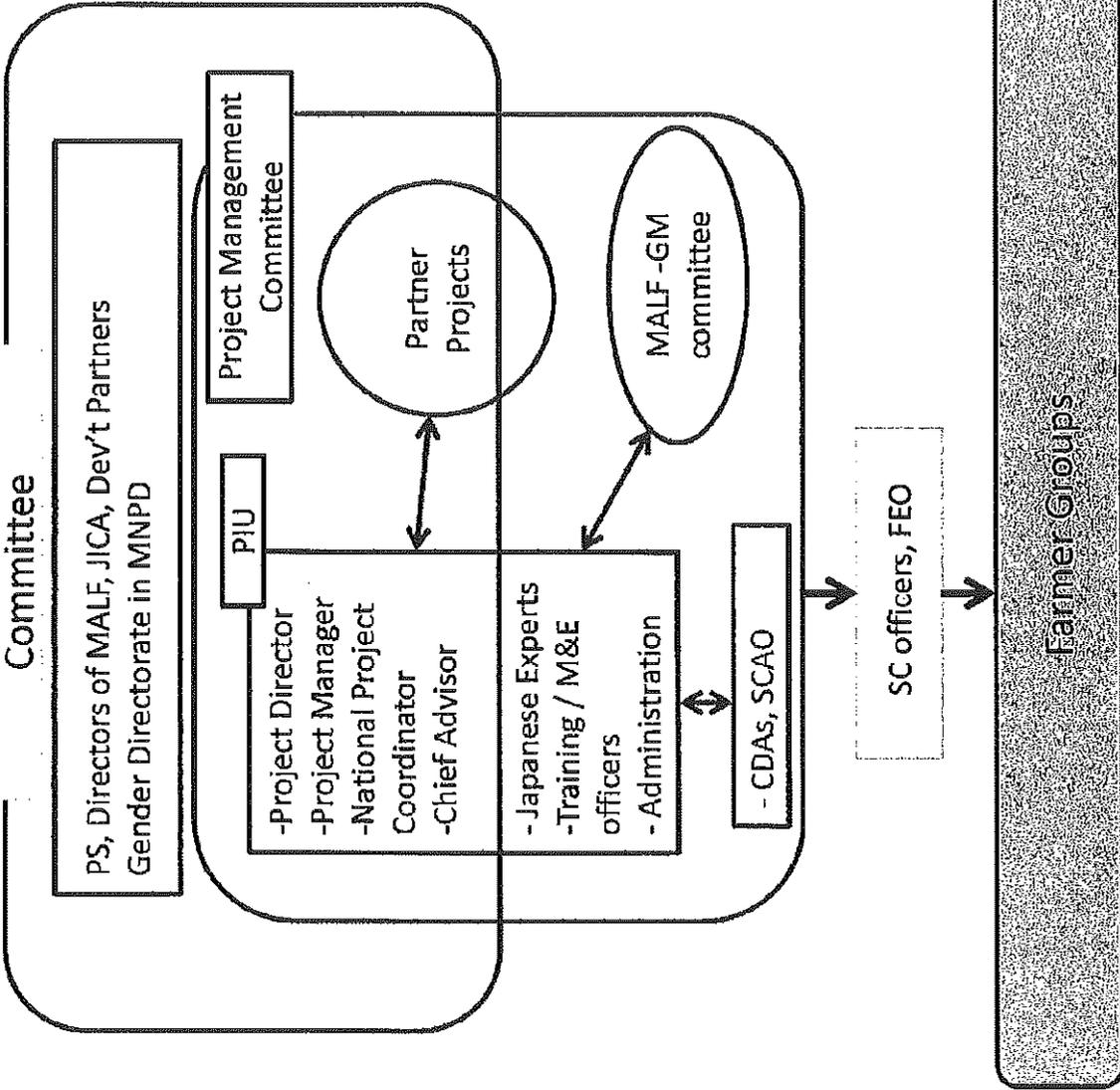


Annex II

| Tentative Plan of Operation (PO) | | Year 1 (2014) | | | | Year 2 (2015) | | | | Year 3 (2016) | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|
| | | I | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV |
| 0 | Preparation | | | | | | | | | | | | |
| 0-1 | Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | |
| 0-2 | Conduct a workshop for Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | |
| 0-3 | Organize an internal workshop for the Project members to be fully acquaint with the Partner Project | | | | | | | | | | | | |
| 0-4 | Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package". | | | | | | | | | | | | |
| 0-5 | In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities. | | | | | | | | | | | | |
| 1 | The Gender Mainstreaming Package for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed. | | | | | | | | | | | | |
| 1-1 | Prepare draft working materials and guidelines to be used in Activities 1-2 to 1-12, referring to the SHEP gender materials. | | | | | | | | | | | | |
| 1-2 | Sensitize the SCAO in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities. | | | | | | | | | | | | |
| 1-3 | Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-4 | Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-3). | | | | | | | | | | | | |
| 1-5 | Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3) | | | | | | | | | | | | |
| 1-6 | Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data ("Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis) | | | | | | | | | | | | |
| 1-7 | Develop the gender training materials based on the training plan (1-4), referring to the SHEP gender training materials. | | | | | | | | | | | | |
| 1-8 | Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-9 | Monitor and support the officers trained under Activity 1-8 to conduct training for the target farmers groups. | | | | | | | | | | | | |
| 1-10 | Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-4) of each sub-counties (e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.) | | | | | | | | | | | | |
| 1-11 | Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 1-12 | Taking into account the outcomes of the M&E study (1-11), prepare the draft Gender Mainstreaming Package for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-2 ~ 1-11) incorporated. | | | | | | | | | | | | |

76

Project Steering Committee



21

A List of Proposed Members of Project Steering Committee (PSC)

Kenyan Side:

Principal Secretary of State Department of Agriculture (Chairperson)
Directors of State Department of Livestock
Directors of State Department of Fisheries
Director, Directorate of Extension and Training (Project Director)
Director, Directorate of Crop Management
Head of Cross Cutting Issue Unit, MALF (Project Manager)
National Project Coordinator

Japanese side:

Chief Advisor
Chief Representative, JICA Kenya Office

Co-opted members:

Representative of Relevant Cooperation Partners
Gender Directorate, Ministry of National Planning and Devolution

Notes:

Persons who are nominated by the members may attend the Project Steering Committee meetings with the approval of the committee or the Chairperson on its behalf.

Other members can be co-opted with the approval of the committee or the Chairperson on its behalf.

A List of Proposed Members of Project Management Committee (PMC)

Kenyan side:

Project Director
Project Manager
National Project Coordinator

Relevant officers of Gender Mainstreaming committee of MALF
County Directors of Agriculture from pilot counties
Sub-County Agricultural Officers from pilot sub-counties
Staff of the Partner Project(s)

Japanese side:

Chief Advisor
Other experts



A List of Proposed Members of Project Implementation Unit (PIU)

Kenyan side:

National Project Coordinator
Other Counterpart personnel

Japanese side:

Chief Advisor
Other Experts

10



RECORD OF DISCUSSIONS
ON
PROJECT ON ENHANCING GENDER RESPONSIVE EXTENSION
SERVICES IN KENYA
IN
REPUBLIC OF KENYA
AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE, LIVESTOCK AND FISHERIES
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Nairobi, 29 November 2013



Mr Hideo Eguchi
Chief Representative,
JICA Kenya Office



Ms Sicily K. Kariuki
Principal Secretary
State Department of Agriculture,
Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries,
Republic of Kenya



Dr Kamau Rugge
Principal Secretary
The National Treasury
Republic of Kenya



Based on the minutes of meetings on the Detailed Planning Survey on the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya (hereinafter referred to as "the Project") signed on 4th July, 2013 between Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (hereinafter referred to as "MOALF") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with MOALF and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and the main points discussed as described in the Appendix 1.

Both parties also agreed that MOALF, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of the Republic of Kenya (hereinafter referred to as "Kenya").

The Project will be implemented within the framework of the Agreement on Technical Cooperation signed on 29th April 2004 (hereinafter referred to as "the Agreement") and the Note Verbales exchanged on 22nd July 2013 between the Government of Japan (hereinafter referred to as "GOJ") and Government of Kenya (hereinafter referred to as "GOK").

The effectiveness of the record of discussions is subject to the approval of JICA.

Appendix 1: Project Description

PROJECT DESCRIPTION

Both parties confirmed that there is no change in the Project Description agreed on in the minutes of meetings on Detailed Planning Survey on the Project signed on 4th July 2013.

I. BACKGROUND

The Ministry of Agriculture, in a technical cooperation with JICA, had implemented a Smallholder Horticulture Empowerment Project (SHEP) during the period of 2006-2009 in order to improve production and productivity of smallholder horticulture farmers. SHEP introduced gender mainstreaming approach in the course of its project implementation, and has shown that the empowerment of both women and men in agriculture has a significant influence on effective equal-gender-farm management, agricultural profitability and livelihood improvement.

By acknowledging the achievement of SHEP gender mainstreaming approach, the Government of Kenya through the Ministry of Agriculture requested the Government of Japan to support the Ministry to strengthen its institutional capacity to integrate gender in its agriculture extension services to increase agriculture profitability and livelihood improvement of the smallholder female and male farmers in Kenya.

II. OUTLINE OF THE PROJECT

1. Title of the Project

Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya

2. Overall Goal

The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.

3. Project Purpose

Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MOALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.

4. Outputs

- 1) The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed.
- 2) MOALF and target County Director of Agriculture (CDA) develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the "Gender Mainstreaming Package" in smallholder agriculture projects.
- 3) The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.

5. Activities

- 0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender

- mainstreaming approach.
- 0-2. Conduct a workshop for, Project Implementation Unit (PIU), Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.
 - 0-3. Organize an internal workshop for the PIU members to be fully acquainted with the Partner Project.
 - 0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".
 - 0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.
- 1-1. Sensitize the Sub-County Agricultural Officers (SCAOs) in the pilot sub-counties as well as their CDA and the County Executive officers (Agriculture) on the Project activities.
 - 1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.
 - 1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).
 - 1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).
 - 1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer groups to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis)
 - 1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-3), referring to the SHEP gender training materials.
 - 1-7. Conduct TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.
 - 1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.
 - 1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)
 - 1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot sub-counties.
 - 1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.
- 2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of MOALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".
 - 2-2. Conduct training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.
 - 2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (/and verify) the "Gender Mainstreaming Package".
 - 2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.
 - 2-5. Review the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.
- 3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and

- sub-counties.
- 3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.

6. Input

(1) Input by JICA

- (a) Dispatch of Experts
 - Chief Advisor
 - Gender in Agriculture Expert
 - Monitoring and Evaluation Expert
 - Other experts as necessary upon agreement
- (b) Training
 - Training for Counterpart personnel
- (c) Provision of Equipment
 - Necessary equipment for the effective project implementation

Input other than indicated above will be determined through mutual consultations between JICA and MOALF during the implementation of the Project, as necessary.

(2) Input by MOALF

MOALF will take necessary measures to provide at its own expense:

- (a) Services of MOALF's counterpart personnel and administrative personnel as referred to in II-7;
- (b) Suitable office space with necessary equipment;
- (c) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the equipment provided by JICA;
- (d) Credentials or identification cards;
- (e) Available data (including maps and photographs) and information related to the Project;
- (f) Running expenses necessary for the implementation of the Project;
- (g) Expenses necessary for transportation within Kenya of the equipment referred to in II-6 (1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof; and
- (h) Necessary facilities to the JICA experts for the remittance as well as utilization of the funds introduced into Kenya from Japan in connection with the implementation of the Project

7. Implementation Structure

The Project organization chart is given in the Annex II. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

(1) MOALF

(a) Project Director: Director, Directorate of Extension and Training, MOALF
Project Director will bear overall responsibility of the administration and implementation of the Project

(b) Project Manager: Head of Cross Cutting Issue Unit, MOALF
Project Manager will facilitate activities of the Project through the coordination between the Cross Cutting Issue Unit of MOALF and the Project Implementation Unit

(c) National Project Coordinator: (To be determined by the Ministry (or PS) by

the commencement of the Project)

National Project Coordinator will be exclusively assigned to the Project, and be responsible for the managerial and technical matters as well as the daily activity implementation of the Project

(d) Other Counterpart Personnel

Officers necessary for the Project implementation will be assigned.

(2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to MOALF on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(3) Project Steering Committee (PSC)

To ensure effective and successful implementation of the technical cooperation for the Project, the PSC will be established. PSC will be the highest decision-making organ of the Project and will be responsible for policy direction and approval of project work plans and budgets. PSC will be hold meetings at least twice a year to provide advisory support to the project implementation, and The Government of Kenya and JICA shall consult with each other on any issues that arise. A list of proposed members of PSC is shown in the Annex IV.

(4) Project Management Committee (PMC)

The PMC will be responsible for the technical matters of the project and for review of work plans, budgets and necessary reports. The PMC will be held periodically. A list of proposed members of PMC is shown in the Annex V.

(5) Project Implementation Unit (PIU)

The PIU will be responsible for execution of all project activities. A list of proposed members of PIU is shown in the Annex VI.

8. Target Groups and Beneficiaries

The primary targets of the Project are the relevant technical officers of MOALF including the Gender Mainstreaming Committee (GMC) members who engage in agriculture projects for small holder farmers. Beneficiaries of the Project include relevant officers of targeted counties and sub-counties, and smallholder farmers in pilot areas.

9. Duration

Three (3) years from the date of the dispatch of Japanese Expert.

10. Environmental and Social Considerations

MOALF agreed to abide by "JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations" in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

III. UNDERTAKINGS OF MOALF

1. MOALF will take necessary measures to:

(1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Kenya

nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Kenya, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of Kenya from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project;

- (2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts referred to in II-6 (1) above and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Kenya; and
- (3) provide security-related information as well as measures to ensure the safety of the JICA experts.

IV. EVALUATION

JICA and the MOALF will jointly conduct the following evaluations and reviews.

1. Terminal evaluation during the last six (6) months of the cooperation term

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify sustainability and impact of the Project and draw lessons. The MOALF is required to provide necessary support for them.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT

For the purpose of promoting support for the Project, MOALF will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of Kenya.

VI. MUTUAL CONSULTATION

JICA and MOALF will consult with each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

VII. AMENDMENTS

The record of discussions may be amended by the minutes of meetings between JICA and MOALF.

The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the record of discussions.

- Annex I Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)
- Annex II Tentative Plan of Operation (PO)
- Annex III Implementation Structure
- Annex IV A List of Proposed Members of Project Steering Committee (PSC)
- Annex V A List of Proposed Members of Project Management Committee (PMC)
- Annex VI A List of Proposed Members of Project Implementation Unit (PIU)

ANNEX 1
Project Design Matrix (PDM) for the Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya
 Ver. 1, Nov, 2013

Project Title: The Project on Enhancing Gender Responsive Extension Services in Kenya
Duration: 3 years from the date of the dispatch of Japanese Experts
Implementing Agency: Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries
Beneficiaries: Relevant officers of MOALF and Smallholder farmers in pilot sub-counties

| Objectively Verifiable Indicators¹ | | Means of Verification | Important Assumptions |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Narrative Summary</p> <p>Overall Goal The livelihood of the smallholder female and male farmers is improved.²</p> | <ul style="list-style-type: none"> - Extent of change of gender relations in the farmer groups supported by smallholder agriculture projects which has introduced "Gender Mainstreaming Package" in division of labour, decision-making and others at household and community level - Extent of livelihood improvement of both men and women in the farmer groups supported by smallholder agriculture projects which has introduced "Gender Mainstreaming Package" | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline study and other relevant surveys for households | <ul style="list-style-type: none"> - There is no drastic change in the Ministry's Gender Mainstreaming Policy and Strategy. |
| <p>Project Purpose Institutional capacity of the Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries (MOALF) to promote gender responsive agriculture extension services is enhanced.</p> | <ul style="list-style-type: none"> - "Gender Mainstreaming Package" is authorized by MOALF - "Gender Mainstreaming Package" is introduced to at least X number of smallholder agriculture projects of MOALF by gender sub unit and GM committee - Extent of change of gender relations in the target farmer groups in division of labour, decision-making and others at household and community level (baseline and target to be established after the baseline survey) - Extent of livelihood improvement of both men and women in the target farmer groups (baseline and target to be established after the baseline survey) | <ul style="list-style-type: none"> - Data from baseline and M&E Studies Reports - Reports by government & dev't partners | <ul style="list-style-type: none"> - There is no drastic change in the Ministry's Gender Mainstreaming Policy and Strategy. |

¹ Details of the indicators are to be set during the term of the project.

² The term "livelihood" here encompasses people's capabilities, assets, income and activities to enhance well-being of households.

An improvement of livelihood here can be measured from various aspects: e.g. increased family assets, household income, relief from time poverty, access to basic necessities of life such as food, water, shelter, clothing, health, education, etc.

The appropriate indicators to monitor the livelihood improvement of target farmers in this Project should be developed based on the result of the baseline survey.

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Outputs</p> <p>1. The "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture project, which directly contributes to the livelihood improvement of smallholder farmers, is developed.</p> <p>2. MOALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the "Gender Mainstreaming Package" in smallholder agriculture projects.</p> <p>3. The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya.</p> | <p>1. The Contents of "Gender Mainstreaming Package" (e.g. guidelines, training materials and etc.) is developed</p> <p>2. "Gender Mainstreaming Package" is put into practice by the participants of TOT trainings</p> <p>2-1. Developed Training Program to implement Gender Mainstreaming Package</p> <p>2-2. At least XX% of participants of each training of the Project properly understand the content of the training on the Gender Mainstreaming Package</p> <p>3-1. A Workshop to share the developed Gender Mainstreaming Package with concerned agricultural technical officers is conducted in 3 Counties at least.</p> <p>3-2. The Gender Mainstreaming Package is integrated into the training curriculums and program of Agriculture Training Centers (ATC) in Kenya.</p> <p>3-3. At least XX sub-counties introduce the Gender Mainstreaming Package in their agriculture activities</p> | <p>1 GMP</p> <p>2-1 Report &/or activity records</p> <p>2-2 Training records of the Project, direct observation, evaluation by experts</p> <p>2-3 Reports by government & dev't partners</p> <p>3-1 Reports of government</p> <p>3-2 Reports of ATCs</p> <p>3-3 Reports by government & dev't partners</p> | <p>- Counterpart Personnel are not to be transferred.</p> <p>- Change of government structure does not affect severely to the project activities.</p> <p>- Peace and order in the target area is kept.</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Activities</p> <p>0-1. Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-2. Conduct a workshop for Project Implementation Unit (PIU), Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach.</p> <p>0-3. Organize an internal workshop for the PIU members to be fully acquainted with the Partner Project</p> <p>0-4. Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>0-5. In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities.</p> <p>1-1. Sensitize the SCAs in the pilot sub-counties as well as their CDA and County Executive officers on the Project activities.</p> <p>1-2. Conduct a gender analysis study in the pilot sub-counties.</p> <p>1-3. Formulate an action plan as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (1-2).</p> <p>1-4. Develop a monitoring and evaluation (M&E) framework based on the result of the conducted gender analysis study above (1-3).</p> <p>1-5. Conduct a baseline survey on target farmer groups in the pilot sub-counties for collection of M&E data (Data collection on the non-target farmer groups to be also undertaken in order to conduct without impact analysis)</p> <p>1-6. Develop the gender training materials based on the training plan (1-3), referring to the SHEP gender training materials.</p> <p>1-7. Conducts TOT trainings for concerned staff in Sub-county Agriculture offices in the pilot sub-counties.</p> <p>1-8. Monitor and support the officers trained under Activity 1-7 to conduct training for the target farmers groups.</p> <p>1-9. Support the Partner Project to implement other activities identified in the developed action plan (1-3) of each sub-counties.(e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.)</p> <p>1-10. Conduct a M&E study on the activities implemented in the pilot</p> | <p>Input</p> <p><u>From Japan Side Assignment of Japanese Experts</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Chief Adviser Gender in Agriculture Monitoring & Evaluation Other expert <p><u>Training in Japan & for third countries</u></p> <p><u>Provision of Equipment</u></p> <p><u>Project Activity Cost</u></p> <p><u>From Kenya side Assignment of counterparts and administration staff</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Project Director Project Manager National Project Coordinator Training expert M/E expert Administration staff <p><u>Arrangement of Office Space and equipment for the Project</u></p> <p><u>Operational cost for the Project Implementation Unit(PIU).</u></p> | <p>- Change of government structure does not affect severely to the project activities.</p> <p>- Peace and order in the target area is kept.</p> <p>Pre-Conditions</p> <ul style="list-style-type: none"> The appropriate number of counterpart staff with relevant capacity and experiences are assigned. |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| <p>sub-counties.</p> <p>1-11. Taking into account the outcomes of the M&E study (1-10), prepare the draft "Gender Mainstreaming Package" for a smallholder agriculture projects with the training materials and guidelines developed through the Activities (1-1 ~ 1-10) incorporated.</p> <p>2-1. Develop a training programme and materials for the concerned staffs of MOALF and CDA in order to develop their capacity to implement the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-2. Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project.</p> <p>2-3. Select three (3) pilot sub-counties to apply (and verify) the "Gender Mainstreaming Package".</p> <p>2-4. In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the "Gender Mainstreaming Package" in the target smallholder agriculture project.</p> <p>2-5. Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the "Gender Mainstreaming Package" and the training program for the effective implementation of the Package.</p> <p>3-1. Organize workshops to introduce the "Gender Mainstreaming Package" to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties.</p> <p>3-2. Conduct the training programs to implement the "Gender Mainstreaming Package" at the Agriculture Training Centres in Kenya.</p> | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

Annex II

| Tentative Plan of Operation (PO) | | Year 1 (20xx) | | | | Year 2 (20xx) | | | | Year 3 (20xx) | | | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|--|--|--|--|
| | | I | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV | | | | |
| 0 | Preparation | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0-1 | Conduct internal study meetings and workshops to facilitate the understanding of C/P on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0-2 | Conduct a workshop for Project Implementation Unit (PIU), Gender Mainstreaming Committee and the Partner Project staff members on concept and activities of the SHEP gender mainstreaming approach. | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0-3 | Organize an internal workshop for the PIU members to be fully acquainted with the Partner Project | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0-4 | Agree on a working modality and detailed implementation plan with the Partner Project for the development of the "Gender Mainstreaming Package". | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0-5 | In consultation with the Partner Project, select two pilot sub-counties which work on different commodities. | | | | | | | | | | | | | | | | |

82

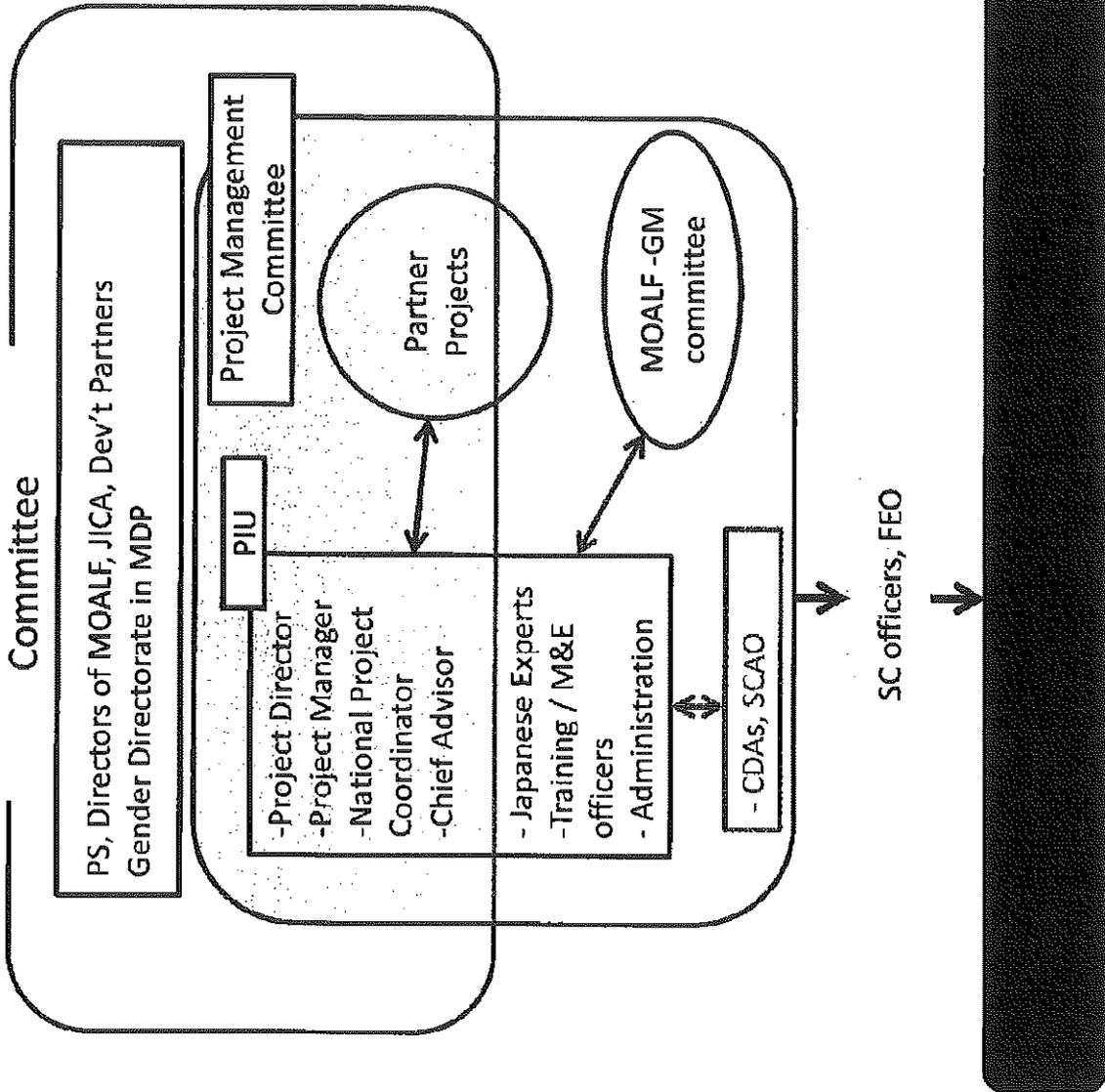
R

| Tentative Plan of Operation (PO) | | Year 1 (20xx) | | | | Year 2 (20xx) | | | | Year 3 (20xx) | | | | | | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|--|--|--|--|--|--|--|
| | | I | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV | | | | | | | |
| 2 MOALF and target CDA develop advisory skills, techniques and knowledge to implement the Gender Mainstreaming Package in smallholder agriculture projects | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-1 | Develop a training programme and materials for the concerned staffs of the MOALF and CDA in order to develop their capacity to implement the Gender Mainstreaming Package. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-2 | Conducts training based on the developed training programme above (2-1) for Gender Officers of CDA and gender focal point of smallholder agriculture project. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-3 | Select three (3) pilot sub-counties to apply (and verify) the Gender Mainstreaming Package. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4 | In collaboration with Gender Officers of the target CDA as well as Partner Project officers, implement a series of activities elaborated in the Gender Mainstreaming Package in the target smallholder agriculture project. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-1 | Sensitize the SCAC in the pilot sub-counties as well as their CDA on the Project activities. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-2 | Conduct a Gender Analysis study* in the pilot sub-county. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-3 | Formulates a plan of action as well as a training plan based on the result of gender analysis study conducted above (2-4-2). | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-4 | Develop a M&E framework based on the result of the conducted gender analysis study above. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-5 | Conduct a baseline survey on the target farmers groups for collection of M&E data (*Data collection on the non-target farmer group to be also undertaken in order to conduct with/without impact analysis). | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-6 | Modify, if necessary, the training materials, which developed in 1-8 above, based on the training plan and conduct TOT training for the concerned technical officers in the pilot sub counties. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-7 | Monitor and support the officers trained in 2-4.6 to conduct training for the target farmers groups. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-8 | Implement other necessary activities based on the developed action plan (e.g. introducing small-scale gender friendly appropriate technologies, etc.) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-4-9 | Conduct a M&E study on activities implemented in the pilot sub-counties. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2-5 | Reviews the implementation processes and the impact of activities and finalizes the Gender Mainstreaming Package and the training program for the effective implementation of the Package. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| Tentative Plan of Operation (PO) | Year 1 (20xx) | | | | Year 2 (20xx) | | | | Year 3 (20xx) | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|---------------|----|-----|----|
| | I | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV |
| 3 The "Gender Mainstreaming Package" is introduced into the other smallholder agriculture projects implemented in Kenya. | | | | | | | | | | | | |
| 3-1 Organize workshops to introduce the Gender Mainstreaming Package to the officers and stakeholders concerned in the other Counties and sub-counties. | | | | | | | | | | | | |
| 3-2 Conduct the training programs to implement the Gender Mainstreaming Package at the Agriculture Training Centres in Kenya. | | | | | | | | | | | | |
| Terminal Evaluation | | | | | | | | | | | | |
| PSC | | | | | | | | | | | | |

(note)

Project Steering Committee



Implementation Structure

A List of Members of Project Steering Committee (PSC)

Kenyan Side:

Principal Secretary of State Department of Agriculture (Chairperson)
Director in the State Department of Livestock
Director in the State Department of Fisheries
Director, Directorate of Extension and Training (Project Director)
Director, Directorate of Crop Management
Head of Cross Cutting Issue Unit, MOALF (Project Manager)
National Project Coordinator

Japanese side:

Chief Advisor
Chief Representative, JICA Kenya Office

Co-opted members:

Representative of Relevant Cooperation Partners
Gender Directorate, Ministry of National Planning and Devolution

Notes:

Persons who are nominated by the members may attend the Project Steering Committee meetings with the approval of the committee or the Chairperson on its behalf.

A List of Members of Project Management Committee (PMC)

Kenyan side:

Project Director
Project Manager
National Project Coordinator

Relevant officers of Gender Mainstreaming committee of MOALF
County Directors of Agriculture from pilot counties
Sub-County Agricultural Officers from pilot sub-counties
Staff of the Partner Project(s)

Japanese side:

Chief Advisor
Other experts

A List of Members of Project Implementation Unit (PIU)

Kenyan side:

National Project Coordinator

Other Counterpart personnel

Japanese side:

Chief Advisor

Other Experts



A List of Members of Project Implementation Unit (PIU)

Kenyan side:

National Project Coordinator

Other Counterpart personnel

Japanese side:

Chief Advisor

Other Experts



4. ジェンダー主流化パッケージ（詳細版）

ジェンダー主流化パッケージの内容及びそれに係る研修一覧（案）

| | 活動 | 活動実施のための研修モジュール | 対象 | 作成マテリアル |
|-----|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 1 | ジェンダー分析調査の実施 | 1 調査デザインの策定方法 2 調査ツールの紹介とその活用方法 3 質問票の作成方法 4 調査実施方法 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ G 主流化委員会メンバー | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |
| 2 | 課題の抽出 | 1 分析調査結果の取りまとめ方法 2 課題抽出に係る視点 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ G 主流化委員会メンバー | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |
| 3 | 計画策定 M&E 項目決定 | 1 プロジェクトログ・フレームへのジェンダー視点の取り入れ 2 プロジェクトログ・フレームに基づくジェンダー視点からのM&E 項目の抽出 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ G 主流化委員会メンバー | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |
| 4 | M&E データ収集のためのベースライン調査の実施 | 1 調査デザインの策定方法 2 調査ツールの紹介とその活用方法 3 質問票の作成方法 4 データ収集 5 データ分析 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ G 主流化委員会メンバー | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |
| 5-1 | ジェンダー関連研修の実施 (ToT/農家研修) | 1 ジェンダー啓発研修 2 家計管理研修 3 その他プロジェクトで必要と認められた研修 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ G 主流化委員会メンバー 県職員/普及員 農家グループ | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |
| 5-2 | ジェンダー関連活動の実施 | 1 再生産活動に係る労働負担削減に向けた適正技術開発支援・普及 | カウンティ・ジェンダー担当官 連携事業ジェンダー担 | ガイドライン 研修用パワポ資料 研修講師向研修ノート |

| | | | | |
|---|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| | | <p>2 農業生産性・技術の向上に向けたジェンダー・フレンドリーな適正技術開発支援・普及</p> <p>3 その他プロジェクトで必要と認められた活動</p> | <p>当及び他のスタッフ</p> <p>G 主流化委員会メンバー</p> <p>県職員/普及員</p> <p>農家グループ</p> | |
| 6 | モニタリング 調査の実施 | <p>1 調査デザインの策定方法</p> <p>2 調査ツールの紹介とその活用方法</p> <p>3 質問票の作成方法</p> <p>4 データ収集</p> <p>5 データ分析</p> | <p>カウンティ・ジェンダー担当官</p> <p>連携事業ジェンダー担当及び他のスタッフ</p> <p>G 主流化委員会メンバー</p> | <p>ガイドライン</p> <p>研修用パワポ資料</p> <p>研修講師向研修ノート</p> |

5. 面談録

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月17日(月) 午前11時 |
| 場所 | 農業省会議室 |
| 訪問機関 | 農業省普及局 |
| 面談者 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Mr Fabian Muya- Deputy Director Extension and Training 2. Mr Phillip Makheti- Head/Agriculture Training centres 3. Ms Teresa Tumwet- Head Research Liaison Sub-div 4. Felicia W. Ndungu -Head/ Home Economics 5. Ms Mary Ambala- Head/Cross cutting unit 6. Beatrice Mwaura- Head/Gender sub- unit |
| 出席者 | (調査団) 原田、(JICA ケニア事務所) Mr Sebastian Odanga- |
| 収集資料 | |

(農業省における新体制)

今回の組織改革で、農業、水産、畜産の各省が統合された。今後は、それぞれ農業、水産、畜産分野を代表する3人の首席事務官(Principal Secretary: PS)がそれぞれの分野の長となる。農業分野はState Department of Agricultureと称される事となる。

未だ内閣の承認待ちであるものの、農業分野ではPSの下に2人の事務官(Secretary)が配置されることが提案されている。CropとEngineeringである。Crop Secretaryの下に作物管理局、普及・研修局及びアグリビジネス局が配置される。普及・研修局の下に、3つの部と1つのユニットが配置される。これらは、普及、研修、調査連携及びクロス・カッティング・ユニットであり、ジェンダーはこれまでと同じようにクロス・カッティング・ユニットの下に配置される。

普及局には31人の職員が現在配属されており、そのうち7人がクロスカッティング部門に配属されている。普及サービス部の中の体制については、特に変更はない。ジェンダーをPS直轄にするとの提案もあるが、現在のところそのような動きはない。ジェンダーはケニア政府の優先分野として十分に認識されている。

しかし、現在の組織におけるジェンダー・ユニットの位置づけを考えると分かるが、省内の意思決定にどれだけ関わっているかと言うと充分とは言えない(ジェンダー・サブユニット長)。

もし、ジェンダー・ユニットがPS直轄とされた場合、政策面に影響を及ぼすと言う観点では良いかもしれないが、技術部局との連携はその位置づけの違いから希薄になることもありうる(ATC長)

(新体制下における本省の役割)

本省の役割は、国家政策の策定、各カウンティの能力強化、全てのカウンティが等しく発展するよう促すことにある。そのため、一つのカウンティでうまくいった事例を他のカウンティに普及させる事も本省の役割となる。

(ドナー支援プロジェクト)

特定の地域のみに関係するプロジェクトでない限り、本省がドナー支援プロジェクトの窓口になる。なぜならば、プロジェクトの成果は、その当該カウンティに留まらず、他のカウンティにも普及され

ることが必要であるからである。よって、本新規案件のように、その成果を全国レベルに普及する事が求められる案件の所管は、本省である。

(本省とカウンティ間の連携)

本省は既に 47 それぞれのカウンティにリエゾン・オフィサーをカウンティ農業事務所に配置し、本省とカウンティ間の連携が緊密化を図っている。これらのリエゾン・オフィサーは本省所属である。一方、カウンティ農業事務所の長である County Director of Agriculture (CDA) は、カウンティ知事に対して報告義務を負い、本省への連絡は CDA の責務ではない。そのため、各カウンティに配置されたこのリエゾン・オフィサーが本省とカウンティ間の連絡業務を担う事になる。つまり、リエゾン・オフィサーがカウンティで起こっている事を本省に伝え、本省の意向を CDA に伝達する役割を担う事になる。

(カウンティの体制)

今回の改編により全国が 47 カウンティに分割された。それぞれのカウンティ農業事務所は CDA、作物、アグリビジネス、農業工学の 4 職員を中心に構成されることになる。作物オフィサーの下には、家政、Plant Protection、作物生産の各担当官が、アグリ・ビジネス・オフィサーの下には マーケティング、アグリビジネス振興等の担当官が配置される予定だが、人員不足のため、どの程度の職員が各カウンティに配置されることになるのかは未だ不明である。また、これまでの州 (Provincial)、及び県 (District) 事務所では、以前は家政担当官が、そして近年ではそれぞれの事務所の次官がジェンダー担当とされていたが、新体制に移行した現在、誰が、ジェンダー担当になるのかはきちんと話し合われていない。但し、それぞれの業務を考えると、家政担当官もしくは作物担当官がジェンダー担当となる事と思われる。

(農業研修センター：ATC)

新体制においても、ATC は本省の直轄となる。なぜなら ATC は国家財産 (National Asset) と考えられるからである。現在、全国で 27 の ATC があるが、今後、全てのカウンティに ATC を設置する予定である。今年度中に 8 カ所が新たに設置される。

各 ATC には 5 名の専門職員が配置されている。ATC では、ドナー等が研修を行う際の施設提供に留まらず、研修所内のデモンストレーション・プロットを使って農業技術のデモンストレーションを行ったり、また、受講者の要望に基づくデマンド・ドリブンな研修の提供も行っている。各 ATC が地域の事情を鑑みての研修カリキュラムを作成し、最低でも年 4 回はこのような研修を各 ATC で行っている。平均で 27 カ所の ATC で毎年 11 万人前後の農家がこのような研修を受けている。そのような研修実施に際して、研修所職員の中に適切な専門性を有する職員がいない場合は地域の教育関連施設等からリソース・パーソンを招くこともある。これらの研修は政府予算により実施されている。

例えば、現在 ATC では、農家に対し ITC 技術の普及に努めており、これまでに 600 のラップ・トップコンピュータが購入されている。今後は各 ATC ではインターネット環境も整備される予定である。また、最近、初めて、各研修所対し車輻供与を行った。

(職員に対する研修)

本省において実施する研修は、これまで州及び県職員レベルに対するものである。一方、普及員に対する研修は、県がその予算措置を含めて責任を負ってきた。これは、ジェンダー研修についても同様

で、本省が州及び県職員に対する研修を行い、それに基づいて県が普及員に対して、自ら予算措置を行い、研修を行う事になっている。しかし、県が研修を行うか否かは各県の判断に任せられているため、本省から指示する事は出来ない。

(プロジェクトのジェンダー主流化：ドナー支援プロジェクト)

全てのプロジェクトはジェンダー配慮を実施している。例えば、KAPAP では、研修実施に際しては、男女の参加が必須であり、女性や若者に対して、優先的な融資やグラントの供与、またその後の市場へアクセス確保と言った事が行われており、これらはジェンダー課題の緩和に大きく役立っている。これらが継続的に実施されれば女性のエンパワメントに大きく貢献していくものと思われる。また、NALEP は研修を中心とした活動であったが、後継案件の ASDSP ではこの反省に基づいて、アグリビジネスの推進に注力する予定である。しかし、いずれのプロジェクトもモニタリング・評価 (M&E) についてもっと力を入れていく必要がある。それぞれのプロジェクト単位で M&E は行われているものの、各プロジェクトでどのようなジェンダーに係る成果が出ているのかを農業省としては正確に把握できていない。

(新規案件)

新規案件が農家の収益向上に貢献するためには、技術やアグリビジネスの側面についての支援を入れ込むことが肝要である。他のプロジェクトとの連携は不可能ではないが、それぞれのプロジェクトは独自の目標を持っており、新規案件とどのように折り合っていくかについて、詰めていく必要がある。この場合、複数のプロジェクトと連携して、本案件を実施する事も考えられる。また、新規案件を単独で実施する場合は、やはり、収益向上の何らかの仕掛けが必要である。

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月17日(月)午後2時半 |
| 場所 | 農業省会議室 |
| 訪問機関 | 農業省ジェンダー主流化委員会 |
| 面談者 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Mr Washington Ngige- Engineering services 2. Mr Benson Nyariaro- Cross cutting unit 3. Mr Geoffrey Kituyi- Policy and external relations 4. Ms Mary Ambala- Head/Cross cutting unit 5. Ms Beatrice Mwaura- Head/Gender sub- unit 6. Ms Faith Kiprono- CPPNU- Planning 7. Ms Anaestacia Kivuva- Agribusiness 8. Ms Rose Lutta- Central Agriculture Board 9. Mr Leonard Maina- Crops dept 10. Mr Paul Kangira- HRM |
| 出席者 | (調査団) 原田、(JICA ケニア事務所) Mr Sebastian Odanga- |
| 収集資料 | |

(新体制における委員会)

新体制確立後も、委員会は存続する事になる。但し、省内の部局再編に合わせ、メンバー構成は変わることになる。

(委員会の役割)

委員会は今年度1回、昨年度1回開催されている。委員会では農業省のジェンダー戦略、ジェンダー政策及びモニタリング・評価の枠組みの策定等に関与してきている。

農業省の各部局にはクロスカッティングを担当する部署がないため、委員会メンバーが各部局の職員のジェンダー啓発を行い、実施事業の適切なジェンダー主流化を促進する責務を負っている。また、委員会で議論された事をそれぞれの部局に持ち帰り、それを他の職員と共有するのもメンバーの役割である。

なお、各メンバーは特にジェンダーのバックグラウンドを有してはおらず、たまたま任命されたに過ぎない。そのため、2010年の本委員会の設立に際して、4日間のジェンダー研修がメンバーに対して行われた。

(省内のジェンダー主流化状況)

計画局では、農業省で実施されるプロジェクトやプログラムにおいてジェンダー主流化が織り込まれているかを確認している。現在、18のプロジェクトもしくはプログラムが実施されているが、いずれもジェンダー主流化がなされている。実際問題として、ジェンダー主流化がなされていないような案件には予算がつかない。

エンジニア局では、過去、その事業の特性からどうしても男性を主たるターゲットとみなし、女性に対する配慮が行われてこなかったが、現在ではジェンダー・バランスに配慮している。

作物局では、常に男女両方の参加を促している。また、コミュニティが抱える様々な問題についても男女が一緒に話し合うよう支援しており、その結果男女間に問題に対する共通認識が生まれ、問題解決へとつながっている。また、若者については、彼・彼女らが使いたいと思う技術を提供できるようにしている。

(省内におけるジェンダー主流化に係る問題点)

ジェンダーは省内の優先事項であり、職員の意識は高い。しかし、本省全体から言えば、各事業において男女双方の参加を促す以上の事は出来ていない場合が多い。研修等を農家に対して実施した場合、参加者については確かに男女双方が参加している。しかし、宿泊を伴う研修には多くの場合男性が参加しているし、また女性が参加したプロジェクトの収益を支払う際、銀行口座は男性名義の場合が多い。女性が期待される役割を担うためには彼女たちの能力強化が不可欠である。また、各種農業技術も女性に配慮したものとはなっていない。

省内において、クロスカッティングの問題については、とかく周縁化しがちであり、形ばかりの対応となるケースが多い。本委員会のメンバーについても入れ替わりが激しい。また、各部局とジェンダー・サブユニットとの連携は非常に希薄である。各部局がジェンダーに係る問題に直面しても、ジェンダー・サブユニットに応援を求めるような事はこれまでになかったし、むしろそのようなことを考えた事すらなかったというのが事実である。

今後、ジェンダー主流化委員会が適切にその任務を果たしていくためには、省内にそのためのメカニズムを構築していく必要がある。その一例が予算措置である。例えば、委員会のメンバーがジェンダー主流化に際し、重要な調査や研修を各部局で実施しようと考えてもその予算措置は全くなされていない。そのため、実質的にそのような活動を行う事は不可能な状況にある。

| | |
|------|---------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月18日(火) 午前8時 |
| 場所 | 農業省普及・研修局長室 |
| 訪問機関 | 農業省普及・研修局 |
| 面談者 | I. Ms. Mary W. Kamau - Director |
| 出席者 | (調査団) 原田、(JICA ケニア事務所) Mr Sebastian Odanga- |
| 収集資料 | 組織図及び局の年間計画を依頼中 |

(新体制組織図)

新体制については、未だ内閣の承認待ちであり、確定しているわけではないが、現時点で省から内閣に対して提案されている組織図を提供する事は出来る。(メールによる送付を調査団から依頼) なお、カウンティ数は47であり、その下の県の数は286である。

(新体制下における普及・研修局)

新体制に移行しても、局の役割に大きな変化があるわけではない。なぜなら、政府はこれまでも地方分権化に取り組んできているからだ。これまでと同じように新体制下でも、局の主たる役割は政策策定及びその執行に関わる事となる。また、それ以外では、職員に対する研修の実施、キャパシティ構築も担っていく事となる。今後3年間の移行期間は、カウンティレベルから普及員レベルまで職員は全て農業省の職員とみなされるため、これらの職員の研修及びキャパシティ構築は本省の責任となる。なお、カウンティ以下の職員については、3年後本省からカウンティへ移籍する事となる。

(普及・研修局の研修関係事業)

普及・研修局では、長期研修に参加する職員の選考に関する調整を担当している。かつては州・県レベルに、今後はカウンティレベルに研修委員会 (County Training Committee) が設置され、そこでまず長期研修参加者の推薦が行われる。その後、本省の技術部局5つからなる部局研修委員会 (Directorate Training Committee) での討議、さらに人事部や財務部等を加え、副農業事務官を長とする省研修委員会 (Ministerial Training Committee) での最終判断を経て、長期研修参加者は決定されることになる。また、局では毎年様々な短期研修も実施している。政府機関では、各職員から各部局、そして省全体における年間事業計画を策定する事になっている。これらの年間計画に様々な活動と共に、どのような研修をそれぞれの担当範囲で実施するかについても記載する事となる。但し、政府予算が充分ではないため、必ずしも、当初作成した年間計画がそのまま上層部に承認されるわけではない。普及・研修局においても同様の年間計画が作成されている。(年間計画を提供してくれるよう依頼。) 通常、研修実施に際してはカスケード方式が採用されており、州、県レベルの職員に対する研修は本省が実施し、これらの職員が普及員に同様の研修を行っている。この際、省としては、県が普及員に対して、きちんと必要な研修を実施するようモニタリングを行っている。なお、本省職員が適切な専門性を有しない時は、外部のリソースに依頼する事もある。

(ジェンダー担当)

現時点では、カウンティ及び県で誰がジェンダー活動を担当するか決定されていない。恐らく家政担当官がその担当となるものと思われる。しかし、全カウンティ及び全県に家政担当官が配置されるまでは、当該地区の普及活動全般に責任を負っているCDAがジェンダー活動についても担当する事になるだろう。

(新規案件)

新規案件が他の事業との連携の可否について検討している事は聞いているが、自分としては SIDA の ASDSP と連携する事が一番望ましいのではないかと思う。なぜなら、この事業は全国を網羅する事となっており、本案件の成果を普及し易いし、ASDPS そのものがセクター間の調整をその業務の一つとしており、本案件との調整を行う事も可能と考えられるからである。また、ASDSP の先行案件である NALEP において、ジェンダーは主要なコンポーネントとされてきている点から見ても、本案件との連携がし易いのではないか。

| | |
|------|----------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月18日(火)午前10時 |
| 場所 | 農業省会議室 |
| 訪問機関 | 農業省普及・研修局ジェンダー・サブユニット |
| 面談者 | 1. Ms Beatrice Mwaura- Head/Gender sub- unit |
| 出席者 | (調査団) 原田、(JICA ケニア事務所) Mr Sebastian Odanga- |
| 収集資料 | |

(新体制におけるジェンダー・サブユニット)

今後省内でジェンダーがどのような位置づけを与えられるのかは未だ明確ではないと考えている。ジェンダーは国家の優先事項であると言われるものの、今回の省庁再編で、ジェンダー省は消滅してしまっただ。ジェンダー関連の業務がどこで扱われることになるのか、ジェンダー省の職員がどこに行くのか、憶測が随分流れたものである。現在、ジェンダーについては、Ministry of National Planning & Devolution に取り込まれる方向で話し合われているようである。もし、これが実現すれば、非常に強い権限を有する省に吸収されることになるので、ジェンダー省にとっては、非常に良い結果となったと言えるだろう。ジェンダーに係る取組みが政府の重要課題と位置付けられれば、農業省におけるジェンダーに関しても、これまで通りと思われる。但し、新体制下で多くの職員がカウンティに異動しており、ジェンダー・サブユニットについても自分のひとり体制に変化はないだろう。

(ジェンダー・サブユニットの活動)

ジェンダー・サブユニットの主たる活動は以下の通りである。

① 職員のジェンダーに係るキャパシティの構築

サブユニットでは、政府予算によるジェンダー研修を州及び県レベルの職員を対象に毎年実施している。自分が着任した2006年には、5日間にわたるジェンダー研修を年2回実施した。各研修には約30名が参加している。しかし、毎年2回のこの研修は、予算削減により2009年からは年1回実施するにとどまっている。対象者は、特に限定されているわけではなく、ジェンダー研修を過去に受講していないものが優先されるが、以前は、家政担当官が中心で、2010年、11年に州や県の次官がジェンダーを含むクロス・カッティング・イシューを担当する事になって以降は、次官が招かれることが多くなっている。研修用のカリキュラムは作成されており、研修はこのカリキュラムに基づき行われている。但し、次官が参加者の中で高い割合を占める等、研修毎に参加者の構成が変わるので、研修内容も基本的なジェンダー概念以外は、参加者のニーズに合わせて、若干変えている。例えば、次官は予算作成に参加するので、ジェンダー予算の講義を加えている。しかし、研修から得た知識やスキルが現場でどのように実践されているのかをモニタリングする事はほとんどない。出張予算がないからである。

時々、地方出張に行く他の職員にジェンダーの様子をモニタリングするよう依頼する事もあるが、適切な情報がもたらされるケースは極めて稀である。

上述の研修はサブユニットの予算で実施されるが、それ以外にも、他の部局やプロジェクトが実施する研修に招かれることもある。これは大体年 4 回程度である。但し、多くの場合、ジェンダー研修と言っても 2 時間程度の講義を行うにすぎない。

②ジェンダー関連調査

政府予算を用いて、ジェンダー関連調査を実施する事もある。ドナーもジェンダー調査を実施しているが、ドナーによる調査は自分たちがプロジェクトを実施している地域を対象としたものが大半であるため、サブユニットでは、全国を網羅したサンプル調査を行っている。調査を自分ひとりで実施する事は出来ないため、ジェンダー主流化委員会のメンバーと共に実施した。予算の関係上、全てのメンバーが参加したわけではない。メンバーのジェンダーに係る知識は限定的なため、事前打ち合わせを充分に行い、調査にあたった。しかし、このように調査に参加したメンバーであっても、習得した知識やスキルを活用して、自分たちの部局で同様の調査を実施すると言った流れにはなっていない。予算不足ももちろんあるだろうが、それだけではないと思う。一度きりの調査では自分たちのスキルに対し、自信が持てないことも大きいだろう。

③ 他の事業との連携

他の事業に招かれて、ジェンダー関連の活動を行う事もある。例えば、COMESA や ADB 支援による SHDP がベースライン調査を実施する際に、参加した。また、上述のようにジェンダー研修をこれらの事業で実施する事もある。しかし、それぞれの事業に一貫して参加しているわけではない。例えば、SHDP で折角ベースライン調査を実施したのに、その後、調査結果に基づく活動は行われていないようである。たまに報告を聞くが、性別の統計収集も行われていない。多くの事業でジェンダーに係る活動は行われているが、モニタリングの仕組みは整備されていない。

④ ジェンダー関係の IEC 資料の作成

ジェンダー関連の資料の作成も行っている。

(新規案件について)

サブユニットには自分しかいないので、新規案件のみにコミットする事は不可能である。通常、プロジェクトが立ち上がると、それぞれのプロジェクトにジェンダー担当が配置される。もし、このようなプロジェクトのためのジェンダー担当ではなく、サブユニットの職員がプロジェクトのカウンターパートになる場合には増員が必須である。自分としては、このような場合、省として職員の増員は前向きに検討されると考えている。

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月18日(火)午前11時 |
| 場所 | 農業省作物局 |
| 訪問機関 | 農業省作物局園芸課 |
| 面談者 | 1. Mr. Johnson Ilungu - Director 2. Mr. Benson Mureithi- Head, Phytosanitary, Quality Assurance & Standard |
| 出席者 | (調査団) 原田、(JICA ケニア事務所) Mr Sebastian Odanga- |
| 収集資料 | |

(新体制について)

役割に大きな変更はない。これまでも作物局に係る現場レベルの活動は県農業事務所が担ってきており、このような体制に変化はない。本省レベルでは、政策策定をすると共に、それらの政策がきちんと現場レベルで実施されているかを確認する事となる。そのために、各カウンティにリエゾン・オフィサーを配置した。

(課内の研修実施について)

年間計画に基づき、各種研修を実施している。先週も「Good Agricultural Practice」と言う研修を県職員等向けに実施した。課内のそれぞれの Division 等で、年間活動計画が作成され、その一環で研修計画も作成される。講師は、課内の職員が担当する事もあるし、特定の専門分野を有する他局の職員の場合もあるし、また、外部リソースを招聘する事もある。

(先週実施された研修について)

先週実施された「Good Agricultural Practice」は Global GAP に係る研修である。作物の輸出にあたって、どういう事が求められているかについての研修を園芸作物生産が盛んな県を対象に実施した。一部の地域については、IFAD の SHOMAP から資金支援をしてもらい、SHOMAP の活動地域にあらず、資金支援をしてもらえない地域については、農業省の予算で実施している。このように、ドナー支援プロジェクトと連携する事はままある。研修教材作成にあたっては、本省のみならず、HCDA 等、各政府機関で必要な専門性を有する各機関の代表が共同で行った。講師についてもこれらの機関から派遣されると共に、例えば、USAID で事業を請け負うコンサルタント会社フイントラックからも派遣してもらった。研修を実施した講師は、別途事前に必要な研修を受講し、知識を習得している。研修教材には、詳細な説明資料以外にも、パワーポイントや研修ノートがあり、これら全てを CD に焼き付けて、研修参加者に配布している。研修参加者は、自分たちが研修を実施する前にこれらの資料を再度確認する事になる。これらの研修を受けた県職員は普及員を研修し、その後普及員が農家を研修する事になる。現場レベルでの研修では、農家のニーズに応じて、研修内容を取捨選択する必要があり、そのあたりの調整はそれぞれの担当者に任されている。

| | |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月18日(火)午後3時 |
| 場所 | Ruiru Agricultural Technology Development Centre (ルイルタウン) |
| 訪問機関 | Ruiru Agricultural Technology Development Centre |
| 面談者 | 1. Mr. James O. Juma - Director |
| 出席者 | (調査団) 原田 |
| 収集資料 | |

(ATDC について)

Agricultural Technology Training Centre (ATDC) は、本省の Engineering Service 局の直轄の研修センターであり、新体制後も、この体制に変更はなく、引き続き本省直轄となる。全国には 10 の ATDC があり、今後、全てのカウンティに設立する事が予定されている。それぞれの ATDC はその周辺のカウンティを対象としており、10 の ATDC で 47 全てのカウンティを網羅している。本 ATDC に配属されている職員は計 8 人(専門 5 名、アドミ 3 名)。ATDC では、農民グループ、農業研究所、大学、また教材を作成する民間会社等と連携しながら業務を実施している。なお、ATDC を対象としたドナーからの

支援はこれまで行われた事はない。

(ATDC の役割)

ATDC は以下の業務を行っている。

①適正技術を用いた機材の開発、製作、頒布

ATDC では、以下の分野で、小規模農家を念頭に置いた機材の開発・製作・頒布を行っている。

- 農機具
- 農産物加工
- 付加価値づけ
- 収穫後処理

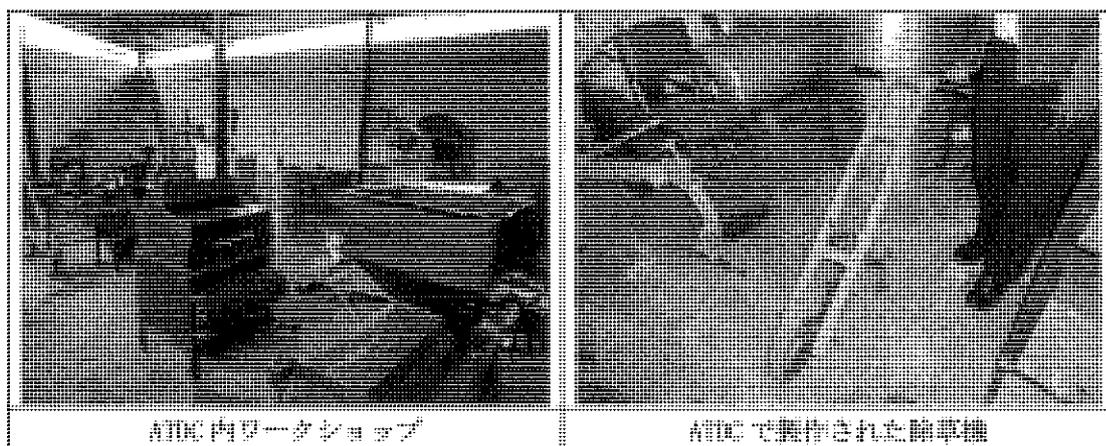
ATDC では、これらに係る機材を開発すると共に、新たな技術が他国等から導入された場合、ここでその適切性についての試験も行っている。

②研修

ATDC では、機材頒布、また技術普及等を目的に各種研修を実施している。研修対象者は対象カウンティの職員、農家グループが中心であるが、機材の量産を目的に町の職人を招いての研修も行っている。例えば、今日、開催されている研修は、農産物加工に焦点を置いたものである。今はフルーツジュースの作り方について、実技を交えての研修をしているところである。受講者は、本 ATDC の対象カウンティであるナイロビ・カウンティ及びキアンブ・カウンティの普及員である。なお ATDC には宿泊施設がないため、3日間研修ではあるものの、受講者は毎日通ってきている。なお、本 ATDC で今年度実施された県職員を対象とした研修はこの研修だけだが、農家グループを対象としたものは、年間 10 以上開催されている。また、必要に応じて、農家グループに出向いて研修を行う事もあり、例えば、農産物加工については、3 農家グループがこの訪問研修の対象となっている。

(ワークショップ)

ATDC にはワークショップがあり、そこで各種機材の製作が行われている。これらの機材が研修を通じて、県職員や農家グループに紹介される。なお、機材が農家に対して無料頒布される事はない。



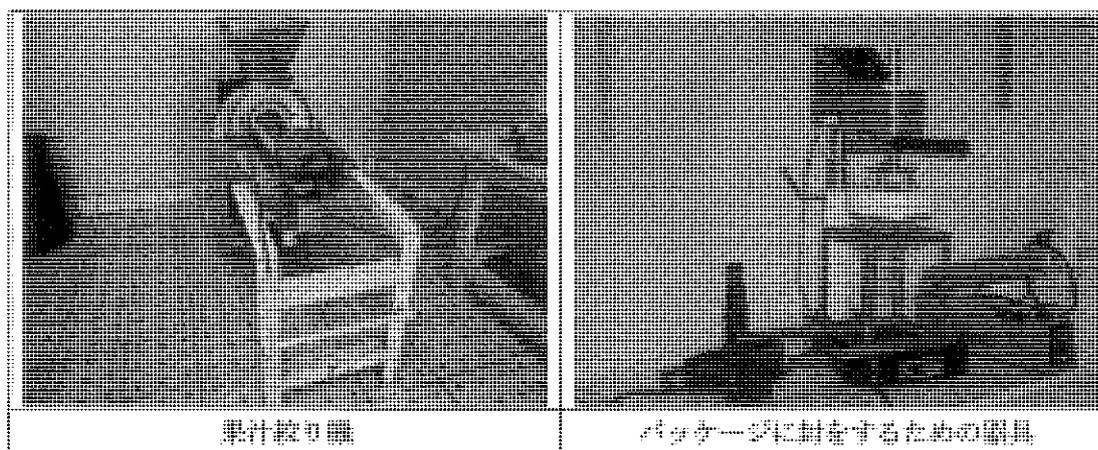
ATDC 内ワークショップ

ATDC で製作された搾乳機

(農産物加工)

ATDC は各種農産物加工に係る器具を保有している。例えば、牛乳を殺菌するための器具、果汁絞り機、パッケージの封をするための道具、オープン等である。研修では、それぞれの機材をデモンストレー

ションして、県職員や農家にその使い方を知ってもらっている。各種器具は、グループメンバーがお金を出し合って購入する事となる。



県計較り機

パッケージに封をするための器具

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月19日(水) 午前10時 |
| 場所 | 前ジェンダー・子供・社会開発省ジェンダー主流化部 現 Directorate of Gender, Ministry of National Planning & Devolution |
| 訪問機関 | Directorate of Gender, Ministry of National Planning & Devolution |
| 面談者 | 1. Protus Makaba Onyango - Deputy Director 2. Mr. Robert Kinge Anyoni - staff |
| 出席者 | (調査団) 原田 |
| 収集資料 | |

(省庁再編)

ケニアにおけるジェンダーのナショナル・マシナリーはジェンダー・子供・社会開発省のジェンダー主流化部であったが、今度の省庁再編で、子供・社会開発については、労働省と統合される一方で、ジェンダーについては、Ministry of National Planning & Devolutionと統合され、Directorate of Genderとなった。この省は、大変影響力のある省であり、かつ各省庁の政策及び事業計画について関与するので、ジェンダーに係るナショナル・マシナリーが設置されるのにふさわしい省であると言える。ただ、未だ全てが再編途中であり、省の組織図も承認されていない。また、ジェンダー部は未だ以前のオフィスにいるが、今後どこかに引っ越すことになるかどうかは定かではない。

(ジェンダー部の構成)

現在、10名の専門職員が配属されている。今後、職員の数を増員し、18の省庁それぞれを担当する職員を配置し、各省庁のジェンダー主流化を支援していきたいと考えている。また、47のカウンティそれぞれに職員を配置する予定である。これらの職員は新規に採用される事となる。この中には、新卒の職員も含まれると思われるため、これら経験の少ない職員については、しばらくは本省で業務を行い、職務内容を学んでいってもらいたいと考えている。なお、これまで州や県に配置されていた職員(州ジェンダー・社会開発オフィサー-Provincial Director of Gender and Social Development、県ジェンダー・社会開発オフィサー: District Director of Gender and Social Development)の多くはソシオロジストであるため、子供・社会開発部と共に、労働省に移籍することになる。但し、ジェ

ンダー部としては、当面はカウンティに配属される職員の雇用に留まり、県レベルでは、今まで通り、これらのオフィサーの支援を受けたいと思っている。

(ジェンダー部の業務)

ジェンダー部は、各省庁におけるジェンダー主流化を支援する立場である。各省庁向けにジェンダー研修を行っているのもその一つである。例えば、農業省に設置されたジェンダー主流化委員会メンバーへのジェンダー研修を支援したのも我々である。平均で、四半期に一度の割合で、様々なステークホルダーを対象にジェンダー関連研修を実施している。また、各省庁から性別データを提供してもらい、それらを取り纏め、公表している。さらに、各省庁のジェンダー主流化に係る進捗度合いを確認するための調査も実施している。最近では、ナイロビ大学と連携して、Gender Research & Documentation Centre を設立した。また、計画段階ではあるが、女性を対象とした Rescue Centre を設立する予定である。

(県レベルの活動)

県レベルでは様々なプロジェクトが実施されているが、各プロジェクトについて、関係するセクターの県事務所が集まって、調整委員会を運営している。例えば、農業プロジェクトであれば、農業、ジェンダー、環境、水等の事務所から関係者が集まって、委員会が構成される。ジェンダーはクロス・カッティング・イシューであるため、このような調整委員会の多くに参加している。

| | |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月20日(水)午後2時 |
| 場所 | 農業省普及・研修局 |
| 訪問機関 | 農業省普及・研修局 |
| 面談者 | 1. Mr Fabian Muya- Deputy Director Extension and Training |
| 出席者 | (調査団)原田 |
| 収集資料 | |

現時点で、農業省の職員は 5448 名で、そのうち、126 名が本省に勤務している。その他に、SHEP UP のようなプロジェクトに派遣されている職員、他の省庁への出向者等は 159 名である(以下表参照)。新体制移行後に、本省の職員が大幅に削減された事実はない。確かに、ASDSP 等のプロジェクトが開始したことにより、本省職員が異動したり、あるいは退職者がいたりする一方で、新規職員の採用がないため、数が減少しているのは確かであるが、これは新体制への移行に伴い、職員が異動したことにより生じているわけではない。本省の業務が減っている事実はないので、一人ひとりの業務量が増えている。ただし、3 年後には、移行期間が終わり、本省は政策面に特化していく事になるので、一人ひとりの職員に対しての業務量は落ち着いてくると思う。

もし JICA のジェンダー案件がジェンダー・サブユニットを C/P とするため、職員の増員を要請するならば、農業省としては充分に対応できるものと思っている。また、その場合、「特にこの職員を」という希望があるならば、それに応えることは可能と思う。

農業省職員

| | Directorate | 職員数 |
|---|-------------------------------|-----|
| 1 | Agricultural Secretary Office | 3 |

| | | |
|---|-------------------------------------|-----|
| 2 | Extension and Training | 33 |
| 3 | Crops Management | 31 |
| 4 | Agribusiness and Market Development | 19 |
| 5 | Policy and External Relations | 19 |
| 6 | Agricultural Engineering Services | 21 |
| | Summary | 126 |
| | Projects, Secondment, Study leave | 159 |
| | Total | 285 |

| | |
|------|-----------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月20日(水)午後3時 |
| 場所 | 農業省政策局 |
| 訪問機関 | 農業省政策局 |
| 面談者 | 1. Mr Geoffrey Kituyi- Policy and external relation |
| 出席者 | (調査団) 原田 |
| 収集資料 | |

(政策局は、普及局や作物管理局に統合されると聞いたが、という問いかけに対して) そのような事はありません。(SHEP UP から共有された組織図(案)を見せると) これは、作物管理局や普及局の職員が、本省に残りたいが故に思い描いているだけのものに過ぎない。新憲法にもある通り、普及や作物と言った部署は、現場を対象とする業務であるのだから、カウンティに移るのが筋である。確かに今までは、様々な政策やガイドラインと言った文書をまとめあげる必要があったので、これらの部局が本省で多くの職員を擁していたが、必要な政策やガイドラインは既に作成されており、これからはなければならない事は、政策やガイドラインを現場で実施に移すことである。よって、これらの部局の職員の多くは最低限必要とされる者を除き、カウンティに異動するはずである。ATC や ATDC については、47 カウンティ全てにそれぞれが設置されるまでは、本省直轄になる。なぜならば、それまでは、複数のカウンティを担当しなければならないセンターがあるからである。全カウンティにセンターが設置された段階で、本省からカウンティへセンターが委譲されることになるだろう。

(それでは、ジェンダー・サブユニットはどうなるのかと言う問いに対して) ジェンダーは、クロスカッピング・イシューであり、どうしても普及局と一緒にある必要はない。国家政策の面でジェンダーは重要な課題であるので、その位置づけはともかくとして、本省に残るはずである。よって、JICA がプロジェクトを開始してもプロジェクト・マネジメントは本省におき、活動は県レベルで実施すると言う事になると思われる。

| | |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月21日(金)午前10時 |
| 場所 | EAAPP (Eastern Africa Agricultural Productivity Project) 事務所 |
| 訪問機関 | EAAPP |
| 面談者 | 1. Dr. Joseph Kamau - Deputy Coordinator |
| 出席者 | (調査団) 原田 |
| 目的 | 前日に実施された会合の結果を受け、新規案件との連携の可能性を確認するため |

| | |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 収集資料 | <ul style="list-style-type: none"> - Country Document - EAAPP - Project Implementation Plan - EAAPP - パワポ資料 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(EAAPP 概要)⁴⁶

EAAPP はエチオピア、タンザニア、ウガンダと共に、農業の適正技術開発及びその普及を目的に実施されているプロジェクトである。KARIを始め、多くの機関と連携している。普及面については、下記の要領で研修を実施している。

- ① プロジェクトが関係機関及び対象県農業事務所からそれぞれ3名までを招待し、1週間の ToT 研修を実施する。(全国レベル)
- ② 対象県農業事務所は、普及員を対象に当該研修を実施する。この際、当該研修を事務所の事業計画に入れ込み、予算を EAAPP に請求する。
- ③ 普及員が当該研修を農家グループに実施する。この際の予算手当は、県農業事務所の責任となる。
- ④ 実施結果について、EAAPP に報告する。(ただし、現場レベルでのモニタリングが適切に実施されているとは言い難い)

対象県は、酪農(14県)、小麦(7県)、コメ(6県)及びキャッサバ(6県)で、各県につき、2～3の農家グループが対象となっている。ただし、この農家グループには協同組合のようなグループが含まれている場合もあり、農家グループと一口に行ってもその大きさはさまざまである。また、受益者の合計は50万人であるが、例えば、協同組合が対象の場合は全組合員が受益者として数えられるものの、実際に対象作物を栽培している組合員は必ずしも全組合員ではない。

ナイロビにある本部に勤務する専門職員は6名であり、MoAを含む関連機関からの出向者で構成されている。

(ジェンダー分野)

ジェンダー研修も上述の研修システムに則って実施したが、どこまで効果的であったかは定かではない。研修以外では、ジェンダーに配慮した農業機材の開発に取り組んでいるところである。

(新規案件との連携の可能性)

農家レベルの普及に、ジェンダーを主流化させる事の重要性は認識しているものの、現時点ではほとんど何も出ていないのが実情である。従って、新規案件のようにジェンダーに特化したプロジェクトとの連携は非常に有意義だと考えられる。対象県や作物等についても今後の話し合いの中で調整していけば良いと思う。但し、ジェンダーと共に、ドラッグについても何らかのインプットをしてもらいたい。アルコールに係る問題は多くのコミュニティで非常に深刻である。検討してほしい。

なお、プロジェクトはWBからの融資を活用しているが、プロジェクトの実施機関はケニア政府であり、実施責任もケニア政府であるので、新規案件との連携についても、ケニア側と日本側が合意すれば、

⁴⁶ 概要については、「ジェンダー関連情報共有会合表1」についても併せて参照されたい。

何らの問題もない。

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月21日(金)午後2時 |
| 場所 | NAAIAP (National Accelerated Agriculture Inputs Access Program)事務所 |
| 訪問機関 | NAAIAP |
| 面談者 | I. Mr. Rymer Sikobe - Deputy Coordinator |
| 出席者 | (調査団)原田 |
| 目的 | 前日に実施された会合の結果を受け、新規案件との連携の可能性を確認するため |
| 収集資料 | |

(NAAIAP 概要)⁴⁷

NAAIAP は全国を対象としたプロジェクトである。但し、対象作物が主としてメイズであるため、全国がプロジェクトの対象であるが、メイズを栽培している 40 カウンティが実質的な対象地域である。年間の受益者は 35,000 人程度。主な活動は以下の通り。

① メイズ栽培農家への農業資材購入のためのバウチャーの支給

本活動の対象は、コミュニティによって最貧困層と特定された農家である。これら特定された農家に農業資材（肥料、種子等）購入のためのバウチャー（額面 1 万シリング前後。毎年、資材価格に合わせて見直される）を支給する。このバウチャーはプロジェクトの指定業者で農業資材に交換する事が出来るようになっている。プロジェクトでは、これらの農家をグループ化して、グループ毎に研修（農業技術、マーケティング、経理、収穫後処理等）を実施している。プロジェクトの支援は 1 年であるが、その後も継続的にこのグループが機能するよう、頼母子講の導入や共同で融資を受けたり（以下②参照）するよう勧めている。大体 3 割のグループがプロジェクトによる 1 年間の支援終了後も継続的に活動している。

② 農家に対する低利融資支援

金融機関に働きかけて、農家グループへの低利融資の促進を支援している。この場合はメイズ農家だけでなく、他の作物農家も対象となる。

(NAAIAP の研修の仕組み)

NAAIAP では最初に DAO や CDA を対象に導入ワークショップを実施し、NAAIAP アプローチを理解してもらおうようにしている。農業技術やプロジェクト管理に係る研修については、まず県職員（Subject Matter Specialist）を対象に実施し、その後県職員が普及員に、そして普及員が農家と言うように、カスケード方式で研修している。研修にかかる費用は全てプロジェクト持ちである。

(ジェンダー分野)

特に、ジェンダーを意識した活動は行っていない。但し、コミュニティが最貧困層を特定する際、女性戸主世帯を始めとする脆弱と考えられる世帯が対象となっている。

(新規案件との連携の可能性)

⁴⁷ 概要については、「ジェンダー関連情報共有会合表 1」についても併せて参照されたい。

ジェンダーの側面がプロジェクトに取り込まれる事は良いことだと思う。

| | |
|------|--------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月21日(金)午後3時半 |
| 場所 | ASCU (Agricultural Sector Coordination Unit)事務所 |
| 訪問機関 | ASCU |
| 面談者 | 1. Mr. Jens Rydder - Sector Coordination Advisor |
| 出席者 | (調査団)原田 |
| 目的 | 連携可能な事業についての情報収集 |
| 収集資料 | ASDSP Programme Document |

(ASCU 概要)

ASCU は農業セクターにおける政策や関係機関間の調整を図る事を目的とした機関である。今回の新体制への移行に伴い、その数は減ることになるが、これまでは 10 の関連省庁間⁴⁸の調整を行ってきた。農業セクターにおける調整メカニズムは以下の通りであり、重層的に構成されている。

- ① National Forum: 大統領を長とし、2年に一回開催される。
- ② National Steering Committee
- ③ Inter-ministerial Coordination Committee: 関連省庁により構成され、政策実施面についての決定を行う
- ④ Technical Committee: 省庁の部局レベル及び開発パートナーにより構成される。
- ⑤ Thematic Working Group (7 group): 有識者により構成される。7つのうち1つは、社会的側面に係るグループである。

ASCU はこれらのグループを調整する機関として位置づけられ、各省庁からの出向者により構成されている。

(ASDSP)

ASCU が政策・省庁間の調整を目的とした機関である一方、ASDSP はカウンティ、プログラムレベルの調整を行う機関として位置づけられている。47 カウンティ全てに County Coordination Unit が置かれ、主にバリューチェーン開発に特化した活動を実施する。ただし、ASDSP はあくまでも調整機関であり、実施機関ではないため、他の実施機関を支援する立場にある。ASDSP の直接的な活動は、ガイドラインの作成が挙げられる。

(ASDSP と新規案件)

新規案件が ASDSP と連携することによるメリットは大きいと思う。なぜなら、ASDSP は全国展開しているため、プロジェクト成果を他のカウンティに普及する際、そのネットワークを通じて実施すれば容易と思われるからである。例えば、GIZ が支援している PSDA はもうすぐ終了するが、Exit strategy として、これまでのバリューチェーンに係る経験を纏めたバリューチェーン・ガイドラインを ASDSP と一緒に取り纏め、全国に普及したい意向である。新規案件もこのような形で連携する事が出来ると思われる。

⁴⁸ Ministry of Agriculture, Ministry of Livestock Development, Ministry of Fisheries Development, Ministry of Cooperative Development, Ministry of Lands, Ministry of Water & Irrigation, Ministry of Regional Development Authorities, Ministry of Environment & Mineral Resources, Ministry of Forestry & Wildlife, Ministry of Development of Northern Kenya & Other Arid Lands

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月24日(月)14時 |
| 場所 | The World Bank (世界銀行) / Hill Park Building 2F 事務室 |
| 訪問機関 | The World Bank (世界銀行) |
| 面談者 | Mr. Andrew M. Karanja, PhD, Senior Agricultural Economist |
| 出席者 | (調査団) 久保田、原田、安部 |
| 収集資料 | KENYA GENDER POLICY NOTE: TAPPING THE POTENTIAL OF FARMING IN KENYA |

(EAAPP プロジェクト概要)

WBの資金援助(予算規模:3,000万USD)により農業省やKARI職員で構成されるユニットを実施機関として、農業生産性向上のためのプロジェクトEAAPPを実施している。

EAAPPの実務レベル責任者はProject CoordinatorのMuriuki氏だが、Team LeaderはWBの農業アドバイザーであるKaranja氏が務めており、プロジェクトに関わる決定権を持っている。

EAAPPでは4か国がそれぞれ1作物(農畜産物)を対象に技術開発を実施している。現在では、タンザニアがコメ、エチオピアが麦、ウガンダがキャッサバ、ケニアが畜産を対象。ただし各国で開発された技術・知識はその国のみならず4か国で情報共有され、ケニアでも全4アイテムの展示/試験栽培をモデル圃場にて実施し他農家への普及を実施している。

現在のフェーズ1は2014年までの予定だったが、最初の準備段階に費やした分として約1年間延期する方向で考えている。その後もフェーズ2として継続することを想定していく見込みで具体的な方策は未定である。

(WBのジェンダー方針)

WBにも以前はジェンダー専門家がおおり、WBで同様に資金援助していたKAPAPの取り組みの中で、「Gender Policy Note (GPN、収集資料参照)」を作成した。現在はジェンダー分野の専門家を抱えていないが、ジェンダーの意義は今も重視している。Karanja氏としては、JICAのジェンダー新案件がEAAPPとコラボすることについては農業省が了承すれば賛成とのこと。金銭的には同じバスケットにおかず、活動の中身でコラボレーションすることを希望している。また特に、Monitoring評価等での協力が希望されている。

カウンティ制に移行後もWBとして方針を特段変更するわけではないが、①カウンティ、サブ・カウンティの職員の能力低下、②財政の変更一等での影響を懸念している。

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月24日(月)15時15分 |
| 場所 | 5 th Avenue |
| 訪問機関 | Eastern Africa Agricultural Productivity Project (EAAPP) |
| 面談者 | 1. Ms. Jane N. Muriuki, Project Corrdinator 2. Mr. Joseph Kamau, (Deputy Coordinator) PhD, M. Roots & Tuber Specialist, KARI 3. Ms. Jedidah. M. Maina, PhD, Research Specialist 4. Mr. Doglas W. Indetie, Livestock Breeds Specialist |
| 出席者 | (ケニア事務所) 片山、(調査団) 久保田、原田、安部 |
| 収集資料 | EAAPP 活動概要 (予定) |

(EAAPP 活動概要)

- ・農家、農家グループを対象にした調査活動、畜産の技術改良、4 作物の普及活動を行っている。
- ・これまで普及活動を実施している対象地域は 32 県で、畜産が 14 県、コメが 6 県、キャッサバが 9 県、麦が 8 県（複数作物を実施している県もあり）である。裨益農家は述べ 10 万農家程度とみられる。
（県の詳細は資料が送られる予定）
- ・コメでは JICA が技術支援した作物管理局直下のユニット（Rice Promotion Unit）とも連携している。
- ・農業省と元畜産省の普及員、NGO のサービスプロバイダーを通じたトレーニング支援を実施している。32 県中、13 県において、パイロット圃場を作り、周辺農家へ波及させる体制づくりをしている。
（現場での実施体制の詳細を確認する必要あり）

(ジェンダー関連)

・EAAPP で行われているトレーニングジェンダー主流化コースは 1 コースのみで、ほとんど実施していない。一方でプロジェクトスタッフはケニア国内でのこれまでの現場の変化に関心を示している。現在の Gender Unit は現場関係者への巡回、トレーニング等により Gender 基準への理解を深めようとしているが、「我々が拡大していくことが必要だろう」と Project Coordinator は述べている。

(財源資金の流れ)

・カウンティ制に移行した後も、プロジェクトから直接サブ・カウンティに支出して活動を実施するから問題ないとのこと（他のプロジェクトでも同様とみられる）。ドナー資金は政府の流れと異なる流れで実施される。現在、8 県に口座が置かれて資金管理され、32 県へ分配されている。

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013 年 6 月 25 日（火）午前 9 時 |
| 場所 | Thika West Sub-county Agricultural Office |
| 訪問機関 | Thika West Sub-county Agricultural Office |
| 面談者 | 1. Ms. Rosemary Nyamu - SCAO 2. Ms. Jane Njoroge - Deputy SCAO 3. Mr. John Kiarie - Crops Development Officer 4. Ms. Muthoni Muriuki - Home Economic Officer 5. Mr. Duncan Kiama - Industrial Crops Officer 6. Ms. Constance Mgoa - Gender and Social Development Officer |
| 出席者 | （調査団）久保田、安部、原田（MoA） Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | |

(Thika West 県について)

Kiambu カウンティは 12 のサブ・カウンティから構成されている。Thika West はそのうちの一つで、23 人の技術職職員が配属されている。なお、Thika West の下には 2 つの区農業事務所がある。カウンティ内の主な作物は、メイズ、豆類、スイカ、ピーマン等である。各世帯の耕地面積は大体 1~2.5 エーカー程度。天水農業がほとんどであるため、雨不足が深刻な問題となっている。また、工業地域のため、男性の多くは工業関係の仕事に従事しており、建築用の岩の切りだし等も盛んである。

(新体制について)

これまでは農業省本省から指示が来たが、今後はカウンティの指示のもとに活動するようになる。本財政年度に係る予算については、農業省及びカウンティ政府双方に申請を行った。本来であれば、カウンティ政府に申請を行い、予算が配分を受けることになるはずだが、現時点では、カウンティ財務局は未だ機能していないため、本省から配分されることになる。但し、来年度以降は、カウンティから配分されることになるはずである。また、カウンティ政府の農業政策や方針についても、未だ明確ではないため、サブ・カウンティとしてどのような計画を立てるべきか定かではないところもある。

(事業計画策定)

これまでの事業計画策定の流れは次の通りである。県 (District) 事務所が、県と区 (Division) の事業計画 (予算を含む) を取り纏めて、10 月までに州 (Province) 事務所に対し提出する。その後、11 月～12 月にかけて、本省での取り纏めが行われ、2 月に財務省に送られ、6 月末までに新年度の予算が県事務所に通達されていた。通常、承認される予算は申請予算に満たないため、承認された予算に従い、事業計画の見直しを行っていた。本県に降りてきていた年間予算は平均約 2 百万シリングである。

(事務所の普及体制)

県事務所として、農家に対して、農業技術や適正技術に係る研修を行っている。宿泊を伴う研修も実施されるが、そのような場合は予算面に係る理由から、NGO やドナー等の組織と連携している。

(職員に対するジェンダー研修)

NALEP では、クロス・カッティング・イシューに係る研修を実施しており、その一環としてジェンダー研修も実施されていた。多くの職員や普及員はこの NALEP 研修の中でジェンダー研修を受けている。また、他にも農業省傘下の様々なプロジェクトが実施するジェンダー研修を受けたものもある。例えば、作物担当官は、最近 UPAP (Urban and Peri-Urban Agriculture Project) が主催したドラック及びジェンダーについての 1 週間研修に参加したばかりである。この研修では 2 日半ずつドラックとジェンダーに係る研修が実施され、ジェンダーを自分たちの活動の中に主流化させていくためのアクション・プランの作成も行われた。

(事務所のジェンダー主流化体制及びジェンダー活動)

これまでの県事務所においては次官がジェンダー担当であった。本省からは、新体制に移行後、誰がジェンダー担当になるかについての指示は来ていない。現次官は、旧体制下でも次官であり、そのためジェンダー担当でもあった。その次官によれば、大学等でジェンダーを学んだ事はなく、NALEP 等でジェンダー研修を受けた程度とのことである。また、過去に 1 度、NALEP からの資金を活用して、本省のジェンダー担当官を講師に招き、職員を対象としたジェンダー研修を実施した経験を有する。これまでに県で実施されている主なジェンダー活動は改良かまどや fireless cooker の農家に対するプロモーションであり、大体 10～15%の世帯が現在までに導入していると思われる。また、UPAP ではキッチンガーデンを推進しており、主な受益者は女性である。さらに、事務所の報告書には、それぞれの活動に係る参加者数を男女別に記載する事となっている。

(県ジェンダー・社会開発事務所)

県ジェンダー・社会開発事務所では、県内で設立されたグループの登録を行っている。登録する事で、グループは法的な位置づけを得る事となる。2012年12月時点で、県内で登録されたグループ数は4,175である。

(プロジェクト調整委員会)

セクターを跨いで実施されているプロジェクトについては、調整委員会が設立され、各セクターの代表が参加している。例えば、NMK (Njaa Marufuku Kenya) がそうである。ここには、ジェンダー・社会開発オフィサーも参加している。しかし、農業事務所だけが関与しているようなプロジェクトでは、このような委員会は設立されておらず、従って、ジェンダー・社会開発オフィサーがこれらのプロジェクトに直接的に関与する事はない。

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月25日(火) 午前11時 |
| 場所 | Municipality Division Agricultural Office |
| 訪問機関 | Municipality Division Agricultural Office |
| 面談者 | 1. Mr. John G. Ugugi - Division Agriculture Extension Officer (DAEO) 2. Ms. Lonar Irungu - Home Economic Officer 3. Mr. Anthony Mkiamui - Agribusiness Officer 4. Mr. Peter Kamau - Environment and Land Development Officer 5. Mr. Duncan Kiama - Industrial Crops Officer 6. Ms. Esther Mwirigi - FEO 7. Ms. Rosemary Nyamu - SCAO 8. Ms. Jane Njoroge - Deputy SCAO |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | |

(区農業事務所について)

DAEOを筆頭に、家政、アグリビジネス、作物、環境の各行政官が配置され、その下に3名の普及員がいる。

(これまでに受講したジェンダー研修について)

職員はこれまでに NALEP、PSDA、また公務員を対象とした研修センター等で、ジェンダーに係る研修を受講してきている。また、普及員についても、区事務所に対して、特に職位を指定することなく研修に係る通知が来た場合は、区職員と一緒に参加している。しかし、区職員がジェンダーについて、きちんと理解するためにはさらなる研修が必要と思われる。

(区職員の業務)

アグリビジネス：農家に対して、農業計画の作成を支援したり、マーケット情報を提供したりしている。マーケット情報を収集する事は自分たちの業務の一つである。現在は、3つの農家グループを支援している。また、必要に応じて、普及員に対して担当分野に係る支援を行っている。

家政：世帯におけるウオーター・ハーベスティング、キッチンガーデン、改良かまど等の導入推進に

についての活動を行うと共に、これらについての普及員の活動を支援している。

環境：ウオーター・ハーベスティング、アグロ・フォレストリー、土壌等に係る支援を農家に対して行っている。新技術については、プロジェクトによる研修等への参加を通じて習得している。

職員が農家グループに赴く時に必要な交通費等は、農業省予算から支出されるが、例えば、あるプロジェクトで行っている活動を実施するために農家グループを訪問する時は、その近隣のグループにも、併せて赴いたりするなどの工夫はしている。

(農家グループ)

区事務所が支援している農家グループの数は約 20 で、一つのグループにつき、平均で 18 名程度がメンバーである。一般的に、女性の方が様々なグループに参加していると言える。事務所としては、Vulnerable グループに対しても積極的に支援を行っている。例えば、障害者に対しては、彼・彼女らが使いやすい道具を紹介したり、関係機関との連携構築を支援したりするなどしている。

| | |
|------|-------------------------------------------|
| 日時 | 2013 年 6 月 25 日 (火) 午前 11 時 |
| 場所 | Municipality Division |
| 訪問機関 | 農家グループ (Umoja Self Help Group) |
| 面談者 | 男性 1 名、女性 12 名 |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | |

(グループ・メンバー)

現在グループには男性 5 人、女性 18 人が参加している。グループは 5 年前に設立され、当初は女性のみのグループであった。しかし、4 年前に NALEP のジェンダー研修を受けた担当普及員が、グループへの男性メンバー加入を検討するよう提案し、それを受けて、男性メンバーが参加するようになった。女性メンバーは寡婦、あるいは夫が遠隔地に働きに出ている者がほとんどであるため、夫婦そろってグループに参加している者はいない。メンバーの多くは耕作地を持っていないため、農業を生業としているわけではない。せいぜい、近隣の空いているスペースを使って、自家消費用の野菜等を作ったりしている程度である。所有権を持っていないため、常に追いたての危険があるのが現状である。多くのメンバーは小商いで生計をたてている。

(グループの活動)

アグロ・フォレストリーについて、普及員から教えてもらい、育てた苗木等を販売している。普及員が来てくれた時は、一軒の家に皆が集まり、一緒に講習を受けている。その他には、テーブル・バンキングや困窮したメンバーの支援等も行っている。少しずつグループのメンバーは増えているし、テーブル・バンキングで扱うお金も増えてきている。一定の資金が集まったら、養鶏を営んだり、果樹を導入するなどしてアグロ・フォレストリーで扱う樹木を増やしたりしたいと思っている。

| | |
|------|-------------------------------------------|
| 日時 | 2013 年 6 月 26 日 (水) 午前 9 時 |
| 場所 | Kieni West Sub-county Agricultural Office |
| 訪問機関 | Kieni West Sub-county Agricultural Office |
| 面談者 | 1. Mr. David K. Kriuki - SCAO |

| | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 2. Mr. Paul N. Warobu - Crop Officer 3. Ms. Anne G. Muchomba - Home Economic Officer 4. Mr. Mathat J. N. - Sub-county Livestock Officer 5. Ms. Muiru Jane Watetu - Social Development Officer |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | Kieni West 県概要資料 |

(Kieni West 県の概要)

資料に基づいて、農業事務所長が説明。

(県事務所の体制)

現在、人員不足から 2 名の職員が作物と普及、また家政とジェンダーをそれぞれ兼務している。

(SHEP UP 関係)

SHEP UP のジェンダー研修を受けて、農家グループは自分たちが作成したジェンダー行動計画に基づいて、fireless cooker、改良かまど、貯水用のタンク等の購入・設置を行うようになっている。今年度、本省から SHEP UP 関係の活動のために配分された予算は 5 万シリングに過ぎず、一連の SHEP アプローチを実施する事は不可能な状況にある。県には 9 名の普及員が配置されており、そのうちの 3 名が SHEP UP の活動に参加した。

(EAAPP)

EAAPP が本県で実施しているのは小麦種子の増産である。対象 4 農家グループに対して、プロジェクトが小麦種子を供与し、生産してもらっている。生産された種子は、供与したプロジェクト/KARI が買い戻し、種子認定に必要な作業を行い、その後販売している。小麦の種子はライセンスを持つ業者しか販売が許されていないため、生産農家が勝手に種子を横流ししないよう、プロジェクト開始にあたって覚書を取り交わしている。生産にあたって各グループは、プロジェクトから生産用種子及び肥料の供与、トラクター等農機の貸与を受けると共に、必要な研修を受講している。各グループのメンバーは平均 20 名前後で、それぞれのグループが 20 ヘクタール程度の農地を借り入れ、そこで共同作業を行っている。これは、生産された種子をプロジェクトが回収する際、農地毎に農家が手数料を支払う事になっているため、共同農地を持つ事で支払う手数料が少なくて済む事、また、回収する側にとっても手間がかからない等の利点があるからである。あと、トラクターを使つての農作業になるため、狭い農地では効果的に行えないと言う事もある。

プロジェクト実施にあたっては、県作物担当官を中心に、区職員、普及員がチームを構成し、農家に対し農作業に係る研修を行っている。またジェンダーに係る研修も実施している。内容は男女参加の必要性、収穫した小麦にどのように付加価値をつけるか等である。グループには、男女双方が参加しており、一緒に研修を受けている。

プロジェクトは今年で 3 年目だが、年に数回プロジェクトからその進捗状況の確認に来ている。また、こちらからもプロジェクトに対して四半期報告書を提出している。

(県農業事務所で開催されているその他のプロジェクト)

NMK、KAPAP、Traditional High Value Crops (THVC) を実施中である。KAPAP が当県において支援して

いる作物は、玉ねぎ、ジャガイモ、酪農である。KAPAP は普及活動を民営化する事を当初目的としたが、それは断念したようである。しかし、民間業者を活用して、プロジェクトを実施する方針は変わっておらず、県事務所としてはプロジェクトが何をしているのか良く分からない。点在する農家を対象に普及活動を行っていく事はコストがかかる事であり、多くの民間業者はそのような事をやりたがらず、プロジェクトの成果はあまり感じられない。最近、開始された ASDSP についてもこの間プロジェクトに係る会合が開かれたが、これから何を実施していくのか良く分からない。バリューチェーンに特化した活動を行うようで、各カウンティで 3 つの対象作物が選定されるとのことで、本カウンティではジャガイモ、養鶏、酪農が選定されたようである。今後、ASDSP 活動についてのワークショップが開催されると聞いている。

(県調整委員会)

県では、それぞれの行政事務所が実施している全活動について取り纏め、定期的に計画省に提出する事になっている。そのために、各事務所の代表及び地域のリーダーが集まって県開発委員会を組織し、4 半期ごとの会合を開いている。会合では、各事務所が年に 2 回程度、それぞれの活動について報告し合い、互いの活動についての知見を得ている。また、各セクターに跨るプロジェクトについては、セクター関係者が集まっての県調整委員会も組織されている。UMK がこれに当てはまる。しかし、SHEP UP や EAAPP は農業セクターだけなので、このような調整委員会は設置されていない。

(家政担当官の日常業務)

作物にどのような付加価値をつけるかと言った研修や改良かまど等に係る研修を行っている。基本的には、支援・助言を求めてきた農家グループに対して普及活動を実施している。農家グループに出向くための日当・交通費は、事務所の予算の中から支出されている。但し、十分な予算があるわけではないため、手当てされないこともある。

(県畜産事務所)

事務所は、4 名の専門職員及び 1 名の事務職員で構成されている。農業省に比べて人員が少ないため、現場レベルの普及員は配置されておらず、県内で活動する畜産事務所職員はこの 4 名だけである。事務所では、年間事業計画で普及活動の対象農家数を決め、その目標を踏まえて業務を行っている。対象は農家グループの場合もあるが、個々の農家の場合も少なくない。ある程度富裕な農家は、わざわざ農家グループに参加して活動するような時間はないようで、個人的に助言を受けたいと考えている。なお、対象農家であるが、事務所側が特定するのではなく、事務所に助言を求めてアプローチしてきた農家を対象とするデマンド・ドリブン方式を採用している。

(社会開発オフィサー)

Kieni West と Kieni East の 2 県を管轄し、両県で組織されるグループの登録を行っている。現在両県で登録しているグループの数は 1,076 である。事務所ではグループ立ち上げの方法、グループでもめ事が起こった時の解決方法、グループでどのように起業するかと言った研修を実施している。また、自分たちが実施したい活動が明確なグループに対しては、関連機関への紹介も行っている。今回の省庁再編に伴い、自分は Ministry of Labor, Social Security and Development に配属され、ジェンダー部とは切り離される。しかし、現場レベルでどのように今後活動していくかについて、上からの指示がないため、今後もジェンダー関連の業務を担当するのかどうかは定かではない。自分と

しては、上からの指示に従って業務を実施していただくだけである。

| | |
|------|----------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月26日(水) 午前11時 |
| 場所 | Kieni West Sub-county Agricultural Office |
| 訪問機関 | Mweigu 区農業事務所 |
| 面談者 | 1. Ms. Beatrice Kimunya - DAEO 2. Ms. Gieresa Gienuba - PEO |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | |

(ジェンダー関連)

SHEP UP でジェンダー研修が実施されたが、自分は担当普及員ではなかったため、研修には参加していない。また、NALEP にも参加する機会がなかったため、これまでにジェンダー研修を受けた事はない。しかし、区事務所の全普及員が参加する月例会合で、SHEP UP のジェンダー研修の概要について説明を受け、現在はその時に学んだ事柄を普及活動に活かしている。

(普及員に対する研修について)

プロジェクトや MoA が開催する各種研修に普及員も参加する機会がある。自分も温室栽培に係る研修を先日受けてきたところである。区事務所では、普及員に対する研修参加依頼がくると、順番で参加させている。各普及員が研修に参加する機会は年 1 回程度である。研修に参加した普及員は、習ってきた内容を他の普及員に説明・指導する事になっている。

| | |
|------|-------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月25日(火) 午後2時 |
| 場所 | Mweigu Division |
| 訪問機関 | 農家グループ (Evergreen Self Help Group) |
| 面談者 | 男性4名、女性13名 |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | グループの概要資料 |

(グループの概要)

グループは2010年9月に組織され、男性2名、女性8名でスタートした。当初の目的は頼母子講の実施であった。2011年4月には県に登録して、法人格を得ている。今年の5月に初めて県農業事務所と連絡を取り、支援を受けることになった。その結果、THVC の種子を供与され、現在、普及員の指導を受けながら、メイズ及び豆の生産を行っている。

(県事務所からの支援)

県事務所からは上述のように、THVC の種子を供与され、それと共に普及員からの指導も受けている。かつては、普及員から指導を受けるようなことはなかった。普及員の訪問は月 1 回である。普及員からの指導を受けるために、15 平方メートル程度の土地を実験圃場として、グループで借上げ、この圃場で習った技術を各世帯の農地で実践している。グループに供与された種子は 20 キロで、これをメン

パー間で分配した。収穫後は40キロを普及員に渡す約束になっている⁴⁹。また、ジェンダー研修/家計研修も受けたが、夫と妻が収入を共有する事のメリットに初めて気が付いた⁵⁰。

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月27日(木) 午前8時 |
| 場所 | Nyeri County Director of Agriculture Office |
| 訪問機関 | Nyeri County Director of Agriculture Office |
| 面談者 | 1. Ms. Teresa N. Kinyungu - ASDSP Coordinator ⁵¹ 2. Ms. Jane Ndung'u - KAPAP Coordinator / MoA Liaison Officer 3. Mr. Mathat J. N. - Sub-county Livestock Officer |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | カウンティの概要に係る資料 |

(カウンティの概要)

資料に基づいて、ASDSP コーディネータが説明。

(カウンティの体制)

カウンティでは、知事をトップに、その下に国政の内閣に相当する「Executive Committee」が置かれている。また、中央政府から派遣されたコミッショナーが知事の相談役として、カウンティ政府に参画する事になる。当カウンティの「Executive Committee」10名のメンバーで構成されることになっている。

農業の場合は、Executive Committee Member であるカウンティ農業大臣の下に農業長官 (Permanent Secretary) が置かれ、さらにその下には、農業、畜産、そして漁業を担当する各 County Director が配置されている。

CDA の下には、それぞれ作物、アグリビジネス、そして農業工学の次官がいる。ジェンダー担当については、未だ通達はないが、いずれかの次官が兼務する事になると思われる。

(カウンティの予算)

CDA は、2013/14 財政年度については、本省である農業省とカウンティ政府の両方に予算案を提出したが、今後はカウンティ政府に対して予算計画を提出する事になる。予算案策定の流れは、これまでの状況を踏まえると、前年度の9月頃までに CDA で予算を取り纏めてカウンティ政府に予算案を提出、その後、11月頃カウンティ政府が中央政府にカウンティ全体の予算案を送ることになると思われる。しかし、これからは中央政府からかなりの額の交付金がカウンティ政府に割り当てられることになっているが、いつ中央政府がカウンティ政府に交付金の総額を通知するのかが良く分からない。カウンティ政府はこれらの交付金額を含めて、予算案を計画しなければならないはずなので、予算案の提出が今までと同じような時期になるのかどうかは不透明である。また、農業省はカウンティを跨いで実施されているプロジェクトに係る予算を管理しており、これらはカウンティ政府を通らず、本省から直接プロジェクト活動に送られることになる。従って、プロジェクト予算がカウンティ政府の予算に

⁴⁹普及員は、この40キロを20キロずつ別の2グループに供与する予定。

⁵⁰ この普及員は SHEP UP に参加しているわけではないが、区事務所の月例会合で SHEP UP のジェンダー研修について学び、その知識を基に、グループに対して研修を実施したとのこと

⁵¹当初、調査団は CDA との面談を希望したものの、CDA 及び次官全員が地方での会合出席のため不在であったため、CDA のアレンジにより ASDSP のコーディネータを中心に面談を実施した。

含まれる事はない。しかし、各プロジェクトで全ての事が実施できるわけではないので、CDA 等と密に連絡を取りあっていく事が大切と言える。例えば KAPAP では、マーケティングに係る活動を行っているが、マーケット施設の建設に係る予算を持っていないので、もし、施設建設が必要な場合は CDA やカウンティ政府から資金拠出してもらい必要がある。また、カウンティとドナーが直接話し合い、新規プロジェクトの実施について合意する事が出来るようになるものの、署名については国家間で行うべき事項なので、中央政府の関与は必須である。なお、新聞報道によると 2013/14 財政年度の当カウンティの農業セクターの全体予算は 50 百万シリングと言われているが、定かな事はまだ分かっていない。

(カウンティにおける調整機能)

カウンティの農業セクターには、農業省から派遣されているリエゾン・オフィサー、カウンティ農業事務所長の CDA、そして ASDSP のコーディネータがいる。それぞれの役割は、リエゾン・オフィサーは本省と CDA 間のコミュニケーションの確保、CDA はカウンティ政府に対し責任を負い、ASDSP は農業セクター開発計画 (ASDP) がカウンティにおける適切な実施を促進する事である。なお、当カウンティのリエゾン・オフィサーは KAPAP のカウンティ・コーディネータが兼務している。

(ASDSP の業務)

Nyeri カウンティの ASDSP 事務所には、5 名の専門職員を含む 10 名の職員が勤務しており、それぞれの職員は、農業セクターを構成する農業、畜産、漁業の各部門からの出向者である。ASDSP の役割は農業セクターで活動する各種ステークホルダー間の調整を行う事である。カウンティには County Steering Committee (CSC) が組織されているが、その役割はカウンティが抱える課題を把握し、その解決策を導き出すことにある。今後は、ASDSP を中心にステークホルダーが共同で各プロジェクトの M&E も実施していきたいと思っている。なお、全国を網羅するような M&E フレームワークについては ASCU が開発中である。また、カウンティ間の連携を確保するための全国会議も実施されている。

(カウンティにおけるジェンダー主流化)

カウンティにおけるジェンダー主流化を促進していくためには、関係者のキャパシティ構築が不可欠である。特に、Executive Committee のメンバーに対するジェンダー啓発は重要と言える。また、予算にもジェンダーの視点を取り込まれることが必要であろう。一方で、カウンティで実施されている各農業プロジェクトにはジェンダー配慮が既になされており、問題はない。また、憲法に従って、公務員や政策決定者には 30%ルールが適用され、男女間のバランスが一定比率以下である事は許されなくなる。そのため、今後は男女双方が政策決定等に関わるようになるので、自然とジェンダー主流化は促進されて行くはずである。なお、これまで、積極的にジェンダー主流化に取り組んできたのは農業省関係の行政府である。NALEP 等を通じて、農民への普及活動に際しては、常にジェンダー主流化に対する働きかけが行われてきた。これは職員数が著しく少ないジェンダー省では実践できないことである。

(KAPAP) ⁵²

⁵² KAPAP コーディネータが、カウンティのリエゾン・オフィサーを兼務していることから本会合に参加し、KAPAP についての概要説明を行った。

KAPAP は、KAPP1 の後継案件である。KAPP1 の時から、プロジェクトでは政策-研究-普及の連携強化を目的に活動してきている。KAPAP では主にバリューチェーンに焦点を置いた活動を実施しており、特に民間業者との連携構築を中心に活動を行っている。プロジェクトで対象農家グループに資金援助を行い、プロジェクトの指定業者から必要なサービスが受けられるように支援しているのである。ケニア政府は普及活動の民営化を推進しており、KAPAP の活動はその政策に沿うものとなっている。但し、メイズや豆類と言った自給自足的な作物については、それぞれの作物からの収益が少ないため、農家が民間業者と契約し、必要なサービスを購入する事は難しいだろう。

プロジェクトでは、データ収集、データ分析及び環境に係る研修を県の行政官（家政・畜産担当官）に実施した。研修に参加した行政官は他の行政官に同様の研修を実施する事が期待されている。

Nyeri カウンティ内の支援対象地区は 6 県 12 区の 24 ロケーションで、カウンティの約 30%をその対象としている。

(EAAPP)

EAAPP が当カウンティで活動しているのは知っているが、詳しい活動内容についてはわからない。このように、他のプロジェクトが何をしているのかが分からない事は多く、だからこそ ASDSP のような調整機能が必要である。

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013 年 6 月 27 日（木）午前 11 時 |
| 場所 | Wambugu Agricultural Training Centre |
| 訪問機関 | Wambugu Agricultural Training Centre |
| 面談者 | 1. Mr. Josphat Gathiru Muhunyu - Principal, Kenya School of Agriculture (KSA) 2. Mr. Peter Muchiri Dawnel - Principal, Wambugu ATC |
| 出席者 | (調査団) 久保田、安部、原田 (MoA) Ms. Beatrice Mwaura |
| 収集資料 | Wambugu ATC 概要資料 KSA による研修に係る概要資料 KSA 主催研修コース (2012/2013 年度) 一覧 |

(KSA について)

KSA は、国内唯一の普及員を対象とした農業訓練学校であり、農業普及に係る様々な短期研修コースを実施している。かつては、エンブにあったものの、ナイロビ大学のエンブへの拡張に伴い、昨年、当地に移設となり、Wambugu ATC に間借りする形になっている。予算は、年間で 32 百万シリング。14 名の座学及び実地訓練を担当する講師、そして 10 名の事務職員が勤務している。また、研修内容に応じて、適宜外部リソースを活用している。

現在は、短期コースのみを提供しており、農業省の直轄であるが、今後は長期研修、つまり学位を取得できる大学として拡張していきたいと考えている。但し、その場合は教育省からの認定も必要となってくる。近年はブルンジやスーダン等からの研修生も受け入れ、対象地域の拡大を図っている。

(KSA の研修)

全国を対象としたニーズ調査の実施を通じて、普及員のニーズを把握し、それに基づいて KSA で提供する研修の内容を決定している。なお、KSA が対象とする普及員は、必ずしも農業省の普及員に限定

されているわけではない。保健省等、現場で普及活動を行う職員は全て対象であり、かつ NGO や民間企業の職員もその対象となる。最も、受講者の約 75% は農業省職員である。どのような研修が実施されているかは、「研修コース一覧」を参照してほしい。なお、ジェンダーに係る研修は全ての研修に入れ込まれており、大体 4 時間程度の時間を割り当てている。講師は、県農業事務所の家政担当官等に依頼している。

また、農業省普及・研修局から要請を受け、研修を実施する事もある。

(研修に係る経費について)

研修生は受講料を支払う必要があり、研修運営は研修生から支払われる受講料で全て賄われている。なお、受講料は一旦全て国庫に送られる。

(ATC について)

ATC は農家研修に特化した研修センターであり、農業や畜産技術に係る学びの場を提供している。農家は座学のみではなく、ATC 内の様々な実験圃場を活用して、新しい技術に触れることができるようになってきている。全国 27 の ATC は施設その他で若干の相違はあるものの、同じ目的を持って、運営されている。

本 ATC に勤務する講師は 6 人で、年間予算は 4 百万シリングである。ATC の主な活動は以下に述べる通りであるが、これらの活動を通じて、収入創出を図っている。

① 研修コースの実施

農家を対象とした研修については、宿泊を伴う数日間の研修コースと 1 日研修コースの両方がある。宿泊を伴う研修については、予算にもよるが最低四半期に一度は実施するようになってきている。本 ATC が対象とする各県の農業事務所にモデル農家の選定を依頼し、それらのモデル農家が研修に参加している。一回につき大体 30 名程度の農家の参加がある。この場合、研修費用は全て ATC 持ちとなる。モデル農家の条件は、ここで習った事を他の農家に教えることができる事である。

1 日コースについては、デマンド・ドリブンの方針としており、ATC に問い合わせてきた農家を対象に必要と思われる研修を行っている。ATC については、テレビやラジオでも宣伝されており、新しい技術を習得したいと思う多くの農家が、ATC を訪れている。

② アウトリーチ・プログラム

ATC 職員は基本的にセンターから 5 キロ圏を超えて出張する事は出来ない。しかし、圏外の農家も必要とされる技術を学ぶ事ができるように、普及員が ATC を訪問し、必要とされる技術を学び、担当する農家に研修を行う仕組みを作っている。

③ オープン・デイ

技術を学びたいと思う農家が、事前予約なしでも ATC を訪問し、新しい技術を学ぶことができるように、毎週木曜日をオープンデイとし、ATC を開放している。この日は、全ての職員が他に予定をいれず、訪問する農家に対応できるようにしている。変動はあるものの、毎月合計 1,000 人以上の農家がオープン・デイに ATC を訪問している。

④ フィールド・デイ

ATC では 50 以上の業者と契約を結び、校内の実験圃場の貸し出しを行っている。各業者はこの圃場で自分たちが販売している農業資材を試すことで、ATC を訪れた農家がそれぞれの資材を比較検討できるようになっている。また、年に一度、フィールド・デイとして、業者と農家が対話できる日を設け

ている。昨年のフィールド・デイには1万人以上の農家が参加した。

⑤学校との連携

高校や大学では農業関係の授業も実施されているが、それぞれの学校で実技を学ぶことは難しい。そのため、ATCでは学校と連携し、実地に係る授業の場を提供している。

⑥種子増産

KARI等の農業研究所と連携して、種子の提供を受け、それを増産して農家を対象に販売している。ATCで増産された種子は認定されているので、直接農家に販売できる。

(ジェンダー関連)

毎週行われるオープン・デイでは、男性農家の数が多いが、昨年行われたフィールド・デイでは女性農家の数が男性農家を上回った。小規模農家においては、通常男性が意思決定権者なので、男性の方が各種技術に関心があり、かつATCを訪れるための時間の自由もきくためと思われる。しかし、上述のように昨年のフィールド・デイでは女性農家の方が多かった。

ATCではジェンダー研修は行われていないが、ジェンダーに配慮した技術や農機具の紹介などは行っている。なお、農機具の製作は行っていない。

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 2013年7月3日(水) 午前9時 |
| 場所 | 農業省 |
| 訪問機関 | Traditional High Value Crops プロジェクト |
| 面談者 | 1. Ms. Mary Karanja - Project Coordinator 2. Mr. Ishadrack Oyugi - Deputy Coordinator |
| 出席者 | (調査団) 西野、久保田、後藤、原田 |
| 収集資料 | |

(プロジェクトの概要)

プロジェクト期間は2006年～15年。予算は年150百万シリング程度で、ケニア政府からの予算である。予算の94%は種子の購入に充てられている。なお、2010年～12年にかけて世銀から300百万シリングの拠出を受けた。

プロジェクトの目的は以下の通り。

- 世帯における食糧安全保障の確立及び栄養改善
- 現在のメイズ生産に依拠した作物生産から多様な作物栽培への多角化
- 高品質種子へのアクセス改善
- 乾燥地及び準乾燥地農業への支援
- 自家消費分を賄い、かつ余剰分が出た際に販売できるよう農家の生産性向上

(プロジェクト対象地域及び農家)

本プロジェクトは乾燥地及び準乾燥地において、農業生産が著しく落ち込んだ年に、貧困農家の支援を目指して始められたのを発端とする。これらの地域はケニア国内で7～8割を占めている。対象県は、当初の60余県から100県超に増加した。グループ・アプローチを採用しており、基本的にはNALEPが組織したCIG(Common Interest Group)を対象とすることが多い。対象グループは、基本的に農地を

持っている事、貧困層に属する事、Vulnerable group に分類される障がい者、女性戸主世帯等であるが、最も重要な事は、プロジェクト活動に参加する意欲である。

(プロジェクト活動)

①種子増産・配布

KARI の協力を得て、農家に種子等を供給。これまでに種子 54 万トン、サツマイモ 18 百万蔓、キャッサバ 80 百万株等を 2.3 百万農家に配布した。種子等の提供を受けた農家グループは翌年の収穫後、提供を受けた 2 倍の量をプロジェクトに返納し、プロジェクトではその種子を新規の 2 農家グループに提供している。なお、プロジェクトでは普及員を通じて種子を農家に対して配布しているが、ATC を通じても種子の配布及び販売も行っている。

②キャパシティ構築

これまでに 13 万人の農家及び農業省職員がプロジェクトから研修を受けている。まずプロジェクトが県職員に研修を行い、その後、区職員、普及員、農家代表、一般農家の順にカスケード方式の研修システムを採用しており、研修費用はプロジェクト持ち。なお、プロジェクトで実施する研修の頻度は、毎年 1 回程度である。研修参加者の約 6 割が女性。近年、プロジェクトでは、農業の商業化を目指して、複数の小規模農家グループが集まって農作物の共同販売を行う「Commercial Village」を推進している。

対象県からは、各活動に係る報告書を四半期ごとに提出してもらっている。

(他機関との連携)

FAO や GIZ から種子の提供を受けたり、あるいは WFP の「Purchase for Progress」プロジェクトで生産物の買い取りを行ってもらったりしている。また、NGO を招いて、職員への研修講師を務めてもらう事もある。

(他事業との連携)

同じ農業省のプロジェクトである NAAIAP と連携して活動を行う事がある。NAAIAP では、まもなくフェーズ 2 の開始が予定されているが、NAAIAP フェーズ 1 の活動である農家への農業資材買い取り用の「バウチャー」支給は、フェーズ 2 では、本プロジェクトと連携して実施される予定である。また、四半期ごとに実施されるプロジェクト調整委員会も NAAIAP と共同で実施している。この委員会のメンバーは合計 16 名で、農業省の各部局の代表と共に、種子や肥料の民間会社や農家代表も参加している。

(ジェンダー視点のプロジェクトへの取り組み)

特にジェンダーを意識した活動は実施していない。しかし、本プロジェクトで配布している種子の多くは「女性用」作物のものであり、女性の生計向上に貢献する結果となっている。

(プロジェクトの成果)

プロジェクトが実施したモニタリング調査によれば、プロジェクトの成果として、対象農家世帯において、以下の変化が認められる。

- 収入の向上

- 家畜の購入
- 貧困削減
- 高品質種子の使用

6. 農業省傘下プロジェクト情報共有会合議事録

| | | | | |
|------|-----------------------|------------------|----------------|----------------------------------------|
| 日時 | 2013年6月20日(月) 午前11時 | | | |
| 場所 | 農業省会議室 | | | |
| 参加者 | | | 所属/Project | Title |
| | 1 | Fabian Muya | MoA | Deputy Director Extension and Training |
| | 2 | Mary Ambal | MoA | Head/Cross cutting unit |
| | 3 | Beatrice Mwaura | MoA | Head/Gender sub-unit |
| | 4 | Francis Muthami | PSDA/GIZ | Programme Manager |
| | 5 | R. Ndunge Mwanza | ASDSP | Value Chain Specialist |
| | 6 | Esther Musyoka | NAAIAP | M&E Officer |
| | 7 | Jane Ngugi | KAPAP | Gender/Social Specialist |
| | 8 | Wilson G. Oduori | NMK | M&E |
| | 9 | Clement Muyewu | EAAPP/MoA | |
| | 10 | Nzeru A. Muriyki | SHOMAP | M&E/ICT |
| | 11 | Yoko Harada | Mission Member | |
| 12 | Sebastian Odanga | JICA Kenya | | |
| 収集資料 | 各プロジェクトによるプレゼンテーション資料 | | | |

目的

1. 農業省で実施されている事業におけるジェンダー主流化に係る活動について情報を共有する。
2. JICA が計画している新規案件についての情報を共有すると共に、参加者からフィードバックを得る。

概要

1. 各プロジェクトの概要及びジェンダー主流化活動に係る発表

各プロジェクトの概要及びジェンダー主流化活動について、各参加者が発表を行った。その概要は表1に示す通りである。なお、それぞれの発表資料については参照のこと。

プロジェクトが開始して間もない ASDSP については、詳しい活動内容についての説明はなく、またジェンダー主流化に係る活動についても、優先事項であると述べるにとどまった。一方、農業省が中心となって実施されている NMK、NAAIAP、EAAPP については、関係者へのジェンダー研修、女性参加への配慮が中心で、包括的なジェンダー主流化に係る活動が実施出来ていないと率直に認めている。一方、PSDA、KAPAP、SHOMAP は、ジェンダー主流化を積極的に実施しているとしたが、成果から鑑みるに改善の余地がまだまだあるものと思料される。なお、SHEP/SHEP UP についても同様の発表を行った。

2. 新規案件に係る情報共有

調査団より新規案件の目標(案)及び活動(案)を紹介すると共に、可能であれば、他の事業と連携して実施したい旨を述べる。それに対し、参加者からは、各事業との連携の可能性は充分にあるものと思われる事、しかし、参加者の多くが他事業との連携を話し合うような立場ではないため、調査団

に対して、各事業のプロジェクト・マネジャーもしくはコーディネータと連絡を取り、詳細を話し合うよう提案した。また、参加者からは、本会合で話し合われた内容について、プロジェクト・マネジャーもしくはコーディネータにブリーフィングする事で合意した。

7. 小規模農家支援事業概要

| | |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Agricultural Sector Development Support Programme (ASDSP) |
| 実施機関 | MALF |
| 主たる資金拠出機関 | SIDA |
| 期間 | 2012年1月～2016年12月 |
| 予算 | 約60億Ksh (約70億円) |
| 対象地域 | 全国(各カウンティにMOAから出向している担当官を配置し、プロジェクト・ユニットを設立。各担当官の下に4名のスタッフが置かれている) |
| 対象作物 | カウンティ毎に特定 |
| 受益者 | 農業セクター関係者 |
| プロジェクトの目的 | <ul style="list-style-type: none"> - 農業セクター開発戦略(ADSD)の実現のため、関係者間の調整を行う - 環境配慮及びバリューチェーンにおける関係者の包摂 - バリューチェーンを通じて、実現性があり公平な農業商業化の推進 |
| ジェンダー関連活動 | <ul style="list-style-type: none"> - 社会包摂とジェンダー平等の推進 - 社会包摂とジェンダー平等に係る戦略・ガイドラインの策定 |
| MALF 担当部局 | 普及・研修局 |

| | |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | East African Agricultural Productivity Programme (EAAPP) |
| 実施機関 | MALFを中心にKARI等の研究機関多数と連携 研究機関が農業技術の開発を行い、MALFが普及を担当。 複数国を対象とするプロジェクトであり、Association of Agricultural Researchers in East and Central Africa (ASERECA), Ugandaが技術面でバックストップの役割を担う。 |
| 主たる資金拠出機関 | WB |
| 期間 | 2010年～2014年 |
| 予算 | 3000万USドル(約30億円) |
| 対象地域 | 32県(酪農14県、小麦4県、コメ5県、キャッサバ7県) |
| 対象作物 | 酪農、小麦、コメ、キャッサバ |
| 受益者 | 貧困層 |
| プロジェクトの目的 | 適正技術開発を通じての農家の生産性向上 (ケニア、エチオピア、タンザニア、ウガンダの各国がプロジェクトに参加し、それぞれが一つの作物に特化して、研究及び適正技術開発を行う。ケニアは畜産、エチオピアは小麦、タンザニアはコメ、ウガンダはキャッサバ。研究成果を各国で共有) |
| ジェンダー関連活動 | <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト・スタッフ及び関係者へのジェンダー研修 - ジェンダーに配慮した農業機材の開発 - 性別データの収集 - 普及面ではグループ・アプローチを採用しており、一般的にグループ参 |

| | |
|-----------|------------|
| | 加は女性の方が多い。 |
| MALF 担当部局 | 普及・研修局 |

| | |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Kenya Agriculture Productivity and Agribusiness Project (KAPAP) |
| 実施機関 | MALF。対象カウンティに 3 名のプロジェクト・スタッフで構成されるテクニカル・チームを配置。現場レベルの活動は MALF、KARI 職員が実施 |
| 主たる資金拠出機関 | WB |
| 期間 | 2003 年 7 月～2013 年 12 月 2014 年以降、後継案件開始予定 |
| 予算 | 約 1 億米ドル (約 100 億円) |
| 対象地域 | 各州より合計 20 カウンティを選抜 |
| 対象作物 | カウンティ毎の特定 |
| 受益者 | 農家グループ サービス・プロバイダー (民間業者がチームを組み、農家にサービスを提供 : 全国で約 100 チーム) |
| プロジェクトの目的 | 小規模農家の農業生産性及び収入の向上 |
| プロジェクト活動 | ① 政策策定支援 ② 農業研究 ③ 農業普及体制、農家及び関係者のエンパワメント ④ アグリ・ビジネス及びマーケット支援 |
| ジェンダー関連活動 | - ベースライン調査実施 (ジェンダー視点を含む) - 関係者へのジェンダー啓発 - 実施機関のキャパシティ構築 - 各層へのジェンダー・フォーカル・ポイントの配置 - 草の根レベルでの意思決定過程への女性の参加率 30%の確保 - 活動実施に際してのジェンダー視点の導入 - M&E 及びレポーティングへのジェンダー視点の導入 |
| ジェンダー活動成果/課題 | (成果) - 全体で女性農家の参加率 43%を達成 (課題) - 作物別グループの男女構成は、伝統的な価値観を反映。商業作物へは男性が中心。 |
| MALF 担当部局 | 普及・研修局 |

| | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | National Accelerated Agriculture Inputs Access Program (NAAIAP) |
| 実施機関 | MALF |
| 主たる資金拠出機関 | GoK/WB |
| 期間 | 2007 年より 6 年間、第 2 フェーズ開始の可否を現在検討中 |

| | |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 予算 | 約 40 億 Ksh (約 47 億円) |
| 対象地域 | 40 カウンティ (全国対象だが、実際は対象作物であるメイズ生産地域に限定される) |
| 対象作物 | メイズ |
| 受益者 | 貧困層 (250 万人)、特に寡婦、寡夫、女性戸主世帯、子供戸主世帯 |
| プロジェクトの目的 | 基本的な農業資材へのアクセス改善を通じて、貧困層に属する小規模農家 (土地面積 1 ヘクタール以下) の生計向上 |
| ジェンダー関連活動 | - 報告書への性別データの導入 |
| ジェンダー活動成果/課題 | - グループ・アプローチを採用しており、多くの場合グループを構成しているのは女性である (女性の割合 47%)。 - 頼母子講等、女性が慣れている資金調達方法を各グループで採用 |
| MALF 担当部局 | 普及・研修局 |

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Njaa Marufuku Kenya (MNK) |
| 実施機関 | MALF |
| 主たる資金拠出機関 | GoK |
| 期間 | 2005 年～2015 年 |
| 予算 | 約 11 億 Ksh (約 13 億円) |
| 対象地域 | 全国 |
| 対象作物 | 特になし |
| 受益者 | 貧困層 |
| プロジェクトの目的 | 貧困削減 (プロポーザル方式を通じて、グループ活動への現金支給) |
| ジェンダー関連活動 | - プロポーザルを評価する際、女性参加が多いグループに高い配点 - 各地域のプロジェクト担当は、農業事務所の家政担当官であるため、女性が多数を占める - ジェンダー研修をグループに対し実施 |
| MALF 担当部局 | 普及・研修局 |

| | |
|-----------|---------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Promotion of Private Sector Development in Agriculture (PSDA) |
| 実施機関 | MALF/GIZ、両機関から人が派遣され、プロジェクト・ユニットを構成 |
| 主たる資金拠出機関 | GIZ |
| 期間 | 2003 年 7 月～2013 年 12 月 (2014 年以降、後継案件開始予定) |
| 予算 | 1,000 万ユーロ (約 12 億円) |
| 対象地域 | セントラル、リフト・バレー、ニャンザ、ウエスタンの各州の 29 カウンティ |
| 対象作物 | 園芸作物、畜産他 |
| 受益者 | 農業ポテンシャルがある程度高い地域の小・中規模農家 |

| | |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクトの目的 | バリュー・チェーン・アプローチを通じて、対象農家のマーケティング活動を支援し、国内・国際市場への参入を目指す |
| ジェンダー関連活動 | <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトジェンダー担当の任命 - ベースライン調査の実施（ジェンダー視点を含む） - 以下のジェンダー関連活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> ①異なるバリュー・チェーンに係るジェンダー・イシューの把握及び文書化（性別労働分担、意思決定プロセス、資源のアクセス・コントロール等） ②男女及び若者の効果的な参加を図るための指標の開発 ③ジェンダー格差がどのように生産性に影響を与えているかについての確認 ④ジェンダー主流化戦略の特定 ⑤プロジェクト関係者のジェンダーに係る理解度の確認 ⑥政策決定者への提言（政策対話） |
| ジェンダー活動成果/課題 | <ul style="list-style-type: none"> - 男女別のプロジェクトインパクトに係る情報/データの欠如 - 性別統計の欠如 - M&E の枠組みの欠如 - プロジェクト・スタッフの低いキャパシティ - ジェンダーに係る政策を現場レベルで実施する事が出来ていない |
| MALF 担当部局 | 作物管理局 |

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Rice-based and Market-oriented Agriculture Promotion Project (RICE-MAPP) |
| 実施機関 | MALF/NIB/JICA、各機関から人が派遣され、本省にプロジェクト・ユニットを構成 |
| 主たる資金拠出機関 | JICA |
| 期間 | 2011年～2016年 |
| 予算 | 6.8億円 |
| 対象地域 | ムエア灌漑地区 |
| 対象作物 | コメ |
| 受益者 | 灌漑稲作農家 |
| プロジェクトの目的 | - 生産性向上、マーケット支援を通じた小規模稲作農家の生計向上 |
| ジェンダー関連活動 | <ul style="list-style-type: none"> - ジェンダー分析調査の実施 - ジェンダー研修教材の作成と研修の実施 |
| MALF 担当部局 | 作物管理局 |

| | |
|-----------|----------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Small-scale Horticulture Development Project |
| 実施機関 | NALF |
| 主たる資金拠出機関 | ADB |
| 期間 | 2008年～2014年 |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 予算 | 約 20 億 Ksh (約 23 億円) |
| 対象地域 | 全国 9 灌漑地区 |
| 対象作物 | 園芸作物 |
| 受益者 | 小規模農家 |
| プロジェクトの目的 | - 灌漑施設インフラ建設・整備とマーケット支援を通じた農家の生計向上 |
| ジェンダー関連活動 | - ジェンダー分析調査の実施 |
| MALF 担当部局 | 作物管理局 |

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion Unit Project (SHEPUP) |
| 実施機関 | MALF/JICA、両機関から人が派遣され、本省にプロジェクト・ユニットを構成 |
| 主たる資金拠出機関 | JICA |
| 期間 | 2010 年 3 月～2015 年 3 月 |
| 予算 | 5.9 億円 |
| 対象地域 | 全国 |
| 対象作物 | 園芸作物 |
| 受益者 | 小規模園芸農家 |
| プロジェクトの目的 | - 生産性向上、マーケット支援を通じた小規模園芸農家の生計向上 - 農業省における小規模園芸農家支援に係る情報システム整備 |
| ジェンダー関連活動 | - ジェンダー主流化に係る一連の活動の実施 (ジェンダー分析調査、ジェンダー関連研修、モニタリング調査等) - 各種活動における男女同数参加の徹底 |
| MALF 担当部局 | 作物管理局 |

| | |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Smallholder Horticulture Marketing Programme (SHoMAP) |
| 実施機関 | MALF |
| 主たる資金拠出機関 | IFAD |
| 期間 | 2014 年 6 月までの 7 年間 |
| 予算 | 2,343 万米ドル (IFAD ローン分) (約 23 億円) |
| 対象地域 | 全国 7 カウンティ (Gusii, Bungoma, Bomett, Nandi, Embu, Meru, Nyandarua) の 14 県 |
| 対象作物 | 園芸作物 |
| 受益者 | 農家グループ (12,000 世帯) 様々なプロジェクト活動を通じて、各県で全農家世帯の 25%が何らかの裨益を受けることが予想される。 |
| プロジェクトの目的 | - 園芸作物の生産性向上 |

| | |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的 | - 農業資材及び市場システムの改善 |
| ジェンダー関連活動 | - コミュニティからのプロジェクト・プロポーザルシステムを採用し、その評価の際、若者及び女性グループを優先 - プロジェクト活動における性別データの収集 - ジェンダー研修の実施 |
| MALF 担当部局 | 研修・普及局 |

| | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| プロジェクト名 | Traditional High Value Crops (HTVC) |
| 実施機関 | MALF (職員 2 名がプロジェクト・ユニットを構成) |
| 主たる資金拠出機関 | GoK |
| 期間 | 2006 年～2015 年 |
| 予算 | 年 1.5 億 Ksh 程度 (約 1.7 億円) |
| 対象地域 | 乾燥及び半乾燥地域 (当初の 60 余県から 100 県超に拡大) |
| 対象作物 | 豆類、キャッサバ、サツマイモ等 |
| 受益者 | 農家グループ (農地を保有する貧困層対象) |
| プロジェクトの目的 | 小規模農家の農業生産性及び収入の向上 |
| プロジェクト活動 | ① 農家グループへの種子 (豆類) 提供 ② 県職員・普及員・農家グループのキャパシティ構築 ③ 農業の商業化を目指しての、小規模農家グループ支援 |
| ジェンダー関連活動 | - 特にジェンダーを意識した活動は行っていないが、プロジェクトで配布している種子の多くは「女性用作物」のものであるため、女性の生計向上に寄与する結果となっている。 |
| MALF 担当部局 | 作物管理局 |

注) 各事業の予算は 1 ドル=100 円=85Ksh、1 ユーロ=120 円で計算

